Ⅱ区1号井戸（第162図）

番号	種　類	器種・器形	計測値(口・高・底)	特　徴・その他	備　考
1	肥前磁器	碗	11.0　5.3　4.1	見込み蛇の目釉剥ぎ。外面雪持ち笹？と梅樹文。	波佐見系
2	製作地不詳陶器	碗	(10.8)　6.5　4.3	体部は丸みを有し、口縁部下がくびれ、口縁部は小さく外反する。高台は低く、丁寧に削り出す。高台内の削りは浅く、中央が僅かに突出する。外面に竹状の植物文を上絵付けする。植物文は輪郭を黒、茎と葉を緑、葉の先端の一部を黄色で描く。文様の反対側に赤で銘を記す。内面から高台脇に長石釉を施す。釉には二重貫入が入り、主貫入には墨を入れる。	関西系
3	瀬戸・美濃陶器	碗	9.9　5.6　4.1	内面から口縁部外面に粗い貫入の入る灰釉、高台内から体部外面に鉄釉。釉境に螺旋状凹線。	腰錆碗
4	瀬戸・美濃陶器	瓶	－　－　8.8	底部外面から体部上位回転篦削り。体部下位、篦削りにより稜線をつくる。肩部から篦削り境まで櫛掻き文を巡らす。体部中位二ヵ所窪ませる。底部外面から体部内面中位まで錆色の鉄釉を施し、底部外面のみ釉を拭う。	徳利
5	瀬戸・美濃陶器	片口鉢	12.1　6.5　5.3	貼り付け高台であろう。高台と高台脇の形状と大きさは碗と同じである。口縁部外面に1条浅い凹線を巡らす。内面から口縁部外面に灰釉を施す。貫入入る。見込み目痕三ヵ所。片口一ヵ所に貼り付ける。	
6	製作地不詳陶器	灰落とし	3.6　6.4　4.0	内面と腰部以下無釉。外面に淡黄色の化粧土を掛け、透明釉を施す。外面に菊を上絵付けする。茎と葉を黄緑、花を紫がかった青で描く。底部外面回転篦削り。	口縁端部のほぼすべてが小さく欠ける。関西系。
7	石製品	石臼(下)	径39.0　高さ12.5	割れた状態で出土。ふくみは浅い。	粗粒輝石安山岩
8	鉄製品	刀子	17.9　2.3　0.5	両刃作り。基部やや曲がる。	

Ⅵ区3号土坑（第162図）

番号	種　類	器種・器形	計測値(口・高・底)	特　徴・その他	備　考
9	石製品	砥石	(9.5)　2.7　2.4	1面使用、3面に製作痕残る。	砥沢石

Ⅱ区1号溝（第162図）

番号	種　類	器種・器形	計測値(口・高・底)	特　徴・その他	備　考
10	在地系土器	皿	(9.9)　1.7　6.0	体部は広く拡がり、口縁部は丸味を持って立ち上がる。底部左回転糸切り無調整。	
11	肥前陶器	青緑釉皿	－　－　(4.8)	見込み蛇の目釉剥ぎ。内面から口縁部外面に青緑釉を施す。口縁部外面から高台外面に透明釉を施す。	内野山系
12	瀬戸・美濃陶器	すり鉢	－　－(12.0)	底部右回転糸切り無調整。錆釉を施した後底部の釉を拭う。内面使用により摩滅。	
13	石製品	砥石	(8.8)　4.5　4.4	不定形、1面使用。断面台形。	砥沢石

Ⅱ区2号溝（第162・163図）

番号	種　類	器種・器形	計測値(口・高・底)	特　徴・その他	備　考
14	肥前陶器	碗	(12.0)　－　－	外面東屋山水文を描く。松や東屋を大きく描く。	陶胎染付
15	肥前磁器	蓋物	(7.8)　6.7　(5.3)	筒型を呈し、高台径は大きい。外面に横線を染め付ける。口縁端部上面から内面の釉を掻き取る。器壁薄い。	
16	肥前磁器	瓶	－　－　5.6	体部は丸く張る。体部外面に花卉文を描く。	
17	瀬戸・美濃陶器	菊皿	－　－　(7.0)	内面から口縁部外面に灰釉を施す。見込み目痕一ヵ所残る。	
18	肥前陶器	鉢	－　－(10.0)	内面白土を刷毛塗りする。体部外面上位は白土で波状文を描き、下位から高台外面に鉄泥を薄く塗る。内面施釉。	唐津系
19	瀬戸・美濃陶器	すり鉢	－　－　－	底部右回転糸切り無調整。錆釉を施した後底部の釉を拭う。内面使用により摩滅。底部内面のすり目は同心円状。	
20	石製品	砥石	(3.4)　2.3　1.4	細く磨り減った端部片。	砥沢石

Ⅱ区3号溝（第163図）

番号	種　類	器種・器形	計測値(口・高・底)	特　徴・その他	備　考
21	在地系土器	火鉢？	(23.0)　－　－	外面は回転篦削りの後、粗い磨き。口縁部内側に屈曲する。酸化炎焼成。	

Ⅱ区1号集石（第163図）

番号	種　類	器種・器形	計測値(口・高・底)	特　徴・その他	備　考
22	肥前磁器	碗	(10.8)　4.6　4.2	見込み蛇の目釉剥ぎ。外面雪持ち笹に梅樹文を描く。	波佐見系
23	瀬戸・美濃陶器	甕	(14.0)　－　－	口縁部はほぼ直立する。外面浅い螺旋状凹線巡る。内外面錆色の鉄釉を施す。口縁端部上端目痕二ヵ所。	焼き歪みあり。
24	瀬戸・美濃陶器	水手付き瓶	－　－　(8.2)	外面黄釉を施す。高台内から高台外面無釉。注ぎ口貼り付ける。	
25	製作地不詳陶器	蓋	4.6　2.0　3.3	天井部内面右回転糸切り無調整。天井部外面柿釉を施す。	

番号	種　類	器種・器形	計測値(口·高·底)	特　徴・その他	備　考
26	肥前磁器	瓶	3.2　－　－	肩部撫で肩。頚部は細く伸び、口縁部は外反する。肩部外面に文字の染め付け。	
27	在地系土器	焙烙	(37.6)　5.7(34.2)	外面底部から体部下位型作り痕残る。型作り痕上には紐作り痕明瞭に残る。底部と口縁部に補修孔あり。底部内面、枠内に小型の菊花状文と「大極上」と考えられる押印あり。燻し焼成。	体部外面のみ煤付着。
28	在地系土器	不詳	(31.0+α)　(17.5)	外面焙烙などと同じ型作り痕。現存部分で３面に体部を貼り付ける。平面形は長方形を呈すると考えられる。	
29	石製品	砥石	8.0　5.5　2.2	楕円形を呈し、使用面は平らに磨られている。	軽石
30	鉄製品	刀子	(8.5)　1.2　0.3	先端がやや反る。	
31	銅製品	蓋状製品	3.8　1.7　－	端部の留め具か。	

Ⅱ区２号集石（第163図）

番号	種　類	器種・器形	計測値(口·高·底)	特　徴・その他	備　考
32	瀬戸・美濃陶器	瓶	(17.5)　－　－	底部回転糸切り後周縁から体部下端回転篦削り。外面鉄釉を施し、底部外面から体部下端の釉を拭う。	徳利

Ⅱ区３号集石（第163図）

番号	種　類	器種・器形	計測値(口·高·底)	特　徴・その他	備　考
33	瀬戸・美濃陶器	皿	(23.3)　6.0 (13.0)	高台内の一部を除き灰釉を施釉。底部内面周縁に沿って銅緑釉を線状に掛ける。底部内面周縁に段差を有し、体部は緩く内湾する。口縁部は外側に開き、中央が凹線状に窪む。底部内面に目痕一ヵ所。	
34	丹波陶器	すり鉢		体部下位外面斜めの指押さえ状圧痕あり。内面使用により摩滅。	
35	石製品	砥石	(9.3)　3.2　4.0	角柱状、１面使用、鑿状工具による製作痕。	デイサイト

Ⅱ区４号集石（第164図）

番号	種　類	器種・器形	計測値(口·高·底)	特　徴・その他	備　考
36	在地系土器	皿	(11.2)　2.8 (6.4)	底部外面左回転糸切り無調整。体部緩く内湾し、口縁端部外面は直立する。底部内面周縁強い回転撫でにより凹線状に窪む。	中世
37	肥前陶器	碗	(10.6)　6.8　4.6	外面に東屋山水文を描く。	陶胎染付
38	肥前陶器	碗	－　－　4.9	高台外面に２条、高台脇に１条圏線巡る。	陶胎染付
39	石製品	砥石	(7.5)　2.6　3.1	２面使用、中央部厚く両端部薄くなる。	砥沢石
40	石製品	砥石	11.0　3.0　3.9	２面使用、中央部厚く両端部薄く磨り減り台形となる。	砥沢石
41	石製品	砥石	(8.4)　3.7　3.1	３面使用、中央部厚く両端は薄くなる。	砥沢石

Ⅱ区１号列石（第164図）

番号	種　類	器種・器形	計　測　値	特　徴・その他	備　考
42	石製品	砥石	(5.1)　3.0　1.7	両面使用、中央が厚く両端部薄くなる。	砥沢石
43	鉄製品	環状製品	7.3　2.1　－	長円形の環状製品。	

Ⅱ区１号盛り土（第164図）

番号	種　類	器種・器形	計測値(口·高·底)	特　徴・その他	備　考
44	瀬戸・美濃陶器	皿	(13.0)　－　－	内面の底部と体部境に小さい段差を作る。貫入の入る灰釉を施す。	御深井
45	搬入系土器	皿	－　－ (4.0)	底部左回転糸切り無調整。底部内面周縁やや強い回転撫で。体部は広く広がり、胎土は緻密。	底部外面不明墨書。
46	瀬戸・美濃陶器	仏飯器	(7.1)　－　－	外面口縁部下まで回転篦削り。体部は丸味を持ち、口縁部は直立気味。内外面飴釉。	
47	志戸呂陶器	灯明受皿	9.2　2.2　4.7	底部外面から体部下半回転篦削り。内面から口縁部外面鉄泥を施す。受け部にはアーチ状の流入口を一カ所設ける。	内外面の一部油付着。
48	搬入系？土器	ミニチュア	2.7　2.8　1.9	家屋のミニチュア。型は前後ではなく、対角線上での二分割のため、平面形は平行四辺形をなす。また、棟も対角線方向を向いている。胎土は緻密で硬質に焼き上がる。	
49	石製品	軽石製品	6.8　4.1　1.0	小判形で表裏が磨り面。側縁部も磨って成形している。	二ッ岳軽石
50	鉄製品	包丁	(17.0)　5.2　0.3	先端部欠損、刃部は磨り減る。	

Ⅵ区１号盛り土（第164図）

番号	種　類	器種・器形	計測値(口·高·底)	特　徴・その他	備　考
51	銅製品	取っ手	7.6　5.7　0.9	菱形で引き手部は楕円形。	

Ⅱ区１号土手（第164図・165図）

番号	種　類	器種・器形	計測値(口·高·底)	特　徴・その他	備　考
52	瀬戸・美濃陶器	蓋	(13.9)　3.2 (7.7)	壺の蓋。底部右回転糸切り無調整。雑なつまみを貼り付ける。天井部外面に錆釉を雑に施す。	

番号	種　類	器種・器形	計測値(口·高·底)	特　徴・その他	備　考
53	在地系？土器	皿	12.0　3.0　7.0	底部左回転糸切り無調整。器壁厚く、器高高い。器表一部剥離する。他の皿と器形・胎土が異なる。	口縁部油多く付着。口縁欠損部にも油付着。
54	瀬戸・美濃陶器	蓋	(11.7)　2.7　15.9	壺の蓋。底部右回転糸切り無調整。雑なつまみを貼り付ける。全面に錆釉を化粧程度に掛ける。	
55	肥前磁器	碗	10.0　5.2　3.8	雪輪梅樹文。高台内不明銘。	波佐見系
56	肥前磁器	碗	9.7　5.1　3.8	外面コンニャク判による井桁内に桐と桐文を各三ヵ所に施文。高台内簡略化した「渦福」字銘。	波佐見系
57	肥前陶器	碗	(10.4)　7.1　(5.2)	残存部が少なく東屋は見えないが、山水文を描く。口縁部は雲状の文様。	陶胎染付
58	肥前陶器	碗	(11.0)　7.4　(5.4)	外面に東屋山水文を描く。口縁部と高台脇に圏線を巡らす。	陶胎染付
59	肥前陶器	碗	(9.4)　－　－	外面に東屋山水文を描く。口縁部と高台外面に圏線を巡らす。	陶胎染付
60	瀬戸・美濃陶器	皿	12.9　2.7　6.7	高台は断面三角形。外面は口縁端部付近まで回転篦削り。内面から口縁部まで灰釉を薄く施す。見込みには高台を直接重ねて焼成した痕跡が残る。	
61	瀬戸・美濃陶器	皿	(14.0)　－　－	口縁部は直線的に外傾する。器壁は厚い。胎土は黒灰色を呈する。残存部全面に灰釉を施す。	
62	瀬戸・美濃陶器	碗	(10.8)　6.7　5.0	内面から高台脇に飴釉を施した後、口縁部に灰釉を掛ける。	尾呂茶碗
63	瀬戸・美濃陶器	片口鉢	(16.4) 10.1　7.9	貼り付け高台。腰部外面は回転篦削りにより滑らかな曲線を描く。口縁部外面から体部内面は凹線を巡らす。口縁端部は肥厚する。内面から口縁部外面に貫入の入る灰釉を施す。口縁部外面に銅緑釉を流す。見込み目痕三ヵ所。	
64	瀬戸・美濃陶器	碗	(14.0)　－　－	大型の碗。内面から高台脇に貫入の入る灰釉を施す。	
65	瀬戸・美濃陶器	瓶	－　－(11.2)	寸胴型の体部外面に柿釉を施す。底部外面と底部周縁の篦削り部の釉は拭う。内面は薄く錆釉状に釉が掛かる。	徳利
66	瀬戸・美濃陶器	すり鉢	－　－(12.0)	全面に錆釉を施すがムラがある。底部右回転糸切り無調整。	底部内面から体部下位使用により摩滅する。
67	在地系土器	焙烙	(37.7)　5.3 (34.0)	耳は一ヵ所残る。外面底部から体部下位型作り痕残る。型作り痕上には紐作り痕明瞭に残る。燻し焼成。	体部外面に煤付着。
68	在地系土器	焙烙	(35.8)　5.5 (33.0)	外面底部から体部下位型作り痕残る。型作り痕上には紐作り痕明瞭に残る。燻し焼成。	体部外面煤付着。
69	在地系土器	焙烙	(40.3)　5.4 (34.6)	外面底部から体部下位型作り痕残る。型作り痕上には紐作り痕明瞭に残る。燻し焼成。	体部外面の一部に煤付着。
70	在地系？土器	人形	よこ(4.4)高さ(4.1)	型作り無釉の土製品。大黒様の背面下半で、袋と俵の表現が認められる。	
71	石製品	砥石	(4.1)　2.9　2.0	角柱状、1面使用。製作痕残る。	砥沢石
72	石製品	砥石	(7.6)　3.7　3.2	断面方形。2面使用。	粗粒輝石安山岩
73	石製品	砥石	(8.7)　4.2　2.5	2面使用、中央部厚く両端部薄くなる。	砥沢石
74	石製品	石臼(上)	径(33.0)高さ11.5	半分に割れている。	粗粒輝石安山岩
75	鉄製品	包丁	(18.2)　5.6　0.2	刃の部分が曲線となる。	
76	銅銭				
77	銅銭				
78	銅銭				
79	銅銭				

Ⅱ区3号土手（第165・166図）

番号	種　類	器種・器形	計測値(口·高·底)	特　徴・その他	備　考
80	肥前磁器	碗	9.9　5.1　4.1	外面二重網目文。	波佐見系
81	肥前磁器	碗	10.0　5.1　4.1	外面雪輪梅樹文。高台内不明銘。	波佐見系
82	瀬戸・美濃陶器	碗	－　－　5.6	内面から高台脇飴釉。高台内から高台脇は端部を除き飴釉を化粧的に掛ける。高台内部中央盛り上がる。	
83	製作地不詳	すり鉢	(34.0) 13.1 (15.8)	底部外面板底で砂付着。外面体部下端篦削り。外面は轆轤目が残る。口縁部は屈曲して立ち上がる。口縁端部上面は窪む。内面のすり目を施した後、口縁部回転横撫で。口縁部内外面鉄泥を施す。	内面一部すり目が消えるほど使用する。信楽系？。
84	石製品	砥石	10.5　4.2　5.0	1面使用、三角形を呈す。	砥沢石
85	石製品	砥石	14.1　2.7　1.2	扁平で細長い。1面使用、磨り面やや波打つ。	砥沢石

Ⅱ区4号土手（第166図）

番号	種　類	器種・器形	計測値(口·高·底)	特　徴・その他	備　考
86	肥前陶器	碗	(10.9)　7.0　4.6	高台端部を除き透明釉を施す。釉には細かい貫入が入る。	呉器手
87	瀬戸・美濃陶器	瓶	(5.0)　－　－	口縁部は受け口状をなす。残存部内面から外面に鉄釉を施す。肩部外面の一部は飴釉状をなす。	徳利

番号	種　類	器種・器形	計測値(口·高·底)	特　徴・その他	備　考
88	丹波陶器	すり鉢	(29.8) 9.8 (15.0)	底部外面板底で砂付着。底部外面と体部外面の火前側は灰が掛かり白みを帯びる。体部外面下端篦削り後撫で。外面轆轤目残る。口縁部は肥厚し、内側に突き出す。内面のすり目を施した後、口縁部回転撫で。	底部内面から周縁使用により摩滅する。
89	在地系？土器	人形		右手に小槌、左手に袋を持つ。かなり立体的な大黒様。表裏を別の型で作り中央で貼り付ける。	大黒様
90	在地系土器	焙烙	(31.2) 4.9 (27.7)	外面底部から体部下位型作り痕残る。型作り痕上の紐作り痕は撫で消す。燻し焼成。	
91	在地系土器	焙烙	(35.0) 4.7 (33.0)	外面底部から体部下位型作り痕残る。型作り痕上には紐作り痕明瞭に残る。燻し焼成。	体部外面煤付着。92と同一個体の可能性高い。
92	在地系土器	焙烙	(36.2) 5.0 (33.0)	外面底部から体部下位型作り痕残る。型作り痕上には紐作り痕明瞭に残る。燻し焼成。	体部外面煤付着。91と同一個体の可能性高い。
93	在地系土器	焙烙	(39.0) 5.0 (36.2)	外面底部から体部下位型作り痕残る。型作り痕上には紐作り痕明瞭に残る。燻し焼成。	体部外面煤付着。
94	在地系土器	焙烙	(38.3) 5.1 (37.0)	体部下位の型作り痕は殆ど撫で消す。体部中位のは紐作り痕明瞭に残る。燻し焼成。	体部外面煤付着。
95	石製品	砥石	(8.4) 2.9　3.1	断面方形。1面使用、他の面には製作痕残る。	砥沢石

Ⅱ区5号道（第166図）

番号	種　類	器種・器形	計測値(口·高·底)	特　徴・その他	備　考
96	肥前陶器	碗	(10.8) 9.1　5.1	器高高い。外面唐草文を描く。	陶胎染付
97	肥前磁器	碗	10.4　5.6　4.5	外面に雪輪梅樹文を描く。高台内不明銘。底部付近酸化焼成気味。	波佐見系。焼成不良。
98	肥前磁器	碗	(9.5) 5.1　4.0	外面に雪輪梅樹文を描く。高台内不明銘。	波佐見系

Ⅱ区畑（第166図）

番号	種　類	器種・器形	計　測　値	特　徴・その他	備　考
99	石製品	砥石	(9.6) (3.9) (1.8)	定形品、磨り面平坦で面取りされている。	珪質粘板岩
100	石製品	砥石	(6.3)　2.7　2.1	小型品、角柱状で1面使用。	デイサイト

Ⅱ区遺構外（第167～169図）

番号	種　類	器種・器形	計測値(口·高·底)	特　徴・その他	備　考
1	瀬戸・美濃陶器	碗	(13.2) 6.0 5.3	高台幅は広く、高台脇は水平に広がる。内面から高台脇白土を施した後、灰釉を掛ける。貫入入る。高台内から高台脇無釉。	
2	肥前磁器	皿	13.6 3.5 6.6	見込み蛇の目釉剥ぎ。見込みコンニャク判による五弁花。口縁部内面簡略化した唐草文。	波佐見系
3	肥前磁器	皿	13.0 3.2 8.2	体部内面に簡略化した松竹梅文、見込みに五弁花を描く。 体部外面は唐草文、高台内は圏線内に「大明年製」崩れ銘を描く。	波佐見系。内面の釉使用により擦れる。
4	瀬戸・美濃陶器	菊皿	13.4 3.7 5.8	内面から高台脇に灰釉を施し、口縁部内面に銅緑釉を流す。貫入入る。 内面目痕三ヵ所残る。	
5	肥前磁器	皿	12.8 3.7 4.5	体部内面に２重線文を描く。高台径は小さい。見込み蛇の目釉剥ぎ。	波佐見系
6	肥前磁器	皿	12.7 3.8 4.3	体部内面に２重線文を描く。高台径は小さい。見込み蛇の目釉剥ぎ。	波佐見系
7	肥前磁器	皿	12.7 4.9 4.5	体部内面に２重線文を描く。高台径は小さい。見込み蛇の目釉剥ぎ。	波佐見系
8	肥前磁器	小碗	(6.9) 3.5 2.6	口縁部外面に直線上の笹文？を描く。	波佐見系？
9	瀬戸・美濃陶器	小香炉	(5.2) 4.6 3.0	輪高台を有する。口縁部内面から体部下位外面に灰釉を施す。	
10	瀬戸・美濃陶器	灯明受皿	8.9 2.1 4.0	底部外面から口縁部外面回転篦削り。錆釉施釉後、外面の釉を拭う。受け部に一ヵ所「コ」字状の流入口を設ける。受け部の貼り付けは雑。	
11	瀬戸・美濃陶器	灯明皿	8.5 1.8 4.1	底部外面から口縁部外面回転篦削り。錆釉施釉後、外面口縁部以下の釉を拭う。	
12	瀬戸・美濃陶器	灯明受皿	9.5 1.7 4.2	底部外面から口縁部外面回転篦削り。錆釉施釉後、外面の釉を拭う。受け部に一ヵ所「U」字状の流入口を設ける。	
13	瀬戸・美濃陶器	甕	19.1 20.6 13.1	外面口縁部下に２条凹線を巡らす。内面から高台外面錆色の鉄釉を施す。内面底部周縁と口縁端部上面に目痕三カ所残る。	
14	瀬戸・美濃陶器	瓶	2.8 － －	肩部は撫で肩で、頸部は細く伸びる。体部外面には窪みが一ヵ所残る。他方は欠損。外面から口縁部内面錆釉を施す。	徳利
15	製作地不詳	軒先瓦	－ － －	焼き締まるが燻しがかかっていない。	
16	在地系？土器	人形	－－ －	前後二つの外型で作り、中央で接合して仕上げる。正座した女性を象る。表面に型離れをよくするための光沢を有する粉が付着する。	
17	製作地不詳陶器	甕	(31.8) － －	頸部は非常に短く、口縁端部は広い平坦面をなす。外面鉄釉を施した後、頸部に灰釉を流し掛ける。口縁端部上面から内面自然釉が薄く掛かる。	
18	石製品	石臼(下)	径38.5 高さ16.9	厚みがある。ふくみは浅い。	粗粒輝石安山岩
19	石製品	石臼(上)	径35.0 高さ14.5	厚みがあり、配り穴は上下からの食い違いあり、挽き手取り付け部は大きく作られている。	粗粒輝石安山岩
20	石製品	石臼(上)	径(29.5)高さ13.6	半分を欠く、摩滅著しい。横打ち込み穴が見られる。	粗粒輝石安山岩
21	石製品	硯	(6.5) 5.4 (1.7)	陸部の破片、剥離が著しく使用面わずかに観察される。	頁岩
22	石製品	砥石	(8.5) 3.5 1.5	１面使用、一端が薄く舌状となる。	デイサイト
23	石製品	砥石	(9.4) 3.8 (1.5)	定形品の剥離片、風化が著しい。	珪質粘板岩
24	石製品	砥石	13.4 3.0 2.8	２面使用、中央が厚く、両端が薄くなる。側面に製作痕。	砥沢石
25	石製品	砥石	(3.9) 4.0 (1.0)	定形品の剥離片か。	珪質粘板岩
26	石製品	軽石製品	5.3 4.9 2.3	厚みのある円盤状を呈す。中央からややずれた位置に穴が空く。	軽石
27	鉄製品	火打ち金か	5.2 2.8 0.3		
28	鉄製品	釘	4.6 1.7 0.6	頭部分環状。折れ曲がる。	
29	銅銭				

Ⅵ区遺構外（第169～171図）

番号	種　類	器種・器形	計測値(口·高·底)	特　徴・その他	備　考
30	在地系土器	皿	9.3　1.8　7.0	底部左回転糸切り無調整。外面の底部と体部境は明瞭であるが、内面は不明瞭。底部内面螺旋状轆轤目明瞭。轆轤目間の間隔が広く、突帯状に見える。	二次的なものか否か不明であるが、内面黒色。
31	搬入系土器	皿	－　－（3.2）	小型で器壁が薄く、胎土が緻密である。底部内面と体部境いったん盛り上がった後窪む。	底部外面に不明墨書。
32	搬入系土器	皿	－　－　4.0	小型で胎土は緻密。底部左回転糸切り無調整。底部内面周縁凹線状に窪む。	底部外面不明墨書。
33	在地系土器	皿	9.2　2.5　5.1	底部回転糸切りと思われるが、植物状圧痕の付着により不明瞭。内面底部周縁凹線状に窪む。見込みは平坦でなく凹凸目立つ。	
34	肥前磁器	碗	10.1　5.2　4.2	外面雪輪梅樹文。高台内不明銘。	波佐見系
35	肥前陶器	碗	10.5　7.0　4.6	外面に山水文？を描く。	陶胎染付
36	肥前陶器	碗	11.4　7.1　5.1	外面植物文と口縁部に簡略化した四方襷状文様を描く。	陶胎染付
37	肥前磁器	碗	11.3　4.9　4.2	外面梅樹文。見込み蛇の目釉剥ぎ。	波佐見系
38	瀬戸・美濃陶器	筒形碗	（7.8）6.7　4.4	外面に鉄絵具で樹木を描く。高台脇から内面灰釉を施す。胎土・焼成・釉調共に柳茶碗と同様。	
39	肥前陶器	碗	（10.7）7.9　4.6	腰は張らず、口縁部は高く延びる。内面から高台内に透明釉を施す。高台端部無釉。貫入入る。	呉器手碗
40	肥前陶器？	碗	12.0　6.7　4.9	高台内を深く抉り込む。内面から高台脇に回転を使用して刷毛で白土を薄く掛ける。内面から高台脇に透明釉を施す。意図的か否か不明であるが、体部外面に一ヵ所窪みが認められる。	
41	瀬戸・美濃陶器	碗	9.6　5.6　4.6	内面から口縁部外面に粗い貫入の入る灰釉、高台内から体部外面に鉄釉。釉境に螺旋状凹線。	腰錆碗
42	肥前磁器	皿	（13.0）3.6　4.3	見込み蛇の目釉剥ぎ。高台径小さい。	波佐見系
43	瀬戸・美濃陶器	皿	（22.0）6.0　8.4	大型の高台から体部は内湾気味に広く開く。口縁部は外方に屈曲する。内面から高台脇に灰釉を施す。見込み蛇の目状に釉を剥ぐ。貫入入る。	
44	肥前陶器	皿	12.2　3.4　4.0	見込み蛇の目釉剥ぎ。口縁部内面に簡略化した染め付け。高台内から高台脇無釉。	波佐見系
45	肥前陶器	鉢	（38.4）－　－	内面方による施文後、白土を掛ける。白土は文様部分のみでなく、全体に及ぶ。内面から口縁部外面施釉。	三島手
46	製作地不詳陶器	不詳	（8.4）8.4　7.1	隣り合った面の文様構成が同様であることから、平面形は正方形と推定される。四方面の周囲を骨組み状に囲い、この部分にはやや白濁した透明釉を施す。枠組み内は無釉で、型押しによって文様を浮き出させる。底面は欠損するが、残存部から無釉であることが解る。底部の四方は小さく突出して脚状をなす。	
47	京・信楽系陶器	灯明受台	－　－　5.0	脚底部外面から周縁丁寧な回転篦削り。脚部外面透明釉。細かい貫入入る。	
48	在地系土器	焙烙	（38.0）5.5（33.6）	外面底部から体部下位型作り痕残る。型作り痕上には紐作り痕明瞭に残る。燻し焼成。	体部から口縁部外面煤付着。口縁部、銅製鎹で一ヵ所補修。
49	志戸呂陶器	灯明受け皿	10.5　2.4　4.8	体部外反する。受け部は高く、一対のアーチ状流入部を設ける。内面から外面体部下位に鉄泥を施す。	
50	在地系土器	灰落とし？	（14.7）6.7　（9.7）	燻し焼成。口縁部から体部外面は磨き調整。内面調整は粗く、接合痕残る。短い脚を貼り付ける。脚は本来三ヵ所であるが、二ヵ所残存。	口縁端部上面器面殆ど剥離する。
51	在地系土器	焙烙	（39.8）5.0（35.0）	外面底部から体部下位型作り痕残る。型作り痕上には紐作り痕明瞭に残る。燻し焼成。	体部から口縁部外面煤付着。口縁部、銅製鎹で一ヵ所補修。
52	在地系土器	焙烙	（38.8）5.0（35.0）	外面底部から体部下位型作り痕残る。型作り痕上には紐作り痕明瞭に残る。燻し焼成。	体部から口縁部外面煤付着。口縁部、銅製鎹で一ヵ所補修。
53	在地系土器	焙烙	（39.0）5.1（34.4）	外面底部から体部下位型作り痕残る。型作り痕上には紐作り痕明瞭に残る。燻し焼成。	体部から口縁部外面煤付着。
54	石製品	凹石	径（21.4）高さ11.0	鉢状を呈す。	二ッ岳軽石
55	石製品	碁石か	径　2.1　厚さ 0.5	表面やや風化。	珪質粘板岩
56	石製品	硯	（2.5）6.5（0.9）	海部の小破片、剥離している。	頁岩
57	石製品	砥石	（8.9）2.8　2.6	2面使用、中央が磨り減る。製作痕残る。	砥沢石
58	石製品	砥石	12.1　2.9　3.3	両端部薄く磨り減る、風化顕著。	砥沢石
59	石製品	砥石	（5.6）3.1　3.1	1面使用、使用面は斜めに磨り減る。両側縁に製作痕。	砥沢石
60	石製品	砥石	（8.9）3.1　2.5	3面使用、端部薄く磨り減る。	砥沢石
61	石製品	砥石	（7.4）2.9　4.4	1面使用、端部斜めに磨り減る。製作痕残る。	砥沢石
62	石製品	砥石	（7.4）3.9　2.7	4面使用、一端が細く磨り減る。刃潰らし溝あり。	砂岩
63	石製品	砥石	（11.4）4.4　2.3	不定形、側面使用。斜めに磨り減る。	砂岩
64	石製品	石臼（上）	径32.5　高さ 8.4	薄く作られ、ふくみは浅い。挽き手取り付け部が付く。	秋間石　65と対で泥流中より出土。
65	石製品	石臼（下）	径32.5　高さ10.2	ふくみは浅い。	秋間石　64と対で泥流中より出土。

第８節　天明３年以降　（０面）

泥流堆積以後の遺構を０面として記載する。II区において建物跡、列石、土坑（墓）が検出されている。この他、近現代の遺構として井戸なども確認されているが、現在まで使用されていたものもあり報告からは除外した。

II区１号建物跡（172図、ＰＬ50）

II区の北端において建物の礎石が東西方向に２列検出されている。検出された礎石は、東西４間（19.0m）、南北１間（4.8m）で北側に延びているものと思われる。南東側は攪乱で大きく壊されている。かなり大きな建物である。礎石は径１m程に掘り込み、中央にやや大きな石１ないしは２段上面が平らになるように置き、廻りに小振りの礫を入れている。西側に南北に走る溝が検出されており、建物跡に伴うものと思われる。

幕末から明治にかけて建てられたものと考えられる。

II区１号列石（第172図、ＰＬ50）

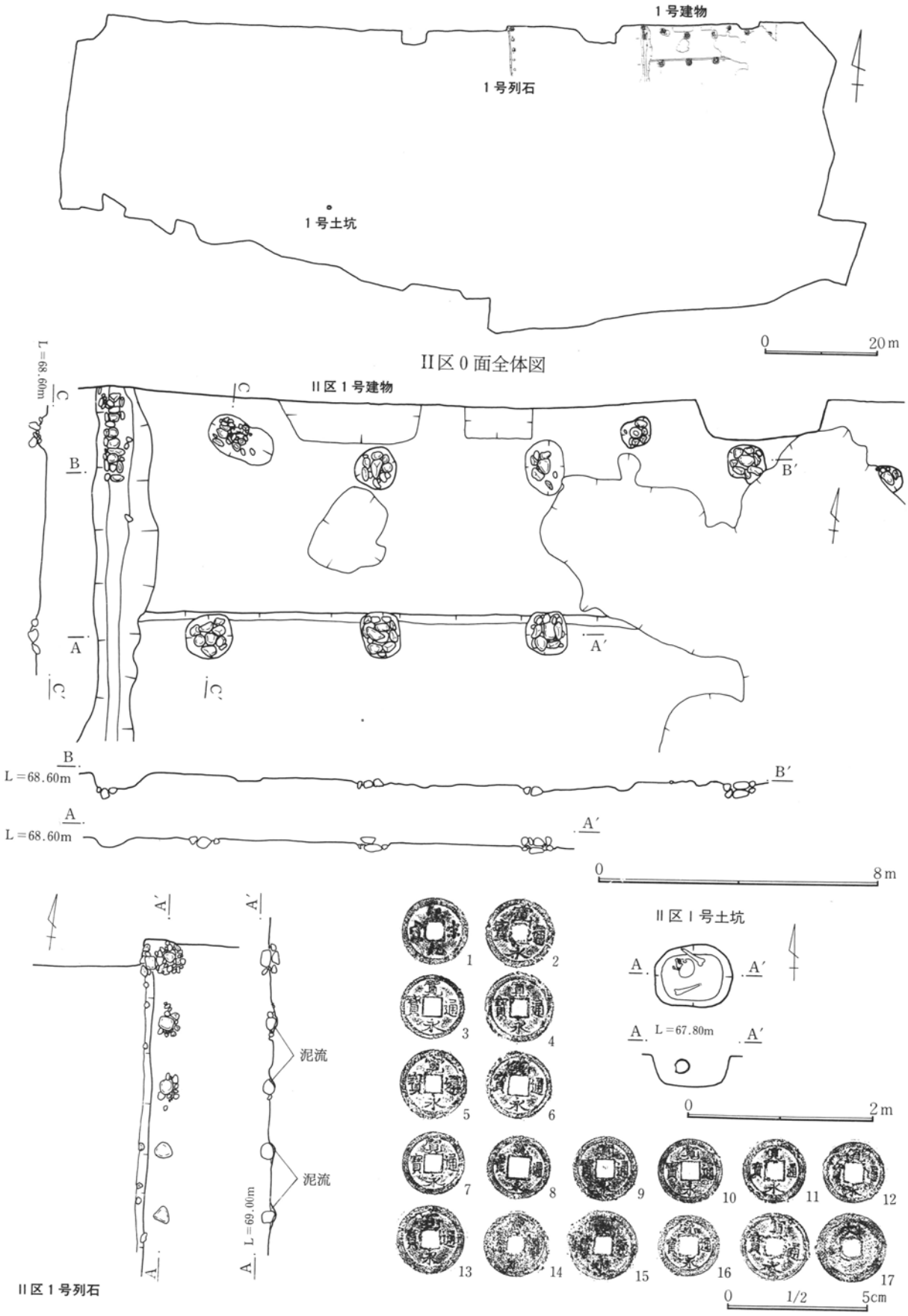
南北に並んだ礎石列である。４間で１間は1.8mである。大きな石をやや掘り窪めて置いた後、廻りに小さな石を入れ込んでいる。西側が一段低くなってており、下がった部分に礫が沿うように置かれている。塀の基礎であろうか。

II区１号土坑（墓）（第172図、ＰＬ50・73）

28ｋ－４グリッドに位置する。丸みを持った隅丸長方形を呈し東西に軸を持つ。長軸80cm、短軸65cmで深さは約30cmである。覆土は泥流土を多く含んだ土で埋まる。人骨１体が出土している。座棺で西を向いて葬られている。遺存状態は良好である。銅銭17枚（寛永通宝）が出土。時期は天明３年以降である。

II区０面１号土坑（第172図）

番号	種	類	計測値	特徴・その他	備考
1	銅銭	寛永通宝		初鋳1101年	
2	銅銭	寛永通宝			
3	銅銭	寛永通宝			
4	銅銭	聖宋元宝			
5	銅銭	寛永通宝			
6	銅銭	寛永通宝			
7	銅銭	寛永通宝			
8	銅銭	寛永通宝			
9	銅銭	寛永通宝			
10	銅銭	寛永通宝			
11	銅銭	寛永通宝			
12	銅銭	寛永通宝			
13	銅銭	寛永通宝			
14	銅銭	寛永通宝			
15	銅銭	寛永通宝			
16	銅銭	寛永通宝			
17	銅銭	寛永通宝		背「文」字	



第172図　II区0面遺構図

第９節　上福島中町遺跡出土人骨

楢崎　修一郎

はじめに

上福島中町遺跡は、群馬県玉村町上福島中町に所在し、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団による発掘調査が平成13（2001）年４月～平成14（2002）年11月まで行われた。本遺跡のＩ区３面38号土坑より中世の火葬人骨が、II区０面１号土坑より近世の土葬人骨が、II区５面38号土坑より平安時代の火葬人骨が、II区３面28号土坑・同49号土坑・同62号土坑・同82号土坑より中世の土葬人骨が出土したので、以下に報告する。なお、人骨は、水洗後できる限りの接着復元を行った後、写真撮影・計測・観察を行った。人骨の計測はマルティン［Martin］の方法に従った（馬場、1991）。また、歯の計測は藤田の方法に従った（藤田、1949）。

１．Ｉ区３面38号土坑出土火葬人骨

この火葬跡については、本報告者が発掘した。しかしながら、発掘最終日の最終確認段階で発見されたために、わずか数時間で発掘せざるを得なかった。また、火葬跡の上に砂層が約1.5m堆積していたためにその砂層を除去することを断念し、横から発掘を行わざるをえなかった。従って、取り上げの方法及び記録が不十分であることは否めないが、時間的余裕が無かったことを付記しておく。

（１）火葬人骨の出土状況

人骨は、長軸約1.15m、短軸約60cmの土坑より出土している。人骨の下には、剝片状の石を敷き詰めており、さらに、北部の頭蓋骨下には枕石のように大きな石を置いてあった。

（２）火葬人骨出土部位

火葬人骨の出土部位は、ほぼ全身におよぶ。しかしながら、頭蓋骨や四肢骨の主立った部分は収骨されている。このような収骨状況は、現代に続く、主立った人骨を収骨する西日本タイプの収骨方法であろう（楢崎、2002）。

（３）火葬の方法

火葬人骨の色は、明灰色から白色を呈しているので、火葬の際の温度は約900°C以上であろう。また、火葬人骨には亀裂・ゆがみ・ねじれが認められるので、白骨化させたものを火葬したのではなく、死体をそのまま火葬したと推定される。

（４）被火葬者の個体数

火葬人骨の出土部位には明らかな重複部位は認められないため、被火葬者の個体数は１個体と推定される。

（５）被火葬者の性別

火葬による人骨の収縮を考慮しても火葬人骨は全体に小さく、頭蓋骨の厚さも薄いため、被火葬者の性別は女性的であるが、左前頭骨眼窩部の眼窩縁は円みを帯びているため、被火葬者の性別は男性と推定される。恐らく、小柄な男性なのであろう。

（６）被火葬者の死亡年齢

被火葬者の死亡年齢推定指標となる部位が出土していないが、腰椎の椎体辺縁部に骨棘の形成が認められた。この骨棘は、一般的には高齢に達すると形成されると言われているが、重労働に従事すると形成が早まるとも言われており、指標とするには困難である。しかしながら、被火葬者の性別は、若年ではなく、恐らく中高年であろう。

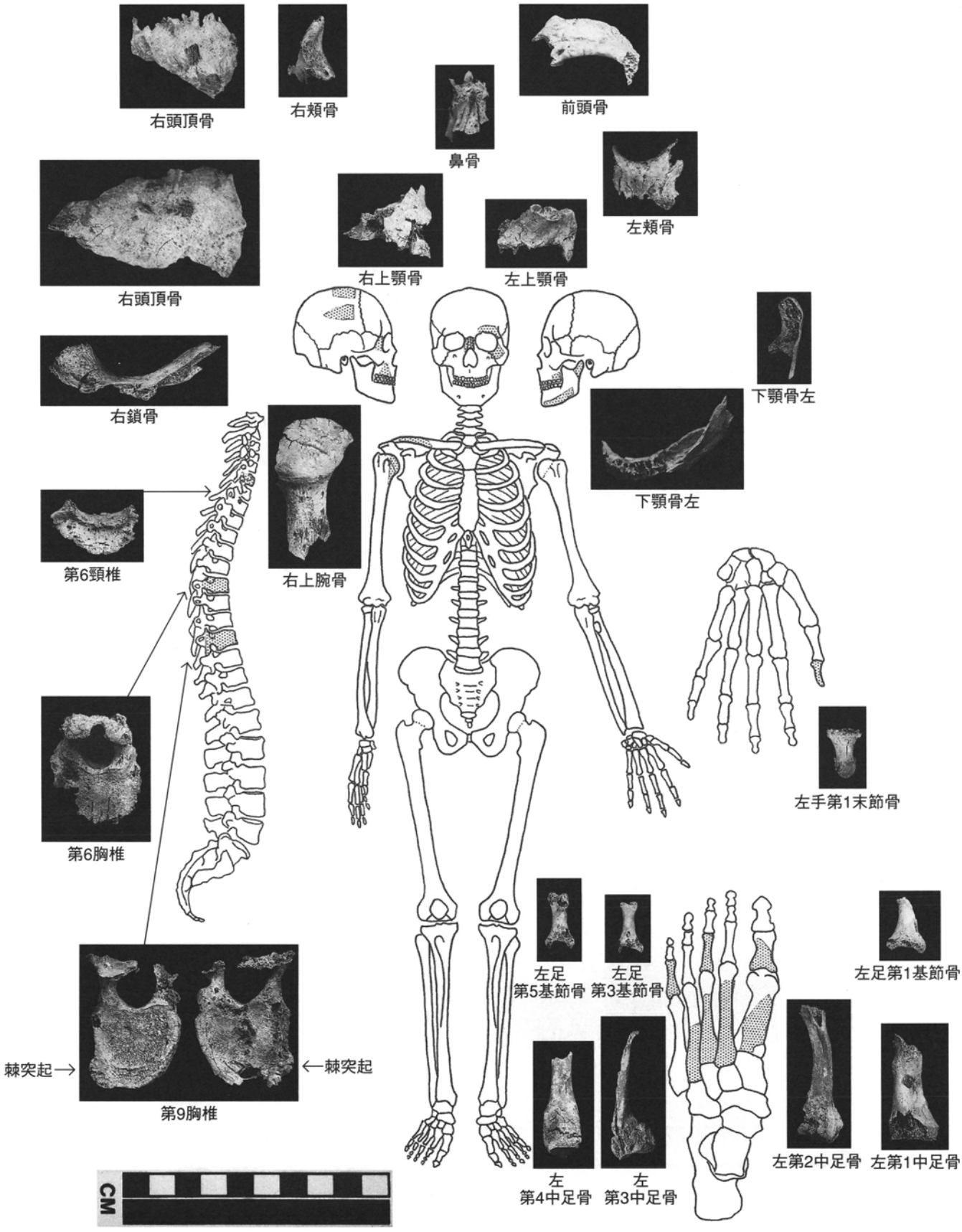


写真1.上福島中町遺跡Ⅰ区3面38号土坑出土人骨

2．II区0面1号土坑出土人骨

（1）人骨の出土状況

人骨は、長軸約80cm、短軸約65cmの土坑より出土している。時代は、地層及び出土遺物より、天明三(1783)年以降の江戸時代に比定されている。

（2）人骨の出土部位

頭蓋骨の右半分・下顎骨・胸骨・第1・2頸椎、第10・11・12胸椎、仙骨・左上腕骨・左尺骨・左撓骨・左寛骨・左右大腿骨・左脛骨・左距骨等が出土している。

（3）被葬者の頭位・埋葬状態

人骨の出土部位より、被葬者の頭位は北側で、右下横臥屈葬である。

（4）被葬者の個体数

出土人骨には、重複部位が認められないので、被葬者の個体数は1個体である。

（5）被葬者の性別

頭蓋骨では、眼窩上縁部の円み・乳様突起の発達・側頭線の発達・外後頭隆起の発達が認められ、下顎骨では下顎体の形状が鈍角である。また、寛骨の大座骨切痕の角度が鋭角である。従って、被葬者の性別は男性であると推定される。

（6）被葬者の死亡年齢

頭蓋縫合を見ると、冠状縫合は外板は癒合していないが内板は癒合している。矢状縫合は、外板内板共に癒合していない。ラムダ（人字）縫合は、外板は癒合していないが内板は癒合している。従って、死亡年齢は30歳代となる。また、口蓋縫合では、切歯縫合と正中口蓋縫合の口蓋骨部は癒合しており、正中口蓋縫合の上顎骨部と横口蓋縫合は癒合していない。従って、死亡年齢は31歳以上となる。歯の咬耗度を見ると、一部、象牙質が露出するブローカ（Broca）の2度である。従って、死亡年齢は30歳代となる。総合的に、被葬者の死亡年齢は約30歳代であると推定される。

（7）被葬者の生前の身長

保存状態の良かった、左大腿骨と左脛骨の全長を計測すると、左大腿骨が417mm、左脛骨が345mmであった。この最大長より生前の身長を推定すると、左大腿骨からは157.8cm、左脛骨からは158.9cmとなった。また、大腿骨と脛骨を合わせた身長推定では、158.6cmと推定された。さらに、重回帰方程式では、159cmと推定された。従って、被葬者の生前の身長は、約158cm～159cm［157.8cm～158.9cm］と推定される。北里大学の平本嘉助による江戸時代人骨の右大腿骨を使用した研究では、江戸時代人男性の平均身長は157.1cm［最大167.2cm、最小147.2cm］であり、女性の平均身長は145.6cm［最大157.1cm、最小137.6cm］である（平本、1972)。本個体は、江戸時代人男性の平均身長よりはやや高いが、変異の中に含まれる。

（8）人骨の病変

上顎骨及び下顎骨を見ると、一部破損しているが歯槽骨の吸収が認められ、歯の生前脱落が認められた。それらは、上顎右第2小臼歯・同第2大臼歯、下顎左右第2小臼歯・同左右第2大臼歯の6本である。ちなみに、これらの歯の萌出時期は、約11歳～12歳であり、ほぼ同じ時期である。従って、その時期に俗に虫歯と呼ばれる齲蝕に罹患し、その後、生前脱落があった可能性がある。また、残存するすべての歯に歯石の付着が認められた。これは、柔らかい食物を摂取することにより起きると考えられている。

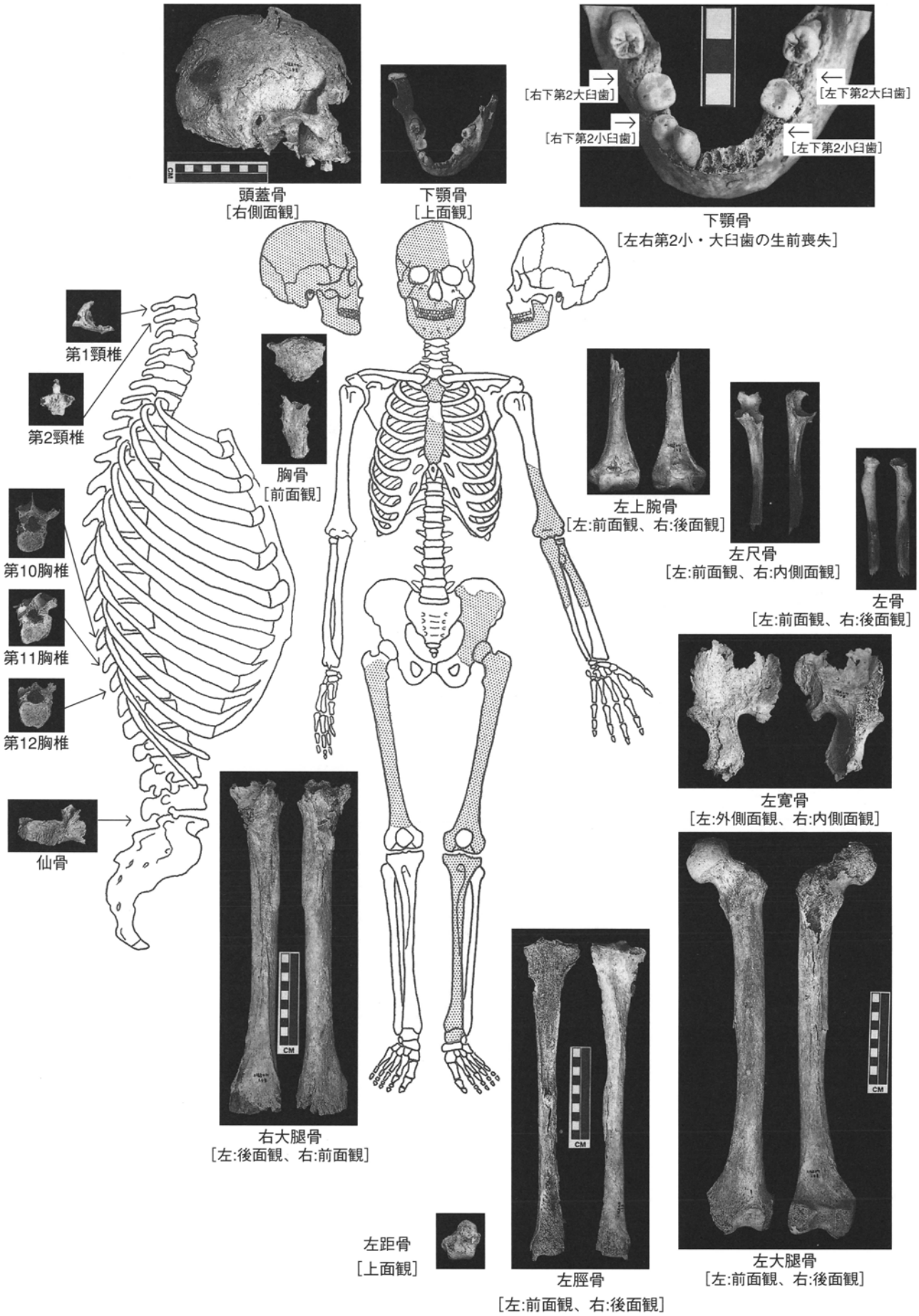


写真2.上福島中町遺跡Ⅱ区0面1号土坑出土人骨

表1．II区0面1号土坑出土人骨歯冠計測値及び比較表

	歯種	計測項目	上福島中町遺跡 右	上福島中町遺跡 左	江戸時代人＊ ♂	江戸時代人＊ ♀	現代日本人＊＊ ♂	現代日本人＊＊ ♀
上顎	I 1	MD	−	9.1	8.78	8.38	8.67	8.55
		BL	−	6.9	7.52	7.06	7.35	7.28
	C	MD	8.8	8.5	8.01	7.60	7.94	7.71
		BL	9.6	9.6	8.66	8.03	8.52	8.13
	P 1	MD	−	7.4	7.41	7.23	7.38	7.37
		BL	−	9.4	9.67	9.33	9.59	9.43
	M 1	MD	11.0	11.1	10.61	10.18	10.68	10.47
		BL	12.1	12.2	11.87	11.39	11.75	11.40
	M 2	MD	−	10.5	9.88	9.48	9.91	9.74
		BL	−	12.6	12.00	11.52	11.85	11.31
	M 3	MD	10.0	−	−	−	8.94	8.86
		BL	11.5	−	−	−	10.79	10.50
下顎	I 2	MD	−	(5.9)	6.09	5.97	6.20	6.11
		BL	−	6.4	6.29	6.11	6.43	6.30
	C	MD	7.5	7.3	7.06	6.69	7.07	6.68
		BL	8.3	8.3	8.04	7.39	8.14	7.50
	P 1	MD	7.4	−	7.32	7.05	7.31	7.19
		BL	8.6	−	8.34	7.89	8.06	7.77
	P 2	MD	−	−	7.45	7.12	7.42	7.29
		BL	−	−	8.68	8.30	8.53	8.26
	M 1	MD	12.4	12.1	11.72	11.14	11.72	11.32
		BL	11.7	11.7	11.15	10.62	10.89	10.55
	M 3	MD	12.1	12.2	−	−	10.96	10.65
		BL	11.7	11.4	−	−	10.28	10.02

註1：計測値の単位は、すべて、「mm」である。
註2：歯種は、I 1（第1切歯）・I 2（第2切歯）・C（犬歯）・P 1（第1小臼歯）・P 2（第2小臼歯）・M 1（第1大臼歯）・M 2（第2大臼歯）・M 3（第3大臼歯）を意味する。
註3：MD（歯冠近遠心径）・BL（歯冠唇頬舌径）を意味する。
註4：「破損」とあるのは、歯が破損しているため計測できなかったことを示す。
註5：計測値が、（ ）で囲まれているものは、咬耗により計測値が影響を受けている可能性を示す。
註6：＊はMATSUMURA(1995)より、＊＊は権田(1955)より引用。なお、MATSUMURA(1995)には、第3大臼歯のデータは含まれていない。

表2．頭蓋骨の非計測的形質

観察項目	観察結果 右	観察結果 左
1．前頭縫合	無し	
2．眼窩上神経溝	破損	破損
3．眼窩上孔	破損	破損
4．ラムダ小骨	破損で観察不能	
5．インカ骨	破損	
6．横後頭縫合痕跡	無し	破損
7．アステリオン小骨	有り	破損
8．後頭乳突縫合骨	無し	破損
9．頭頂切痕骨	無し	破損
10．顆管開存	有り	破損
11．前顆突起	無し	無し
12．傍顆突起	破損	破損
13．舌下神経管二分	無し	破損
14．鼓室骨裂開	有り	破損
15．卵円孔棘孔連続	無し	破損
16．内側口蓋管	無し	無し
17．横頬骨縫合痕跡	有り	破損
18．頚静脈孔二分	無し	破損
19．矢状洞溝左折	破損で観察不能	
20．顎舌骨神経管	無し	無し

註：「破損」は、骨が破損で観察不能を示す。

表3．II区0面1号土坑出土人骨四肢骨計測値及び比較表

			江戸時代人骨＊ ♂	江戸時代人骨＊ ♀	現代人＊＊ ♂	現代人＊＊ ♀
上腕骨（左のみ）			♂	♀	♂	♀
11.	滑車幅	23.5mm	23.1mm	18.8mm	23.6mm	19.1mm
11a.	滑車幅	27mm	−	−	−	−
12.	小頭幅	17mm	17.1mm	15.1mm	17.1mm	14.4mm
12a.	滑車小頭幅	44mm	40.8mm	33.9mm	40.8mm	35.1mm
12b.	小頭幅	21mm	−	−	−	−
12c.	小頭高	22mm	−	−	−	−
13.	関節窩幅	27mm	25.6mm	21.6mm	25.5mm	21.6mm
14.	肘頭窩幅	26mm	27.3mm	24.4mm	27.0mm	24.3mm
15.	肘頭窩深	9mm	12.5mm	12.2mm	11.9mm	11.1mm
橈骨（左のみ）			♂	♀	♂	♀
4.	骨体横径	14mm	16.6mm	14.4mm	16.5mm	14.6mm
4(2).	頸横径	13mm	−	−	−	−
5.	骨体矢状径	11mm	11.9mm	9.8mm	11.8mm	9.8mm
5(2).	頸矢状径	13.5mm	−	−	−	−
5:4	骨体断面示数	78.6	71.8	68.4	71.8	67.4
尺骨（左のみ）			♂	♀	♂	♀
5(1)	近位関節面高	35mm	37.7mm	32.9mm	−	−
5(2)	滑車関節面高	27mm	28.5mm	24.7mm	−	−
7.	肘頭深	27mm	24.1mm	21.2mm	−	−
大腿骨（左右）			♂	♀	♂	♀
1.	大腿骨最大長	417mm	413.8mm	377.9mm	412.1mm	381.8mm
6.	骨体中央矢状径	26mm(右) 26mm(左)	28.3mm	24.8mm	27.6mm	24.5mm
7.	骨体中央横径	29mm(右) 29mm(左)	27.4mm	24.1mm	26.3mm	23.0mm
9.	骨体上横径	32mm(右) 33mm(左)	30.7mm	26.5mm	31.0mm	27.9mm
6:7		89.7 89.7	103.9	103.1	105.4	107.3
脛骨（左のみ）			♂	♀	♂	♀
1a.	脛骨最大長	345mm	331.2mm	305.8mm	325.3mm	302.4mm

＊：遠藤・北條・木村（1967）より引用
＊＊：上腕骨［西原（1953）］・橈骨［蛯名（1951）］・尺骨［蛯名（1951）］・大腿骨［大場（1950）］・脛骨［鈴木（1961）］より引用

3．II区5面38号土坑出土火葬人骨

約4㎝～5㎜の火葬人骨が、約100片出土している。火葬人骨の色は、明灰色から白色を呈しているので、火葬の際の温度は約900℃以上であろう。また、火葬人骨には亀裂・ゆがみ・ねじれが認められるので、白骨化させたものを火葬したのではなく、死体をそのまま火葬したと推定される。火葬人骨の出土量は少なく、丁寧に収骨されているので、恐らく現代にも続く東日本タイプの収骨方法であろう（楢崎、2002）。人骨の出土量は少ないが、被火葬者の個体数は1個体で、1本のみ認められた歯の歯根の大きさより、被火葬者の性別は女性で、死亡年齢は不明であるが、恐らく成人であろう。

4．II区3面28号土坑出土人骨

（1）人骨の出土状況・頭位

人骨は、長軸約1.35m、短軸約90㎝の土坑より出土している。時代は、出土遺物より中世に比定されている。

（2）人骨の出土部位

頭蓋骨片・歯・四肢骨片等が出土している。しかしながら、人骨の保存状態は全体的に悪い。

（3）被葬者の頭位・埋葬状態

出土人骨の出土位置より、人骨の頭位は北側で、顔を西側に向けた右下横臥屈葬であると推定される。

（4）被葬者の個体数

出土部位には、重複部位が認められないので、被葬者の個体数は1個体である。

（5）被葬者の性別

歯の歯冠計測値より、被葬者の性別は男性と推定される。

（6）被葬者の死亡年齢

歯の咬耗度より、咬耗は象牙質に達するブローカの2度である。したがって、被葬者の死亡年齢は約40歳代と推定される。

（7）歯の病変

出土歯の永久歯歯冠17本には、俗に虫歯と呼ばれる齲蝕は認められなかった。また、歯石も認められなかった。

5．II区3面49号土坑出土人骨

（1）人骨の出土状況

人骨は、長軸約1m、短軸約80㎝の土坑より出土している。時代は、出土遺物より中世に比定されている。

（2）人骨の出土部位

頭蓋骨片・歯・四肢骨片等が出土している。しかしながら、人骨の保存状態は全体的に悪い。

（3）被葬者の頭位・埋葬状態

出土人骨の出土位置より、被葬者の頭位は北側で、顔を西側に向けた右下横臥屈葬であると推定される。

（4）被葬者の個体数

出土部位には、重複部位が認められないので、被葬者の個体数は1個体である。

（5）被葬者の性別

外後頭隆起は良く発達しており、外後頭隆起と内後頭隆起との距離は約18㎜ある。また、歯の歯冠計測値

より、計測値が比較的大きく、総合的に被葬者の性別は男性と推定される。

（6）被葬者の死亡年齢

歯の咬耗度より、咬耗は象牙質に達するブローカの2度である。したがって、被葬者の死亡年齢は約40歳代と推定される。

（7）歯の病変

出土歯の永久歯歯冠9本には、齲蝕及び歯石は、認められなかった。

6．II区3面62号土坑出土人骨

（1）人骨の出土状況

人骨は、長軸約1m、短軸約80cm～90cmの土坑より出土している。時代は、出土遺物より中世に比定されている。

（2）人骨の出土部位

頭蓋骨片・歯・四肢骨片等が出土している。しかしながら、人骨の保存状態は全体的に悪い。

（3）被葬者の頭位・埋葬状態

被葬者は2体が合葬されており、出土人骨の出土位置より、2体共に、頭位は北側で顔を西側に向けた右下横臥屈葬であると推定される。

（4）被葬者の個体数

被葬者の個体数は、明らかに2個体である。

（5）被葬者の性別

2個体の被葬者の内、西側に埋葬されている個体は、恐らく女性であろう。また、東側に埋葬されている個体は、子供であるが、歯冠計測値より、男性（男児）である可能性が高い。

（6）被葬者の死亡年齢

2個体の被葬者の内、西側に埋葬されている個体は、歯が1本も出土しておらず、出土時の写真で見る限り、生前に歯が脱落した無歯顎の状態である。従って、老齢であると推定される。また、東側に埋葬されている個体は、歯が乳歯と永久歯との混合歯の状態である。歯の萌出状態より、死亡年齢は約4歳と推定される。

（7）歯の病変

出土歯の乳歯歯冠7本及び永久歯歯冠12本には、齲蝕及び歯石は認められなかった。

7．II区3面82号土坑出土人骨

（1）人骨の出土状況

人骨は、長軸約1.2m、短軸約90cm～1mの土坑より出土している。時代は、出土遺物より中世に比定されている。

（2）人骨の出土部位

頭蓋骨片・歯・四肢骨片等が出土している。しかしながら、人骨の保存状態は全体的に悪い。

（3）被葬者の頭位・埋葬状態

出土人骨の出土位置より、被葬者の頭位は北側で顔を西側に向けた右下横臥屈葬と推定される。

（4）被葬者の個体数

出土部位には、重複部位が認められないので、被葬者の個体数は１個体であろう。

（５）被葬者の性別

歯の歯冠計測値より、計測値が比較的大きく、被葬者の性別は男性と推定される。

（６）被葬者の死亡年齢

歯の咬耗度より、咬耗は象牙質に達するブローカの２度である。したがって、被葬者の死亡年齢は約40歳代と推定される。

（７）歯の病変

出土歯の永久歯歯冠13本には、俗に虫歯と呼ばれる齲蝕は認められなかった。また、歯石も認められなかった。

まとめ

上福島中町遺跡のＩ区３面38号土坑より火葬人骨が、II区０面１号土坑より近世の土葬人骨が、II区５面38号土坑より平安時代の火葬人骨が、II区３面28号土坑・49号土坑・62号土坑・82号土坑より中世の土葬人骨が出土した。Ｉ区３面38号火葬跡には、中高年の男性が火葬に付されたと推定された。また、II区０面１号土坑には身長約158cm～159cmの約30歳代の男性が埋葬されたと推定された。II区５面38号土坑には、成人女性が火葬に付されたと推定された。さらに、II区３面28号土坑には約40歳代の男性が、49号土坑には約40歳代の男性が、62号土坑には老齢の女性と約４歳の男性（男児）の２個体が、82号土坑には約40歳代の男性が埋葬されたと推定された。

謝辞

本出土人骨を報告する機会を与えていただき、出土人骨に関する様々な情報をいただいた、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団の小野和之氏に感謝いたします。

引用文献

馬場悠男　1991　『人類学講座別巻１．人体計測法、II人骨計測法』、雄山閣出版

藤田恒太郎　1949　歯の計測規準について、「人類学雑誌」、61：1-6.

権田和良　1959　歯の大きさの性差について、「人類学雑誌」、67(3)：47-59.

平本嘉助　1972　縄文時代から現代に至る関東地方人身長の時代的変化、「人類学雑誌」、80(3)：221-236.

MATSUMURA, Hirofumi 1995 A microevolutional history of the Japanese people as viewed from morphology, National Science Museum Monographs No.9, National Science Museum

楢崎修一郎　2002　下小鳥神戸遺跡出土火葬人骨、「群馬県埋蔵文化財調査事業団研究紀要」、20：43-50.

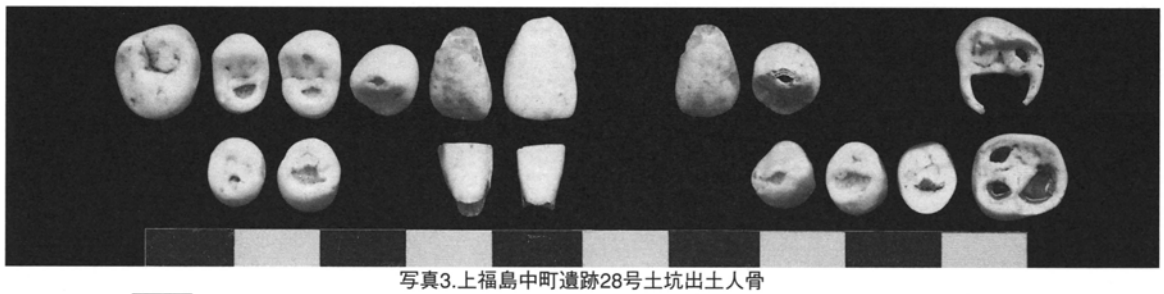


写真3.上福島中町遺跡28号土坑出土人骨

右上			M1	P2	P1	C	I2	I1	I2	C			M1	左上
右下				P2	P1		I2	I1		C	P1	P2	M1	左下

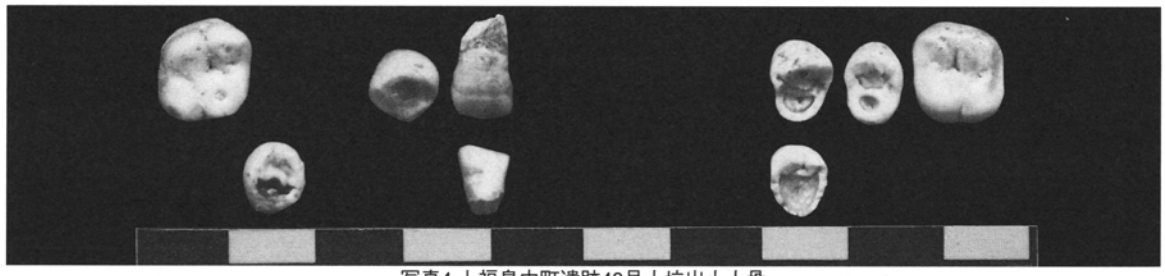


写真4.上福島中町遺跡49号土坑出土人骨

右上			M1			C	I2			P1	P2	M1	左上
右下				P2			I2			P1			左下

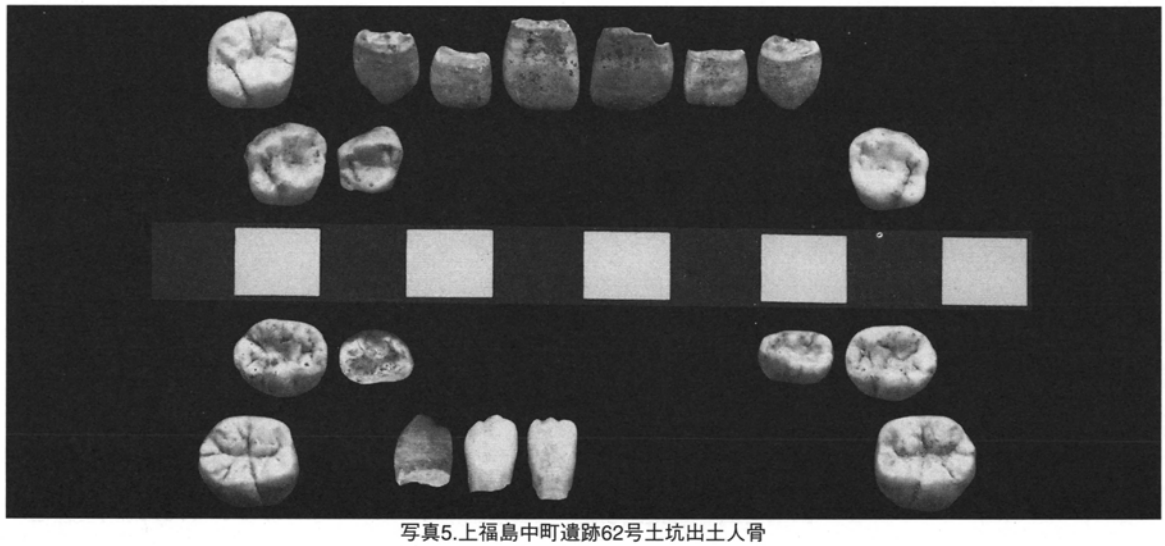


写真5.上福島中町遺跡62号土坑出土人骨

右上			M1			C	I2	I1	I1	12	C			左上
				m2	m1							m2		
右下				m2	m1						m1	m2		左下
			M1			C	I2	I1					M1	

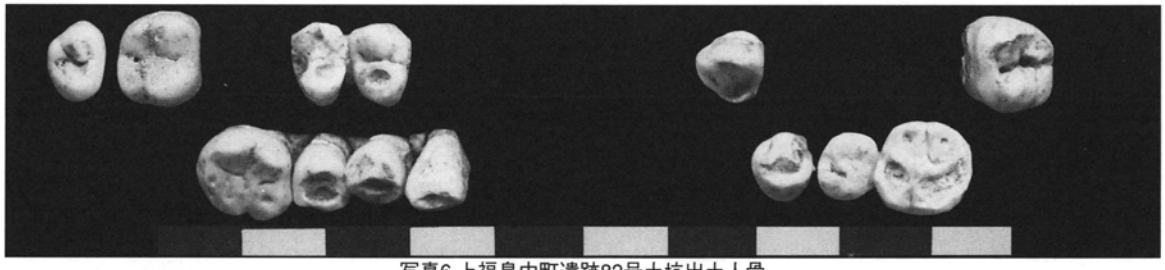


写真6.上福島中町遺跡82号土坑出土人骨

右上		M3	M2		P2	P1				C			M2	左上
右下				M1	P2	P1	C				P1	P2	M1	左下

表４．上福島中町遺跡出土人骨歯冠計測値及び比較表

	歯種	計測項目	上福島中町遺跡出土人骨								鎌倉時代人＊		江戸時代人＊		現代日本人＊＊	
			28号土坑		49号土坑		62号土坑		82号土坑							
			右	左	右	左	右	左	右	左	♂	♀	♂	♀	♂	♀
上顎	I 1	MD	破損	−	−	−	8.9	8.9	−	−	8.48	8.29	8.78	8.38	8.67	8.55
		BL	破損	−	−	−	破損	破損	−	−	7.29	7.00	7.52	7.06	7.35	7.28
	I 2	MD	7.3	7.4	7.1	−	7.2	7.3	−	−	6.98	6.85	7.16	6.97	7.13	7.05
		BL	6.8	6.6	6.4	−	破損	破損	−	−	6.55	6.26	6.74	6.33	6.62	6.51
	C	MD	7.9	7.8	8.0	−	7.5	7.2	−	7.9	7.96	7.43	8.01	7.60	7.94	7.71
		BL	8.2	8.3	8.5	−	破損	破損	−	8.3	8.50	7.94	8.66	8.03	8.52	8.13
	P 1	MD	7.2	−	−	7.0	−	−	7.1	−	7.25	7.02	7.41	7.23	7.38	7.37
		BL	10.1	−	−	9.4	−	−	9.4	−	9.46	9.03	9.67	9.33	9.59	9.43
	P 2	MD	6.3	−	−	6.8	−	−	6.4	−	6.87	6.69	7.00	6.82	7.02	6.94
		BL	9.2	−	−	9.7	−	−	8.9	−	9.39	8.88	9.55	9.29	9.41	9.23
	M 1	MD	9.8	9.8	10.2	10.2	10.6	−	−	−	10.45	10.09	10.61	10.18	10.68	10.47
		BL	10.6	破損	11.5	11.5	11.0	−	−	−	11.81	11.30	11.87	11.39	11.75	11.40
	M 2	MD	−	−	−	−	−	−	9.6	9.6	9.65	9.42	9.88	9.48	9.91	9.74
		BL	−	−	−	−	−	−	11.2	11.2	11.72	11.19	12.00	11.52	11.85	11.31
	M 3	MD	−	−	−	−	−	−	6.8	−	−	−	−	−	8.94	8.86
		BL	−	−	−	−	−	−	9.3	−	−	−	−	−	10.79	10.50
下顎	I 1	MD	5.7	−	−	−	5.7	−	−	−	5.42	5.22	5.45	5.32	5.48	5.47
		BL	6.0	−	−	−	破損	−	−	−	5.78	5.61	5.78	5.65	5.88	5.77
	I 2	MD	6.1	−	5.8	−	6.2	−	−	−	6.04	5.78	6.09	5.97	6.20	6.11
		BL	5.5	−	6.0	−	破損	−	−	−	6.22	5.98	6.29	6.11	6.43	6.30
	C	MD	−	6.9	−	−	−	−	6.9	−	6.88	6.55	7.06	6.69	7.07	6.68
		BL	−	7.8	−	−	−	−	8.3	−	7.82	7.33	8.04	7.39	8.14	7.50
	P 1	MD	7.2	6.8	−	6.5	−	−	6.8	7.0	7.07	6.96	7.32	7.05	7.31	7.19
		BL	8.3	8.6	−	8.1	−	−	8.3	歯石	8.10	7.72	8.34	7.89	8.06	7.77
	P 2	MD	6.6	6.8	6.9	−	−	−	7.0	7.2	7.12	7.00	7.45	7.12	7.42	7.29
		BL	8.1	8.3	8.3	−	−	−	8.4	8.8	8.49	8.06	8.68	8.30	8.53	8.26
	M 1	MD	−	10.8	−	−	11.4	11.3	11.3	11.1	11.56	11.06	11.72	11.14	11.72	11.32
		BL	−	10.1	−	−	10.9	10.8	11.4	11.4	11.00	10.49	11.15	10.62	10.89	10.55
	M 2	MD	−	−	−	−	−	−	−	−	11.06	10.65	11.39	10.78	11.30	10.89
		BL	−	−	−	−	−	−	−	−	10.55	9.97	10.75	10.21	10.53	10.20

註１：計測値の単位は、すべて、「mm」である。

註２：歯種は、I1（第１切歯）・I2（第２切歯）・C（犬歯）・P1（第１小臼歯）・P2（第２小臼歯）・M1（第１大臼歯）・M2（第２大臼歯）・M3（第３大臼歯）を意味する。

註３：MD（歯冠近遠心径）・BL（歯冠唇頬舌径）を意味する。

註４：「破損」とあるのは、歯が破損しているため計測できなかったことを示す。

註５：「歯石」とあるのは、歯石が付着しているため計測できなかったことを示す。

註６：＊はMATSUMURA（1995）より、＊＊は権田（1955）より引用。なお、MATSUMURA（1995）には、第３大臼歯のデータは含まれていない。

第10節　上福島中町遺跡出土獣骨

檜崎　修一郎

はじめに

上福島中町遺跡は、群馬県佐波郡玉村町上福島中町に所在し、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団による発掘調査が平成13（2001）年４月～平成14（2002）年11月まで行われた。本遺跡のII区２号土坑より獣骨を加工した使用用途不明物が、またVI区２号建物より加工したイヌあるいはオオカミの下顎骨が出土したので以下に報告する。

１．II区２号土坑出土獣骨

全長50㎜～60㎜の加工獣骨である。残念ながら、獣骨の種類や部位を同定することはできなかった。この獣骨には、全長70㎜・幅６㎜～７㎜の金属片が付着している。金属の錆で塞がっているが、内測から確認すると、五角形の点に直径約４㎜～５㎜の円形の孔が５つずつ２ヶ所に穿たれており、花の梅か桜を表していると推定される。また、これとは別にやはり花の梅か桜の花びらを彫刻した箇所が２ヶ所認められる。いずれにしても、この加工獣骨の使用目的及び獣骨の種類や部位を明らかにすることはできなかった。将来的に、動物考古学の専門家に鑑定依頼をする必要がある。

２．VI区２号建物出土獣骨

全長約40㎜のイヌ（*Canis familiaris*）あるいはオオカミ（*Canis lupus*）の、下顎左犬歯及び同第１小臼歯・同第２小臼歯部の下顎骨が出土している。犬歯は、下顎骨に植立している。また、第１小臼歯及び第２小臼歯の歯冠部は、破損している。外測面に金属の小片が、また内測面には金属の大片が付着している。加工した目的は不明であるが、イヌやオオカミでは下顎骨が左右２つに分かれるため、これをつないだ跡かもしれない。

オオカミは、1800年代末に北海道から、1905年には本州で絶滅したと考えられている。オオカミは、イヌの祖先である。オオカミとイヌとの区別は、オオカミでは左右の眼窩の上端と頬骨の上端とを結ぶ角度がイヌに比べて大きく、つまり頬骨が横に広がっていること・吻部の凹度（ストップ）が小さいこと、裂肉歯が大きいこと等で区別できるとされている。しかしながら、今回、完全な頭蓋骨が出土しておらず、これらの点を確認することはできない。

本出土獣骨の犬歯の近遠心径は7.4㎜、唇舌径は12㎜であり、計測値が比較的大きい。ちなみに、写真で比較した現生イヌ標本（本報告者所蔵）では、近遠心径は7.3㎜、唇舌径は11㎜である。しかしながら、この計測値だけでオオカミと断定することはできない。特に、近世には外国産のイヌも輸入されている。従って、イヌ科としてとどめておく。将来的に、動物考古学の専門家に鑑定依頼をする必要がある。

謝辞

本出土獣骨を報告する機会を与えていただき、出土獣骨に関する様々な情報をいただいた、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団の小野和之氏に感謝いたします。

引用文献

阿部　永監修　1994　『日本の哺乳類』、東海大学出版会

谷口研語　2000　『犬の日本史』、PHP新書

日高敏隆監修　1996　『日本動物大百科1．哺乳類Ⅰ』、平凡社

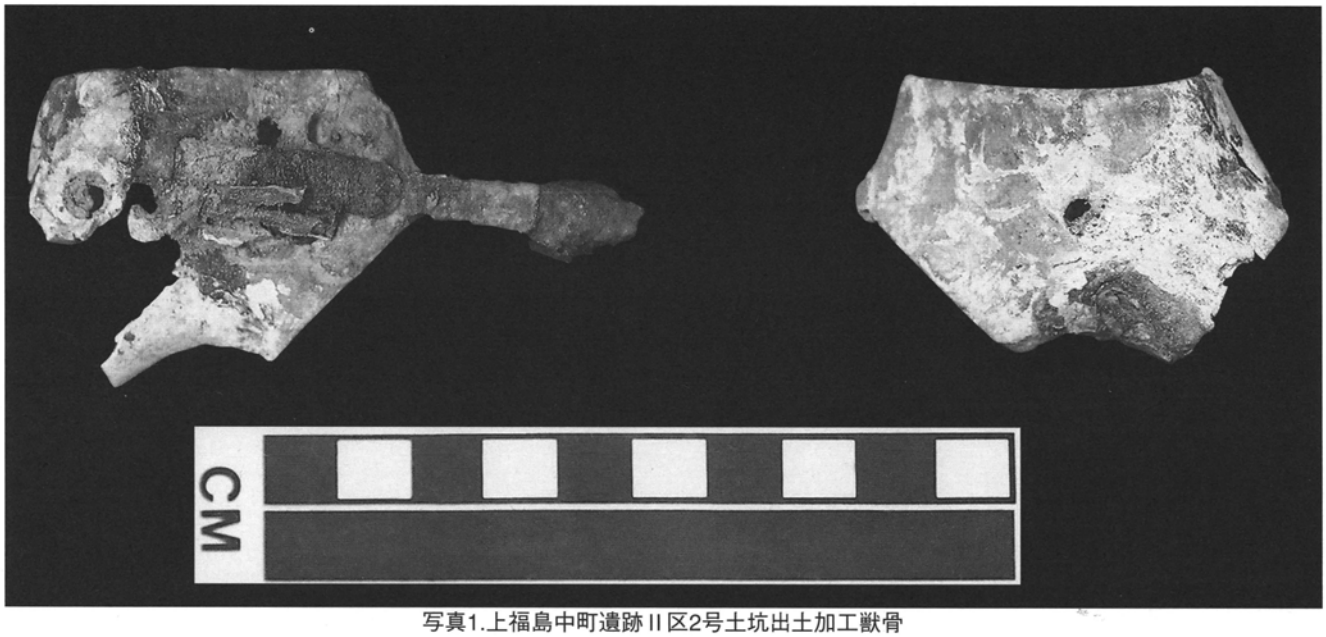


写真1.上福島中町遺跡Ⅱ区2号土坑出土加工獣骨

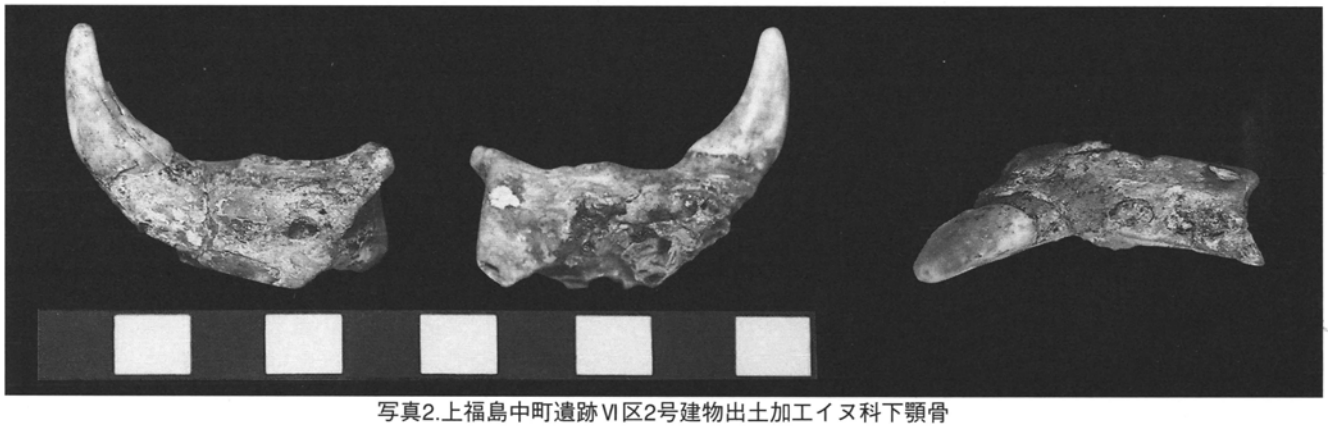


写真2.上福島中町遺跡Ⅵ区2号建物出土加工イヌ科下顎骨
［左から、外側面観・内側面観・上面観］

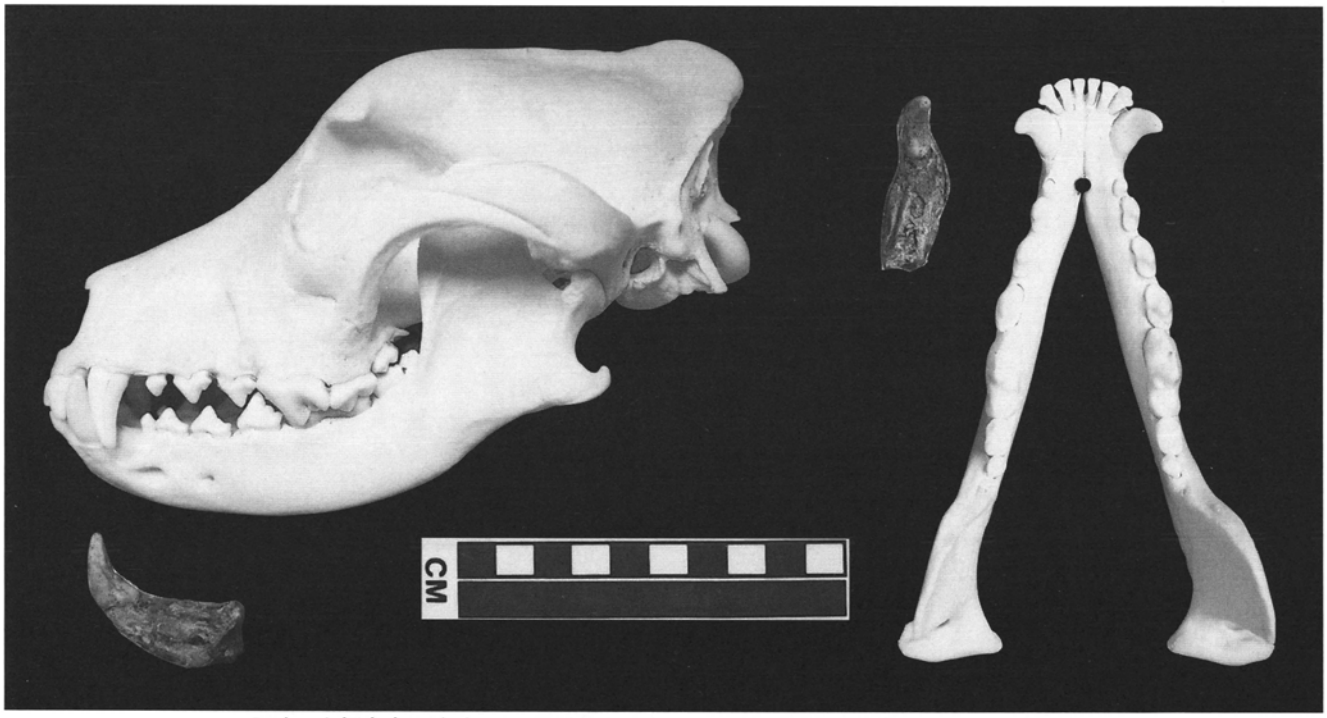


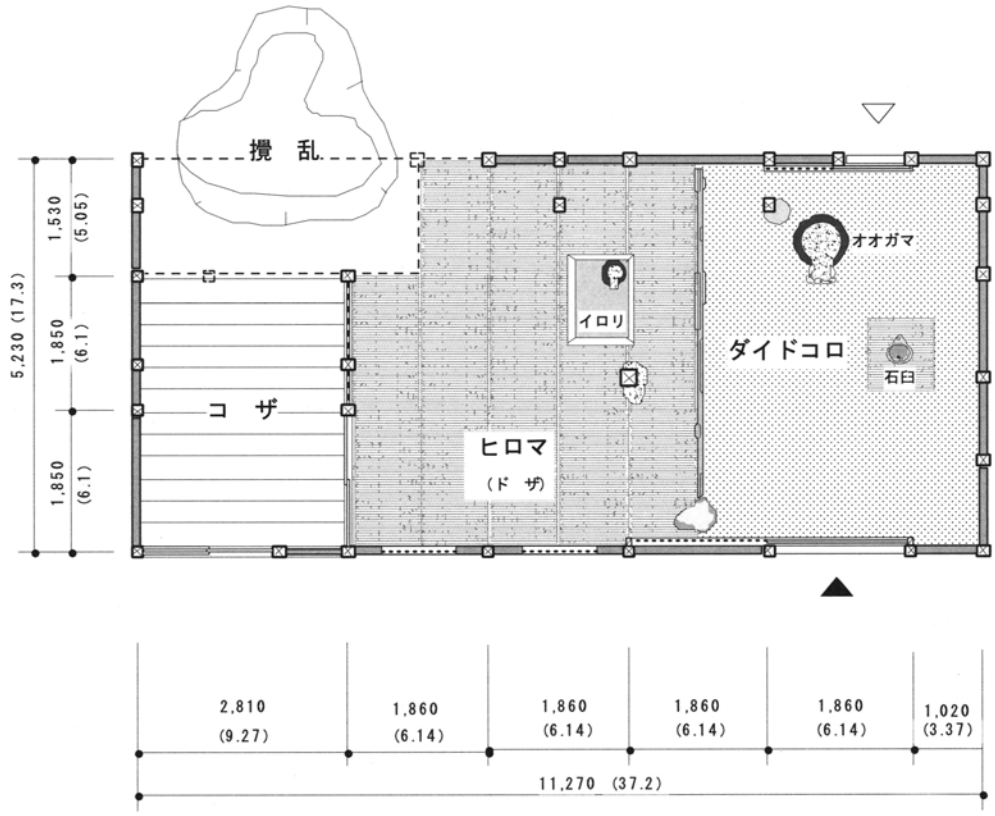
写真3.上福島中町遺跡Ⅵ区2号建物出土加工イヌ科下顎骨と現生イヌ標本との比較

第4章　まとめ

1．面検出建物跡の間取り根造について

本遺韓において検出された建物については、16棟中10棟が母屋（内便所を持つもの１）ないしは納屋１（掘立柱建物）、他の６棟は便所である。このうち、掘立柱建物１棟および一部分のみの調査である１棟を除き、全掘した８棟について検出した礎石の配列、および建物内の施設、床や壁等の調査所見を元に作成した間取り推定図を以下に示しておく。（推定間取り図の作成は石井榮一氏による。）

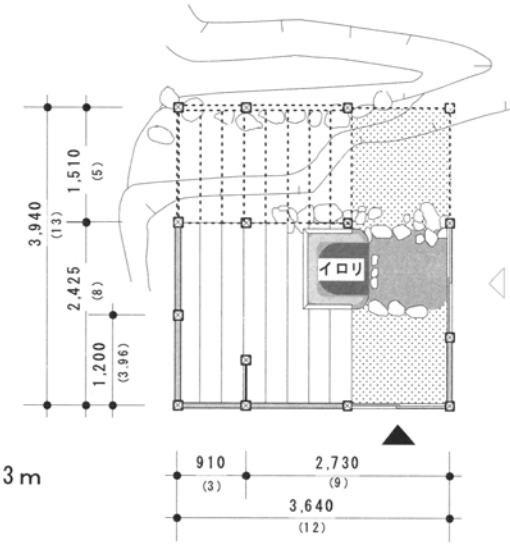
Ⅱ区1号建物跡推定平面図
S=1/100



桁行	1間＝	1,860	(6.14)
	0.5間＝	930	(3.07)
	1尺＝	310	
梁行	1間＝	1,850	(6.1)
	0.5間＝	925	(3.05)
	1尺＝	308	

Ⅱ区３号建物跡推定平面図

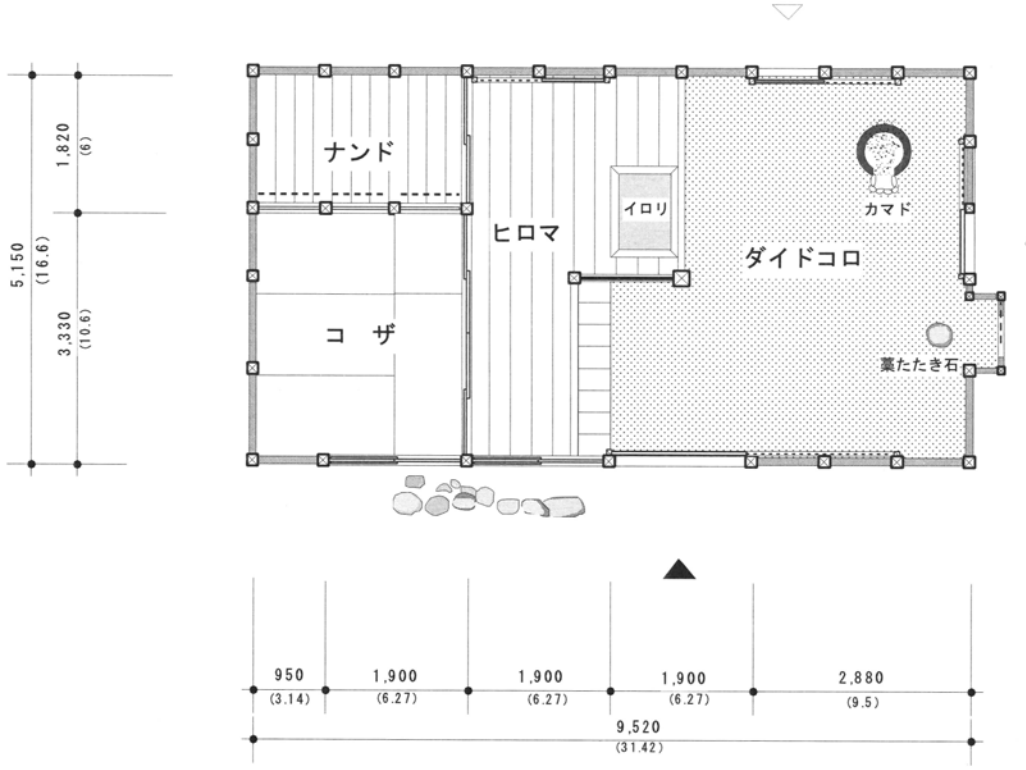
s＝1/100



1尺：0.303ｍ

Ⅱ区4号建物跡推定平面図

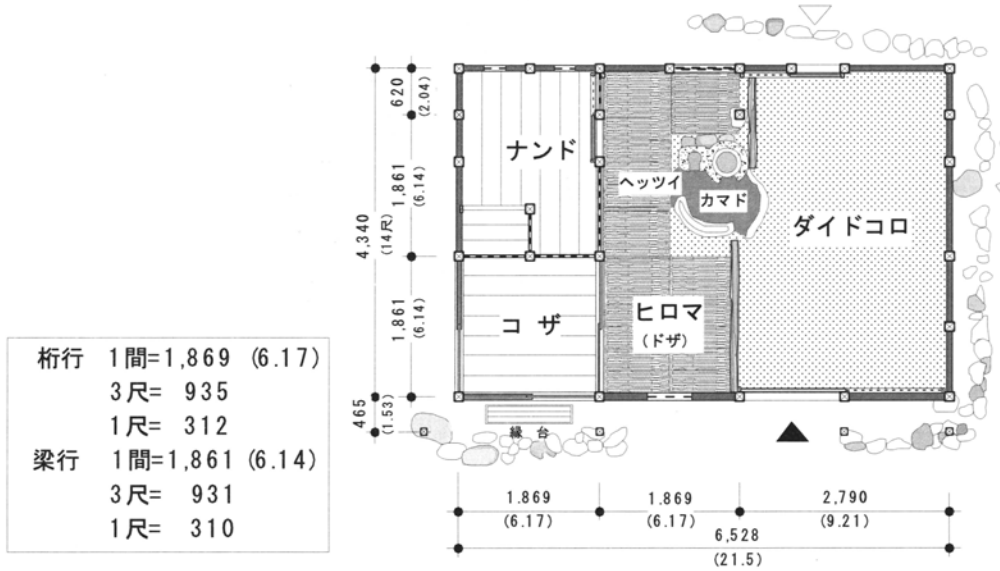
S＝1/100



1間：6.27尺	(1,900)
3尺	(950)
1尺	(314)

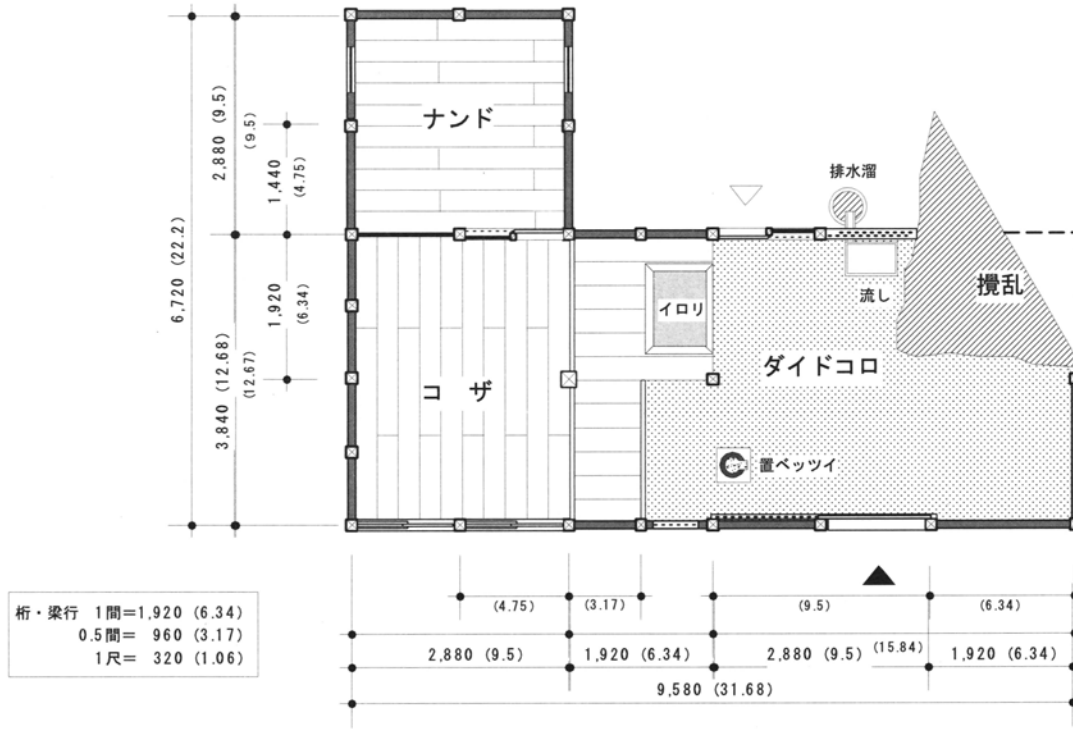
Ⅱ区６号建物跡推定平面図

s＝1/100



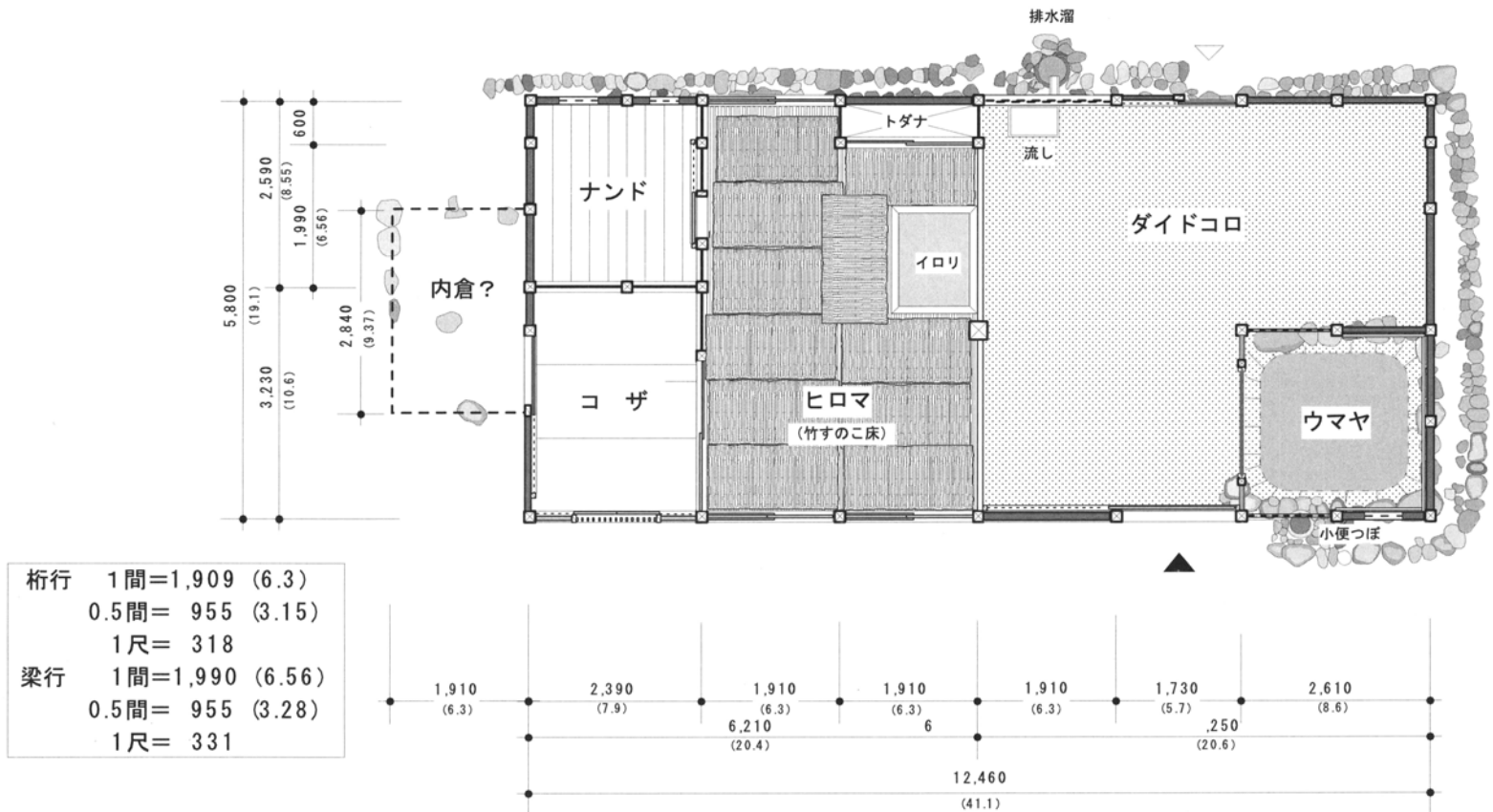
Ⅵ区1号建物跡推定平面図

S=1/100



Ⅵ区２号建物跡推定平面図

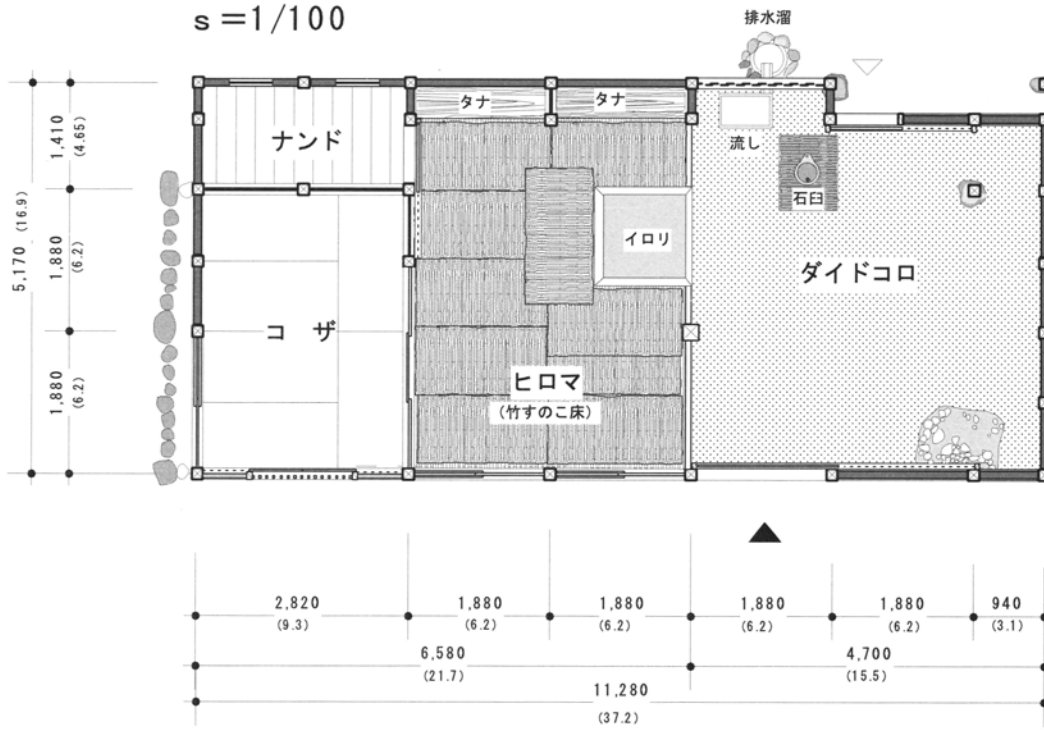
s ＝1/100



桁行	1間＝1,909	(6.3)	
	0.5間＝ 955	(3.15)	
	1尺＝ 318		
梁行	1間＝1,990	(6.56)	
	0.5間＝ 955	(3.28)	
	1尺＝ 331		

Ⅵ区３号建物跡推定平面図

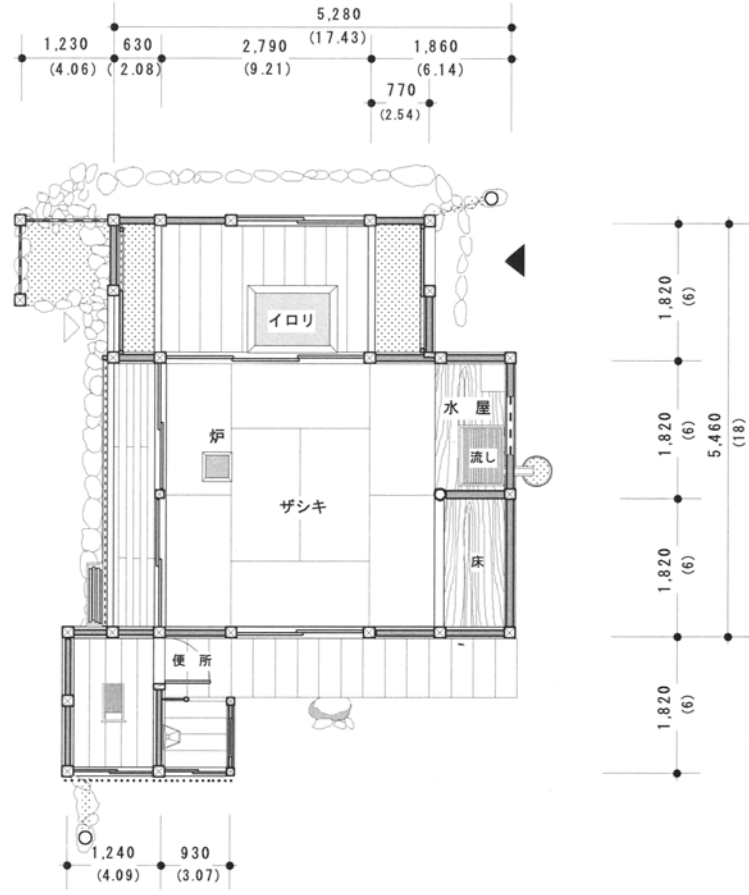
s＝1/100



桁・梁行　1間＝1.880（6.2）
　　0.5間＝ 939（3.1）
　　1尺＝ 313

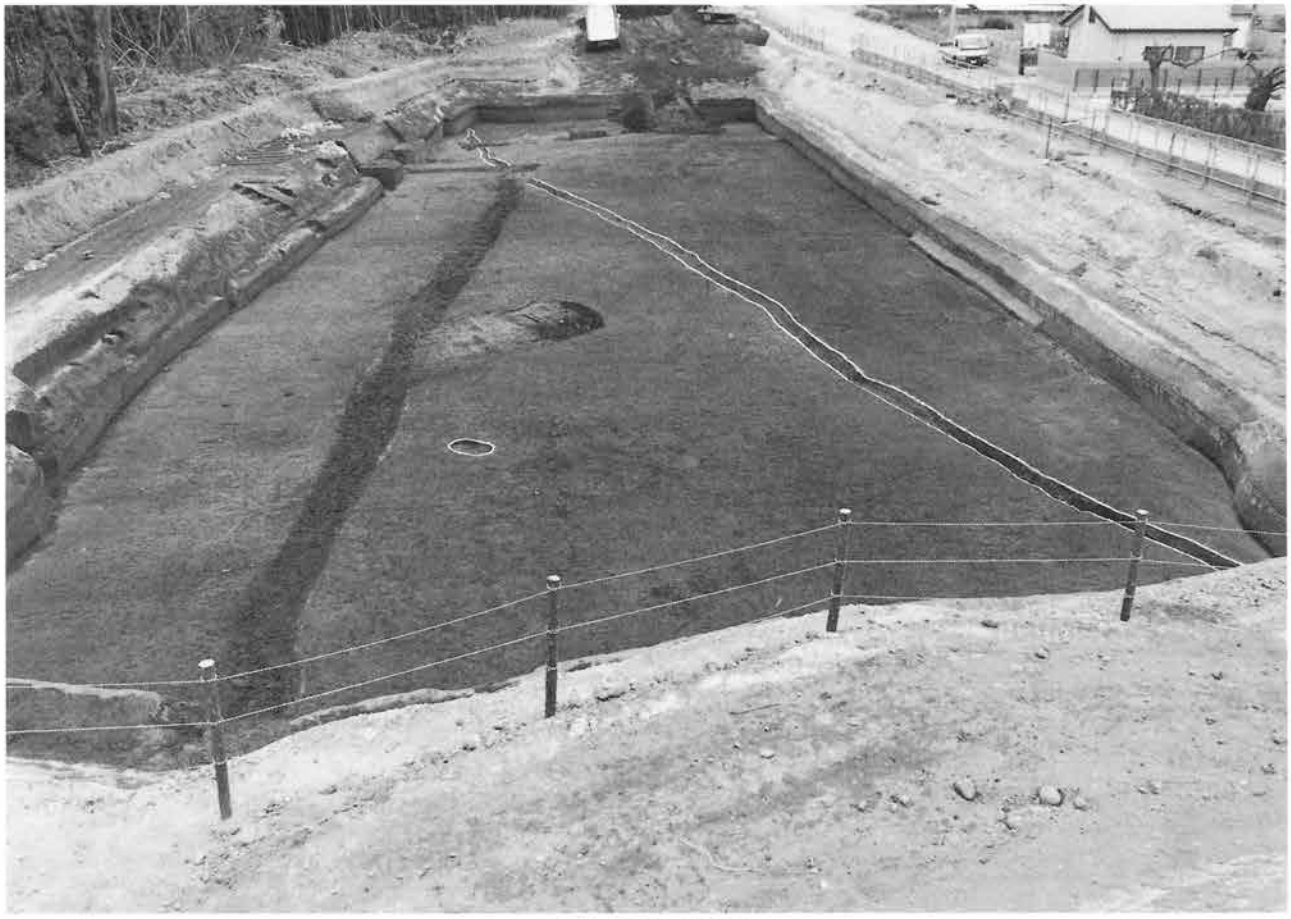
Ⅵ区6号建物跡推定平面図

S=1/100



桁行　1間＝1,820（6）
　　0.5間＝ 910（3）
　　1尺＝ 303
梁行　1間＝1,860（6.14）
　　0.5間＝ 930（3.07）
　　1尺＝ 310

写　真　図　版



II区7面全景　東より

II区6面全景　東より

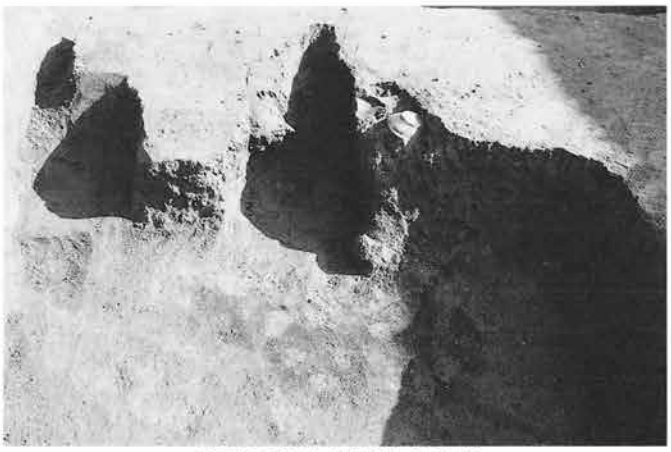
Ⅰ区5面全景　東より

Ⅰ区5面1号住居跡　北より

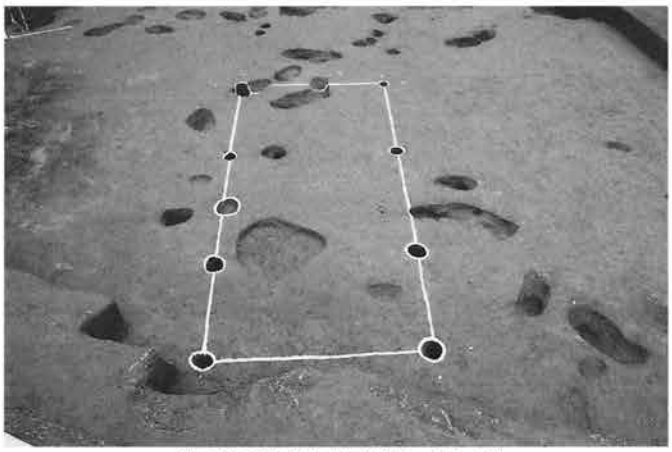
Ⅰ区5面2･3号住居跡　西より

Ⅰ区5面4号住居跡　西より

Ⅰ区5面5～8号住居跡　西より



Ⅰ区5面7号住居跡竈　西より



Ⅰ区5面1号掘立柱建物跡　西より

II区5面全景　東より

II区5面全景　西より

II区5面1号住居跡　北より

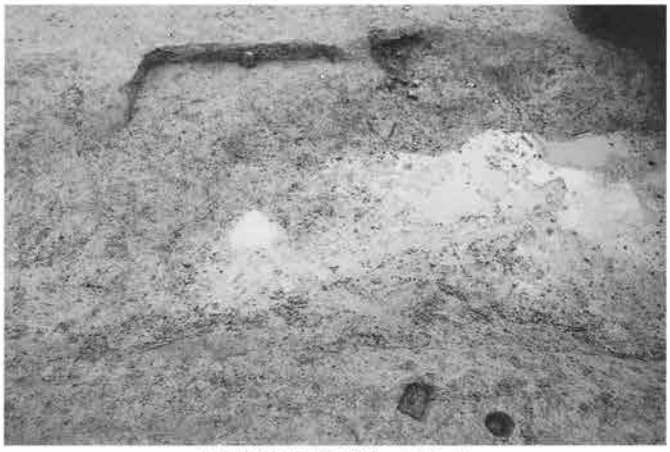
II区5面1号住居跡　西より

II区5面2号住居跡　西より

II区5面2号住居跡竈　西より

II区5面3･4号住居跡　西より

II区5面4号住居跡竈　西より

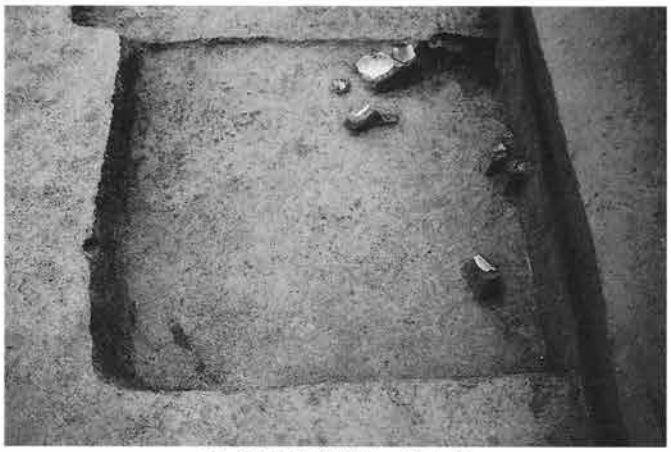


II区5面5号住居跡　西より

II区5面6号住居跡　西より

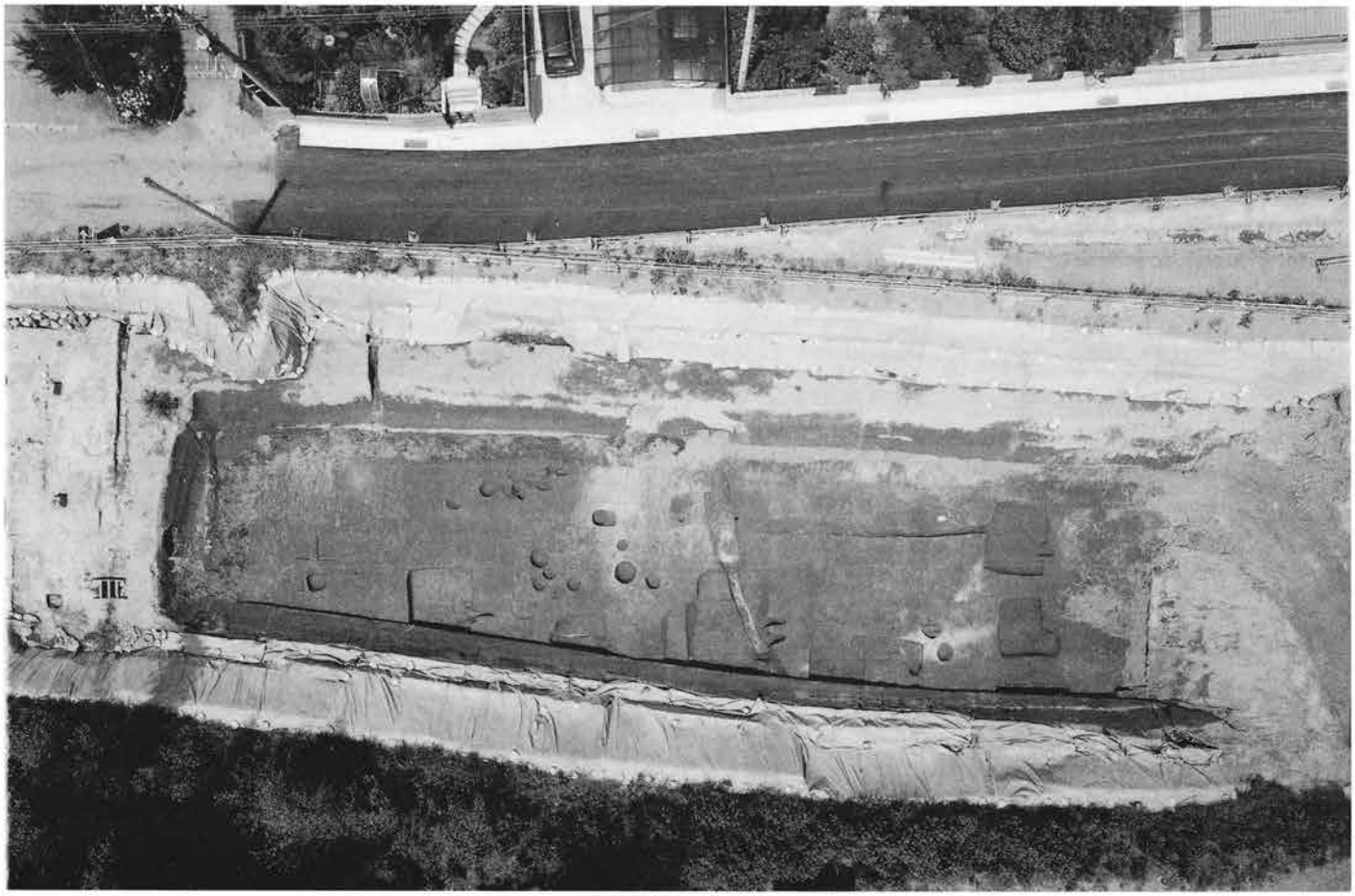
II区5面7号住居跡　西より

II区5面7号住居跡竈　西より

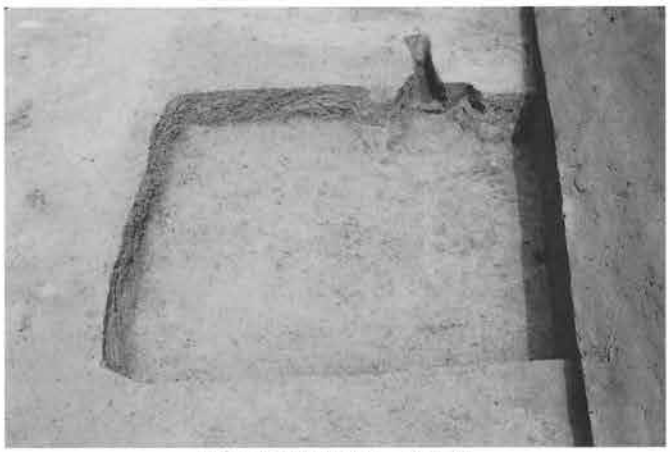


II区5面8号住居跡　西より

II区5面9号住居跡　西より



VI区5面全景　上空より



Ⅵ区5面1号住居跡　西より

Ⅵ区5面2号住居跡　西より

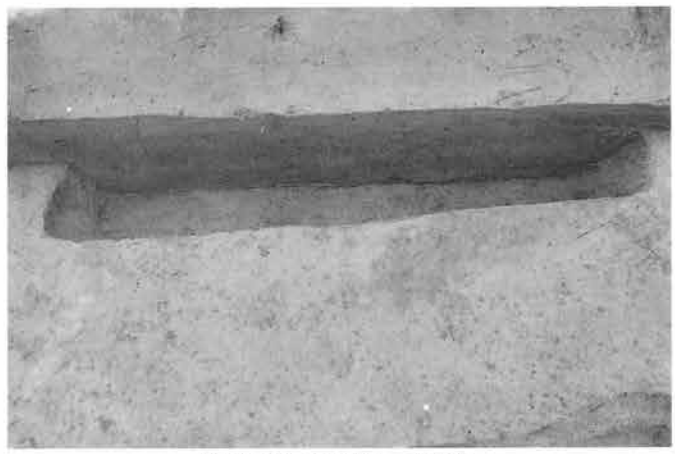
Ⅵ区5面3号住居跡　西より

Ⅵ区5面4･5号住居跡　南より

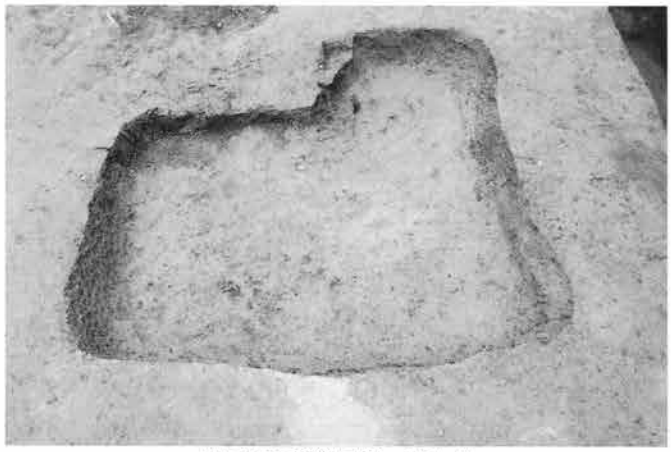
Ⅵ区5面4･5号住居跡竈　西より

Ⅵ区5面6号住居跡　北より

Ⅵ区5面7号住居跡　北より



Ⅵ区5面8号住居跡　北より

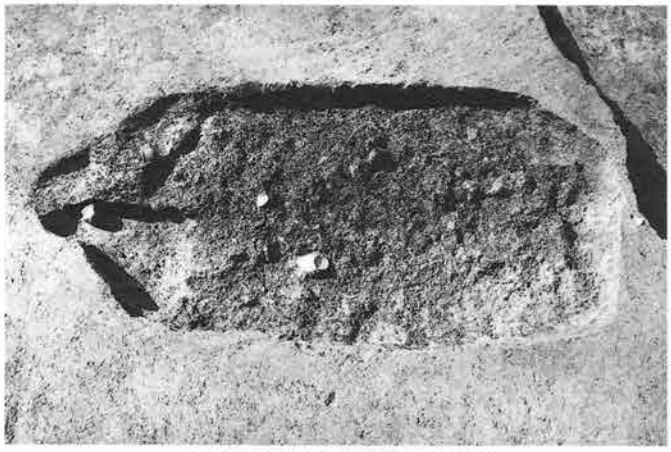


Ⅵ区5面9号住居跡　西より

Ⅵ区5面10号住居跡　西より

Ⅱ区5面21号土坑遺物出土状態

Ⅱ区5面37号土坑　北より



Ⅱ区5面38号土坑遺物出土状態

Ⅱ区5面柵列検出状況　南より

Ⅱ区5面1号道状遺構　南より

Ⅱ区5面1・2号溝　北より

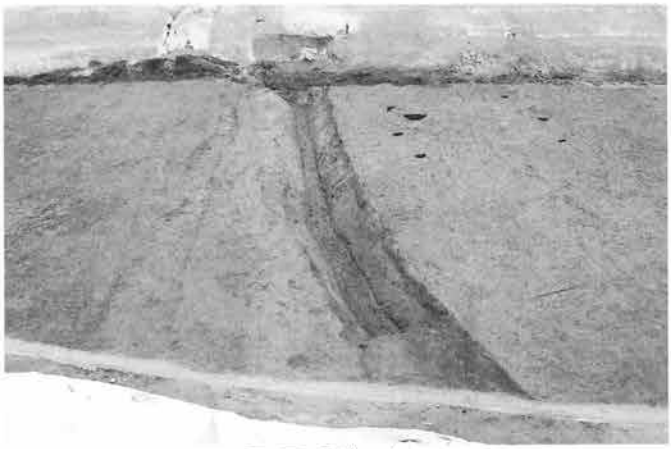
II区4面全景　東より

II区4面全景　上空より

Ⅰ区4面全景　東より

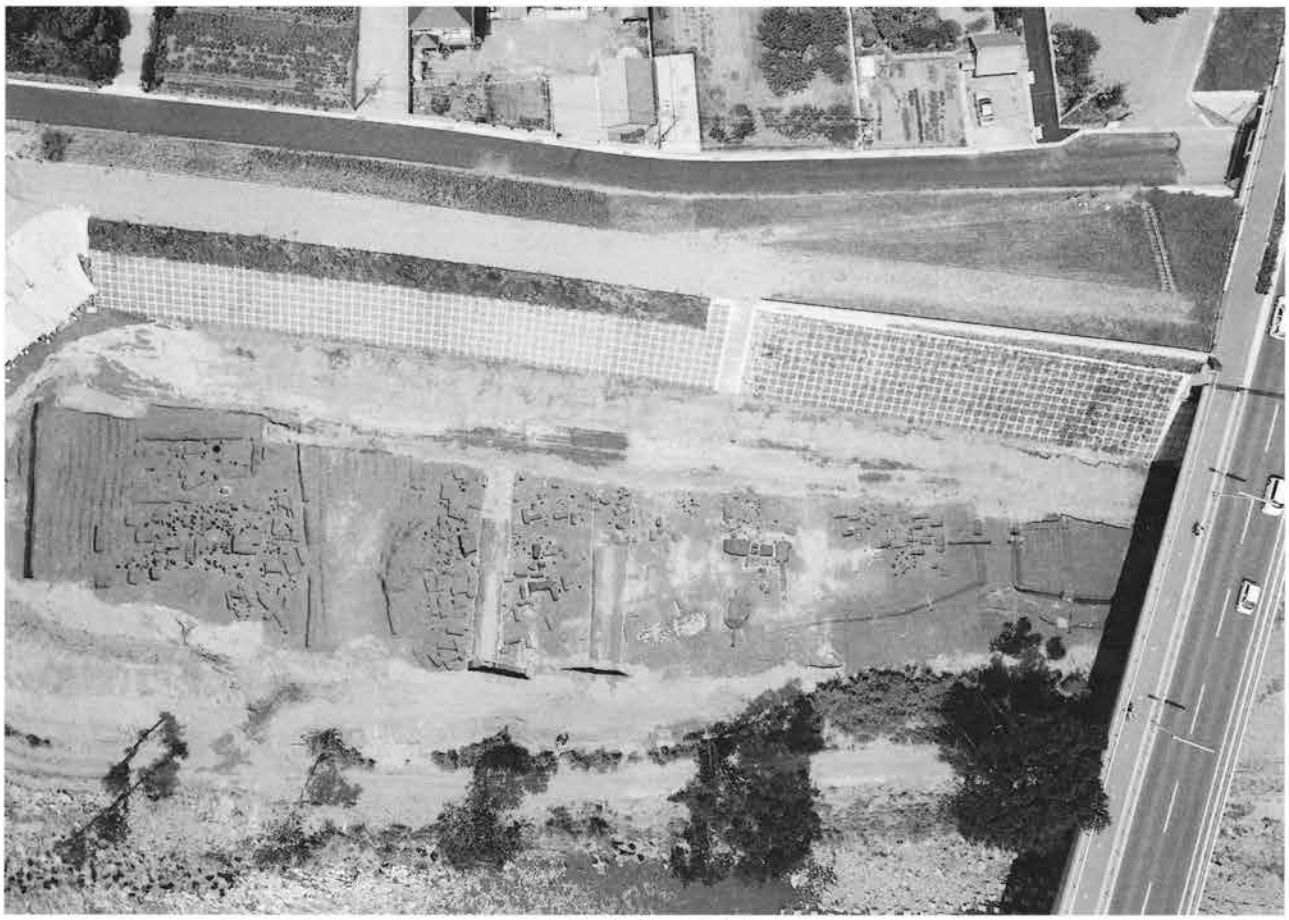
Ⅱ区4面復旧畠　南より

Ⅱ区4面10･11号溝　北より



Ⅵ区4面1号溝　南より

Ⅱ区3面全景　上空より



II区3面全景　上空より

II区3面全景　西より

Ⅰ区3面全景　北より

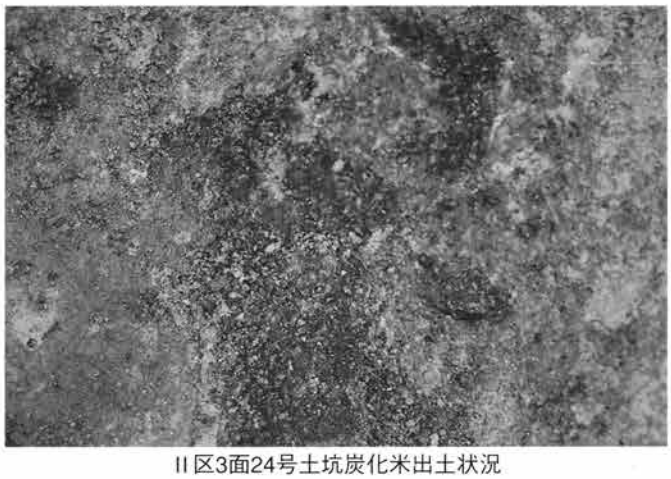
Ⅱ区3面全景　東より

Ⅱ区3面全景　東より

Ⅰ区3面38号土坑　西より

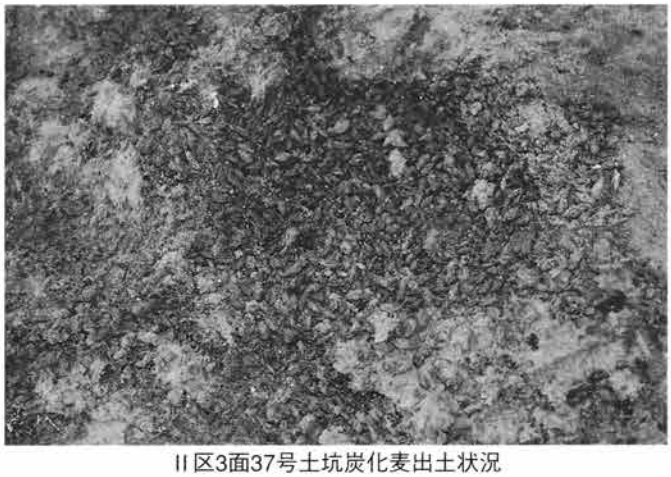
Ⅱ区3面3号土坑　北より

II区3面24号土坑　南より



II区3面24号土坑炭化米出土状況

II区3面28号土坑人骨出土状況

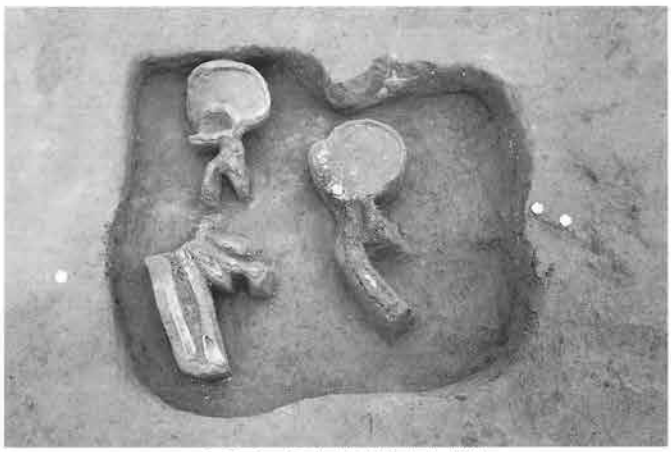


II区3面37号土坑炭化麦出土状況

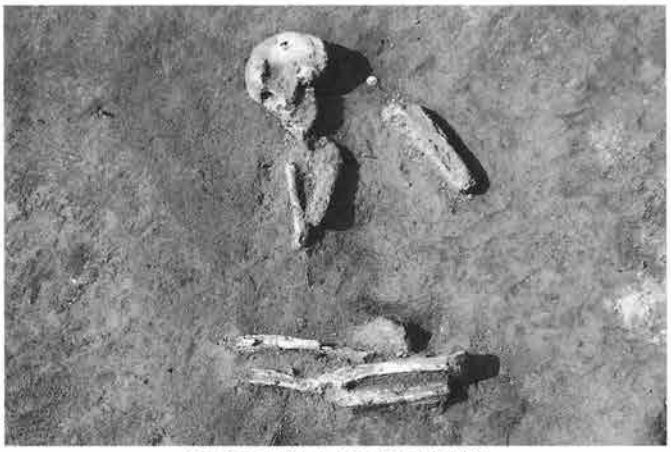
II区3面40号土坑遺物出土状況

II区3面49号土坑人骨出土状況

II区3面49号土坑人骨出土状況



II区3面62号土坑人骨出土状況

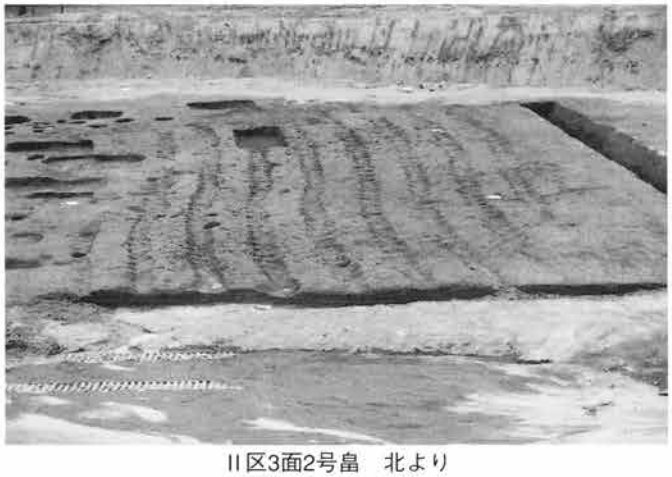


II区3面82号土坑人骨出土状況

II区3面114号土坑　南より

II区3面243号土坑遺物出土状況

II区3面255号土坑　東より



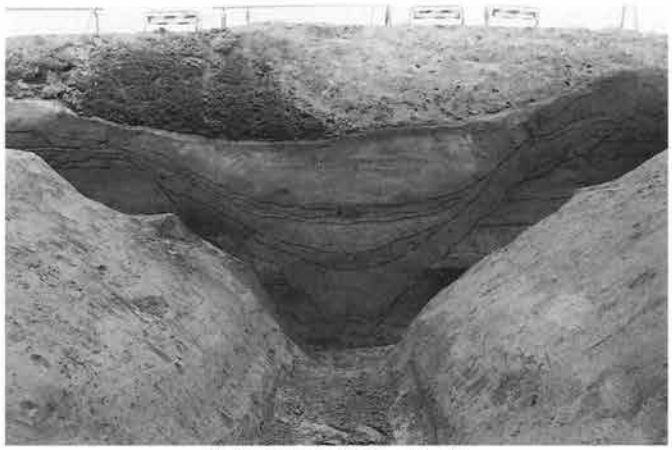
II区3面2号畠　北より

II区3面2号畠断面　南より

II区3面1号溝断面　東より

II区3面1号溝指し銭出土状況

II区3面3号溝断面　北より



VI区3面1号溝断面　西より

VI区3面1号溝折れ状況　西より

VI区3面1号溝　東より

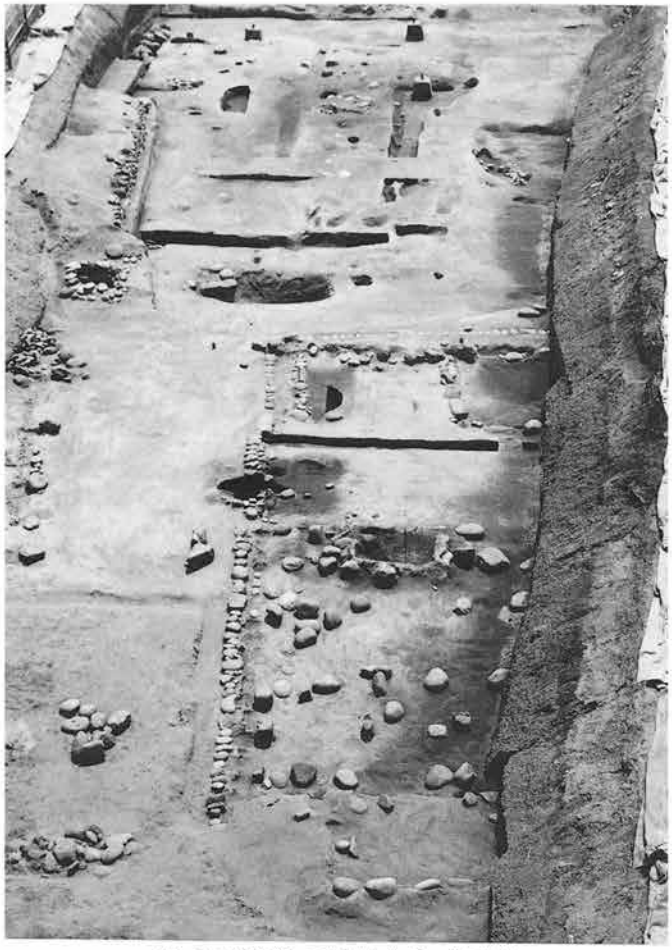
I区2面全景　西より

Ⅰ区2面1号建物跡　南より

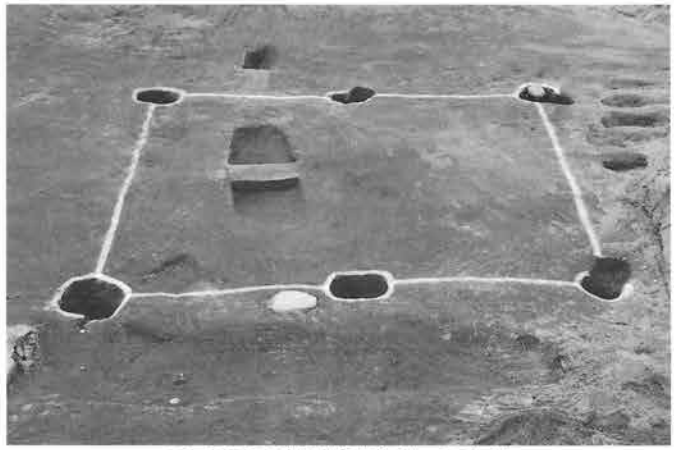
Ⅵ区2面1号建物跡遺物出土状況

Ⅵ区2面1・2号建物跡　北より

Ⅵ区2面1・2号建物跡　南より



Ⅵ区1面(手前)・2面(奥)全景　西より



Ⅵ区2面1号掘立柱建物跡　西より

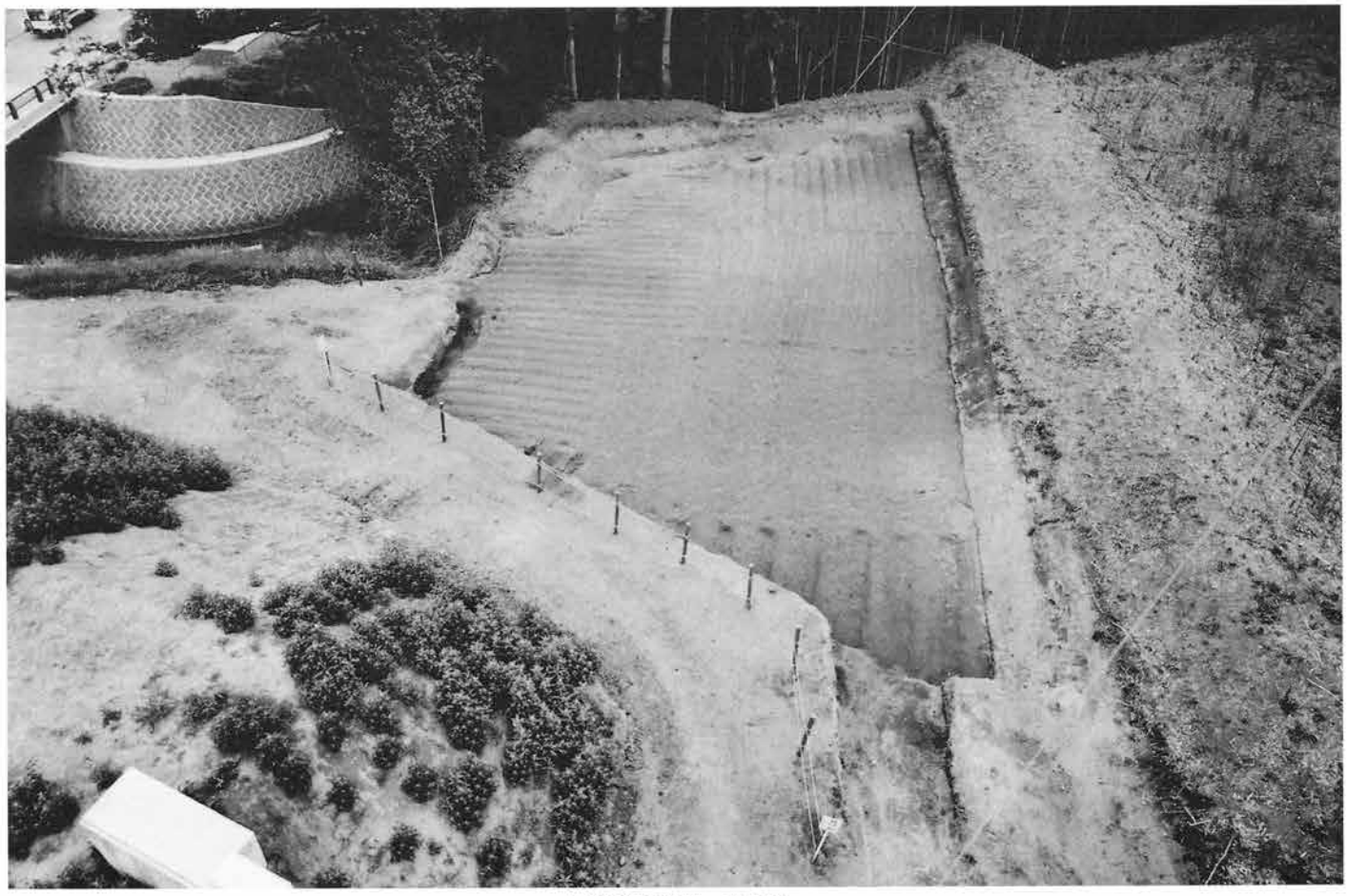
Ⅵ区2面8号建物跡旧便槽跡

II区2面1号畑　南より

II区2面2号畑　西より

II区2面畑及び1面畑断面　南より

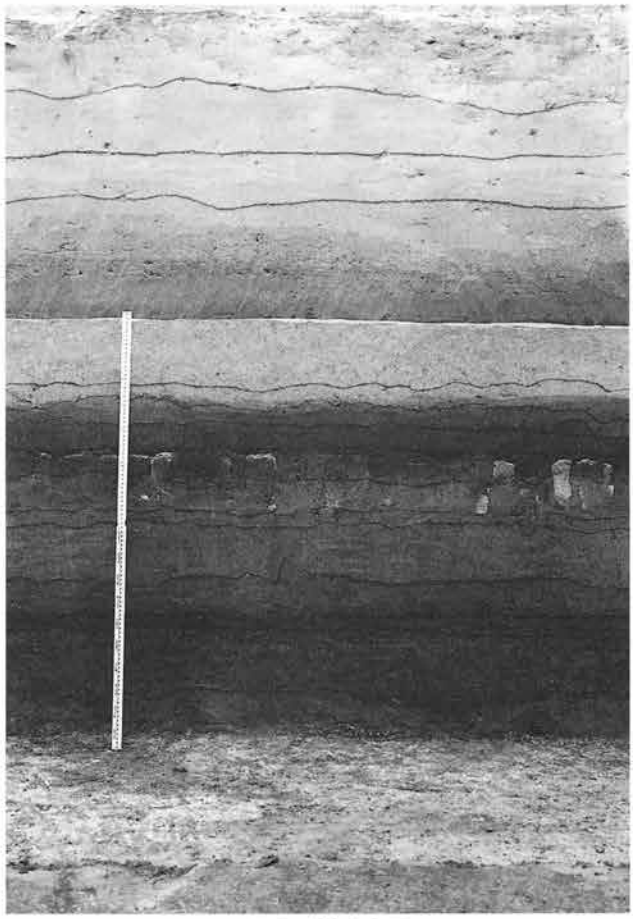
II区2面復旧溝　北より



I区1面畑全景　西より

II区調査前風景　東より

II区1面全景　上空より

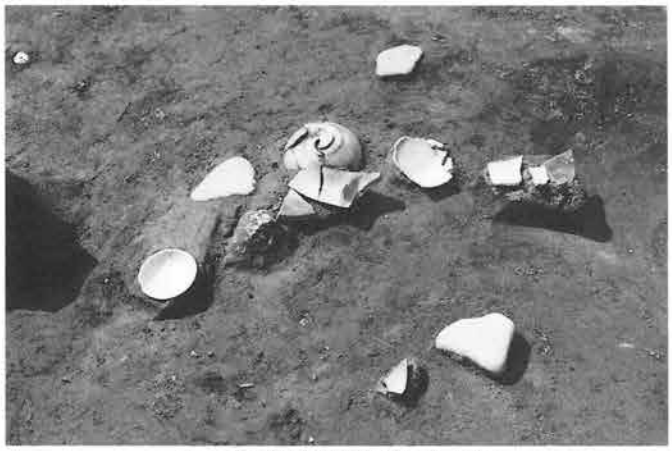


II区北壁基本土層

I区西壁基本土層

II区1面1号建物跡断面　北より

II区1面1号建物跡遺物出土状況



II区1面1号建物跡遺物出土状況

II区1面1号建物跡遺物跡囲炉裏　南より

II区1面1号建物跡囲炉裏　南より

II区1面1号建物跡竈　南より

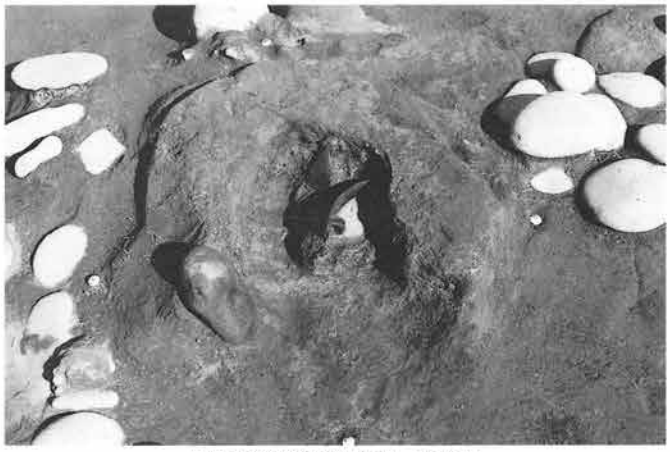
II区1面1号建物跡全景　西より

II区1面3号建物跡断面　北より

II区1面3号建物跡全景　南より

II区1面4号建物跡遺物出土状況

II区1面4号建物跡遺物出土状況



II区1面4号建物跡竈　南より

II区1面4号建物跡全景(北側部分)

II区1面4号建物跡遺物出土状況

II区1面4号建物跡囲炉裏　南より

II区1面4号建物跡遺物出土状況

II区1面4号建物跡床材痕検出状況

II区1面4号建物跡遺物出土状況

II区1面6号建物跡遺物出土状況

II区1面6号建物跡遺物出土状況

II区1面6号建物跡遺物出土状況

II区1面6号建物跡遺物出土状況

II区1面6号建物跡遺物出土状況

II区1面6号建物跡遺物出土状況

II区1面6号建物跡竈遺物出土状況

II区1面6号建物跡遺物出土状況

II区1面6号建物跡遺物出土状況

II区1面6号建物跡囲炉裏　南より

II区1面6号建物跡竈鉄釜出土状況

II区1面6号建物跡遺物出土状況

II区1面6号建物跡遺物出土状況

II区1面6号建物跡全景　南より

IV区1面全景　東より

Ⅵ区1面1号建物跡壁検出状況　西より

Ⅵ区1面1号建物跡壁検出状況　北より

Ⅵ区1面1号建物跡遺物出土状況　東より

Ⅵ区1面1号建物跡壁検出状況　南より

Ⅵ区1面1号建物跡壁検出遺跡状況　北より

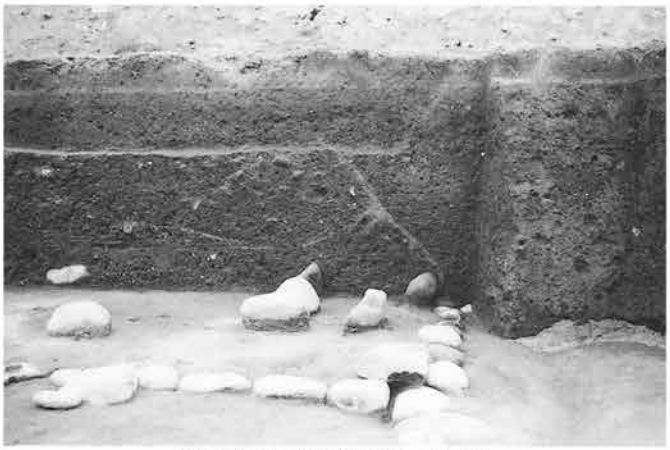
Ⅵ区1面1号建物跡壁状況

Ⅵ区1面1号建物跡壁断面

Ⅵ区1面1号建物跡壁状況　北より

Ⅵ区1面1号建物跡囲炉裏　東より

Ⅵ区1面1号建物跡全景(南側部分)　北より



Ⅵ区1面1号建物跡断面　北より

Ⅵ区1面1号建物跡壁検出状況

Ⅵ区1面1号建物跡床材検出状況

Ⅵ区1面1号建物跡遺物出土状況

Ⅵ区1面1号建物跡模造小判出土状況

Ⅵ区1面1号建物(北側部分)　北より

Ⅵ区1面1号建物跡囲炉裏

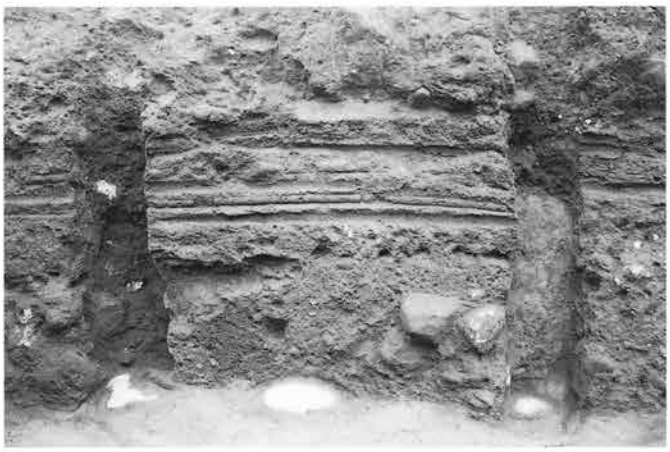
Ⅵ区1面1号建物跡竈検出状況

Ⅵ区1面1号建物跡壁検出状況

Ⅵ区1面1号建物跡柱痕・遺物出土状況

Ⅵ区1面1号建物跡柱・壁痕

Ⅵ区1面1号建物跡壁竹小舞痕



Ⅵ区1面1号建物跡竹材痕

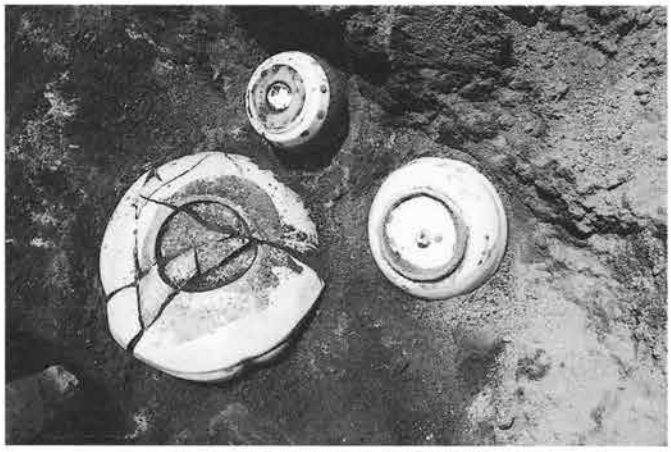
Ⅵ区1面1号建物跡竈検出状況　東より

Ⅵ区1面1号建物跡壁検出状況　西より

Ⅵ区1面1号建物跡(南側部分)　東より

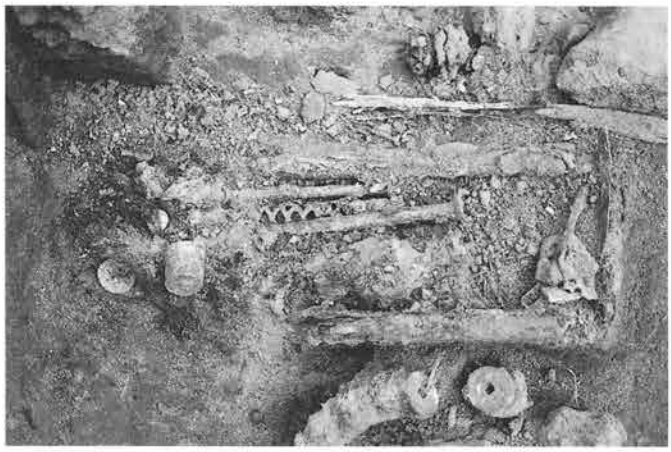
Ⅵ区1面2号建物跡(北側部分)　北より

Ⅵ区1面2号建物跡遺物出土状況　南より



Ⅵ区1面2号建物跡遺物出土状況

Ⅵ区1面2号建物跡遺物出土状況



Ⅵ区1面2号建物跡遺物出土状況

Ⅵ区1面2号建物跡遺物出土状況

Ⅵ区1面2号建物跡遺物出土状況

Ⅵ区1面2号建物跡遺物出土状況

Ⅵ区1面2号建物跡遺物出土状況

Ⅵ区1面2号建物跡排水坑全景

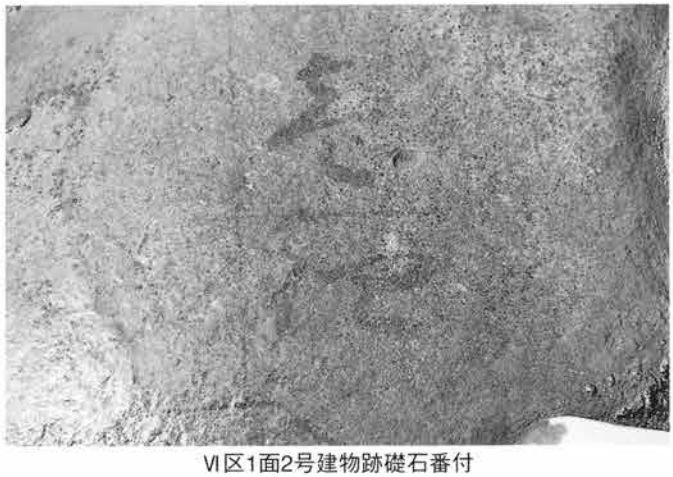
Ⅵ区1面2号建物跡遺物出土状況

Ⅵ区1面2号建物跡囲炉裏遺物出土状況

Ⅵ区1面2号建物跡馬屋排水坑全景

Ⅵ区1面2号建物跡礎石番付

Ⅵ区1面2号建物跡礎石番付



Ⅵ区1面2号建物跡礎石番付

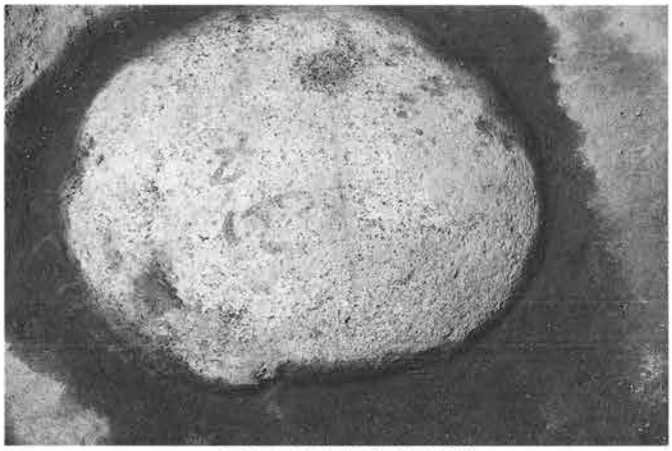
Ⅵ区1面2号建物跡(東側部分)　南より

Ⅵ区1面2号建物跡(東側部分)　東より

Ⅵ区1面2号建物跡遺物出土状況

Ⅵ区1面2号建物跡囲炉裏　南より

Ⅵ区1面2号建物跡遺物出土状況



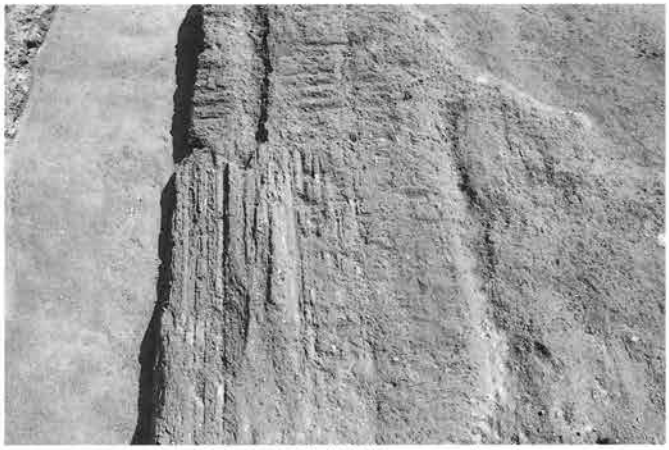
Ⅵ区1面2号建物跡礎石番付

Ⅵ区1面2号建物跡礎石番付

Ⅵ区1面2号建物跡礎石番付

Ⅵ区1面3号建物跡断面　南より

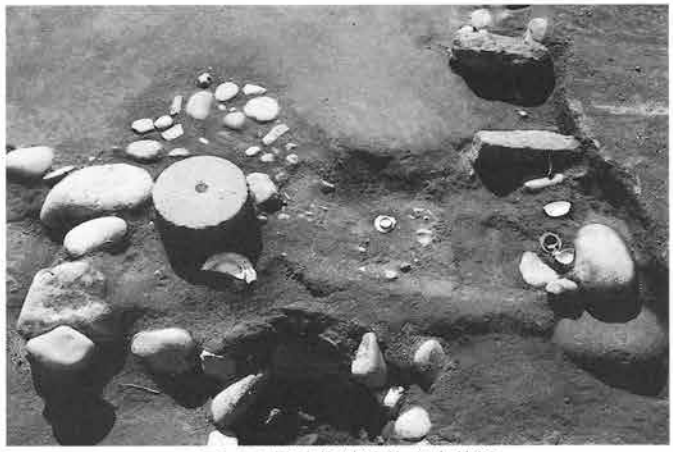
Ⅵ区1面3号建物跡ムシロ痕



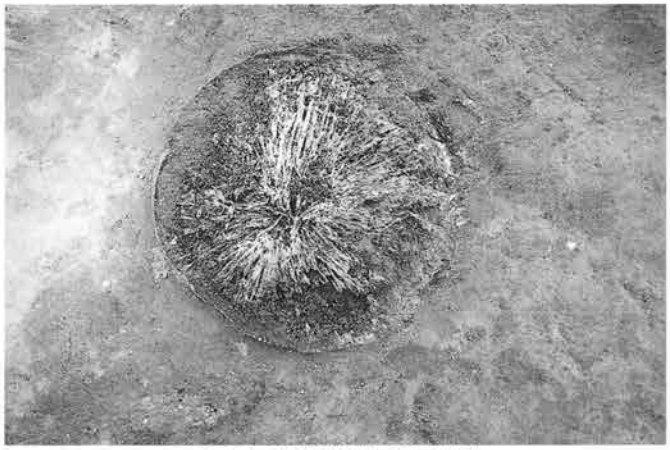
Ⅵ区1面3号建物跡竹スノコ痕

Ⅵ区1面3号建物跡竹スノコ痕

Ⅵ区1面3号建物跡遺物出土状況　南より



Ⅵ区1面3号建物跡遺物出土状況



Ⅵ区1面3号建物跡石臼下藁痕

Ⅵ区1面3号建物跡排水坑全景

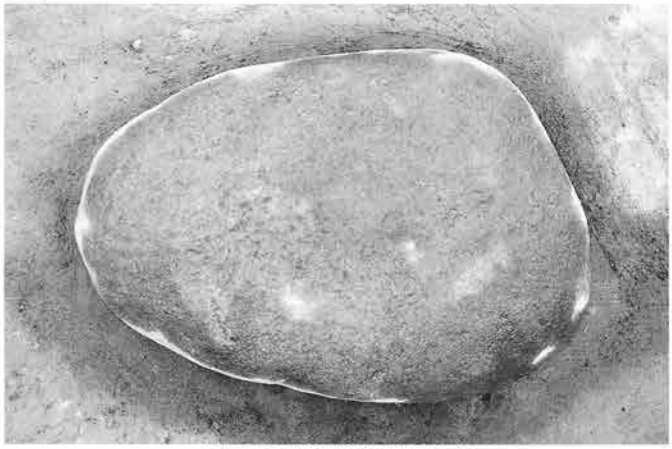
Ⅵ区1面3号建物跡全景　南より

Ⅵ区1面3号建物跡竹スノコ痕検出状況

Ⅵ区1面3号建物跡床柱痕　南より

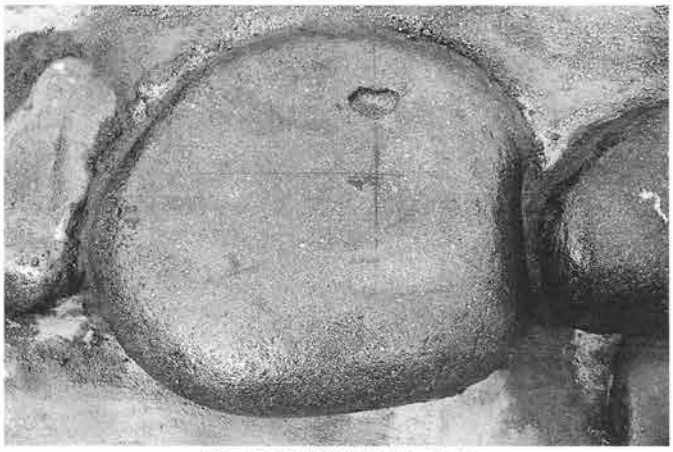
Ⅵ区1面3号建物跡囲炉裏　西より

Ⅵ区1面3号建物跡石臼出土状況



Ⅵ区1面3号建物跡礎石番付

Ⅵ区1面3号建物跡礎石番付



Ⅵ区1面3号建物跡礎石番付

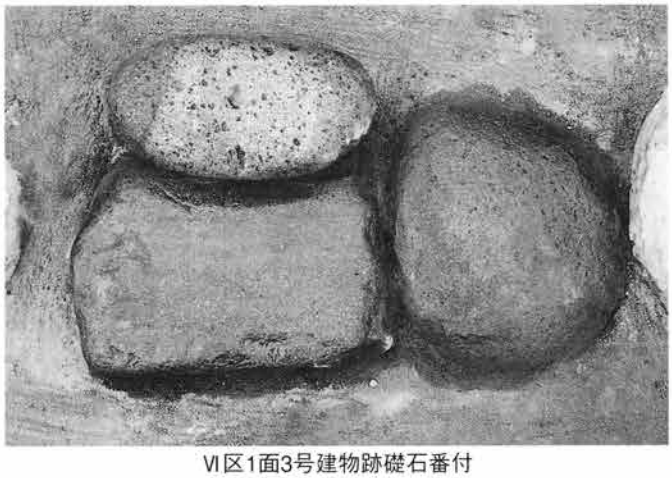
Ⅵ区1面3号建物跡断面　南より

Ⅵ区1面3号建物跡出土状況

Ⅵ区1面3号建物跡遺物出土状況

Ⅵ区1面3号建物跡礎石番付

Ⅵ区1面3号建物跡礎石番付



Ⅵ区1面3号建物跡礎石番付

Ⅵ区1面3号建物跡礎石番付

Ⅵ区1面5号建物跡　西より

Ⅵ区1面6号建物跡石組　北より

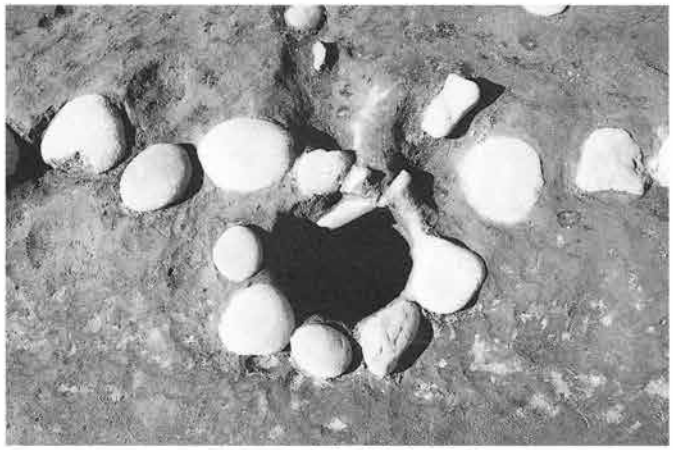
Ⅵ区1面6号建物跡全景　北より

Ⅵ区1面6号建物跡囲炉裏　北より

Ⅵ区1面6号建物跡囲炉裏　西より

Ⅵ区1面6号建物跡便所　西より

Ⅵ区1面6号建物跡便所大壷断面



Ⅵ区1面6号建物跡排水坑全景

Ⅵ区1面7号建物跡全景　北より

II区1面2号建物跡全景　西より

II区1面5号建物跡全景　南より

II区1面7号建物跡全景　東より

VI区1面4号建物跡全景　西より

VI区1面8号建物跡全景　西より

II区1面9号建物跡全景　西より

II区1面1号井戸全景　東より

II区1面1号井戸断面　北より

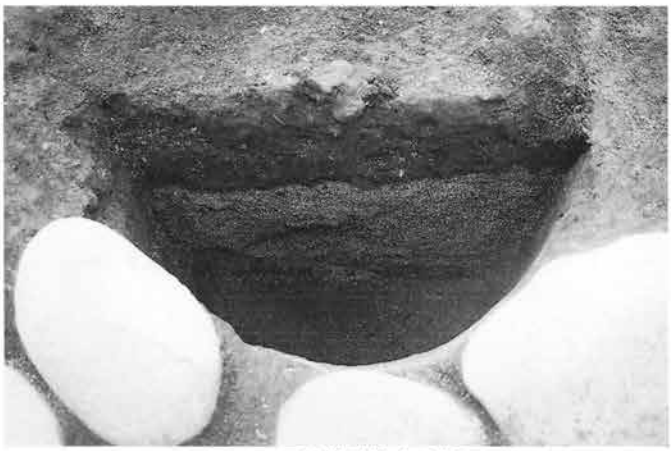
II区1面2号建物跡便槽断面

II区1面2号建物跡便槽断面

II区1面2号建物跡便槽完掘状況

II区1面1号井戸全景

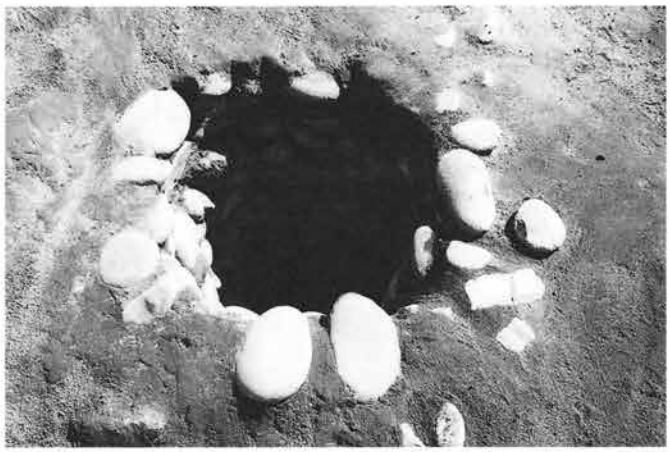
II区1面1号建物跡内土坑



II区1面1号建物跡排水坑断面

VI区1面土坑

VI区1面1号土坑全景　北より



Ⅵ区1面1号井戸全景　西より

Ⅵ区1面1号土坑全景　西より

Ⅱ区1面2号集石全景　西より

Ⅱ区1面1号溝・1号土手断面　南より

Ⅱ区1面3・4号溝　東より

Ⅱ区1面5号道断面　南より

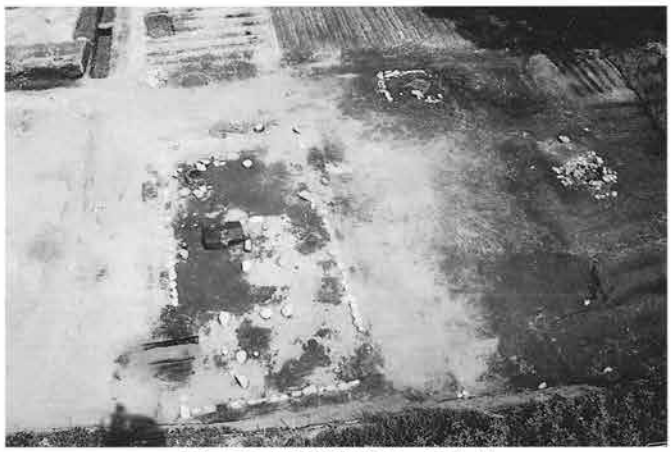
Ⅱ区1面1号道・5号溝　西より

Ⅵ区1面1号道断面　南より

II区1面全景　東より

II区1面1号建物跡全景　上空より

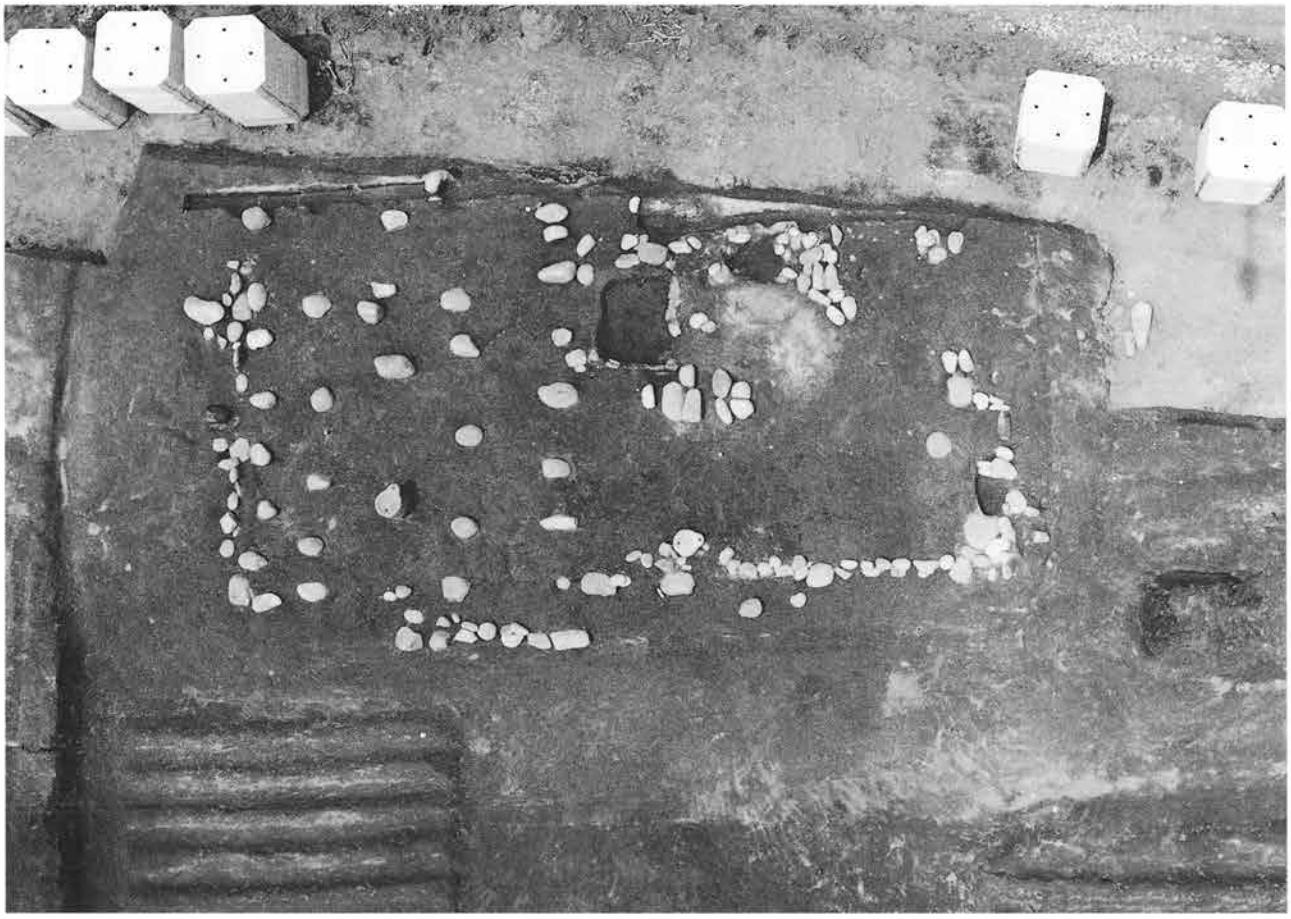
II区1面1号建物跡全景　上空より



II区1面1号建物跡全景　西より

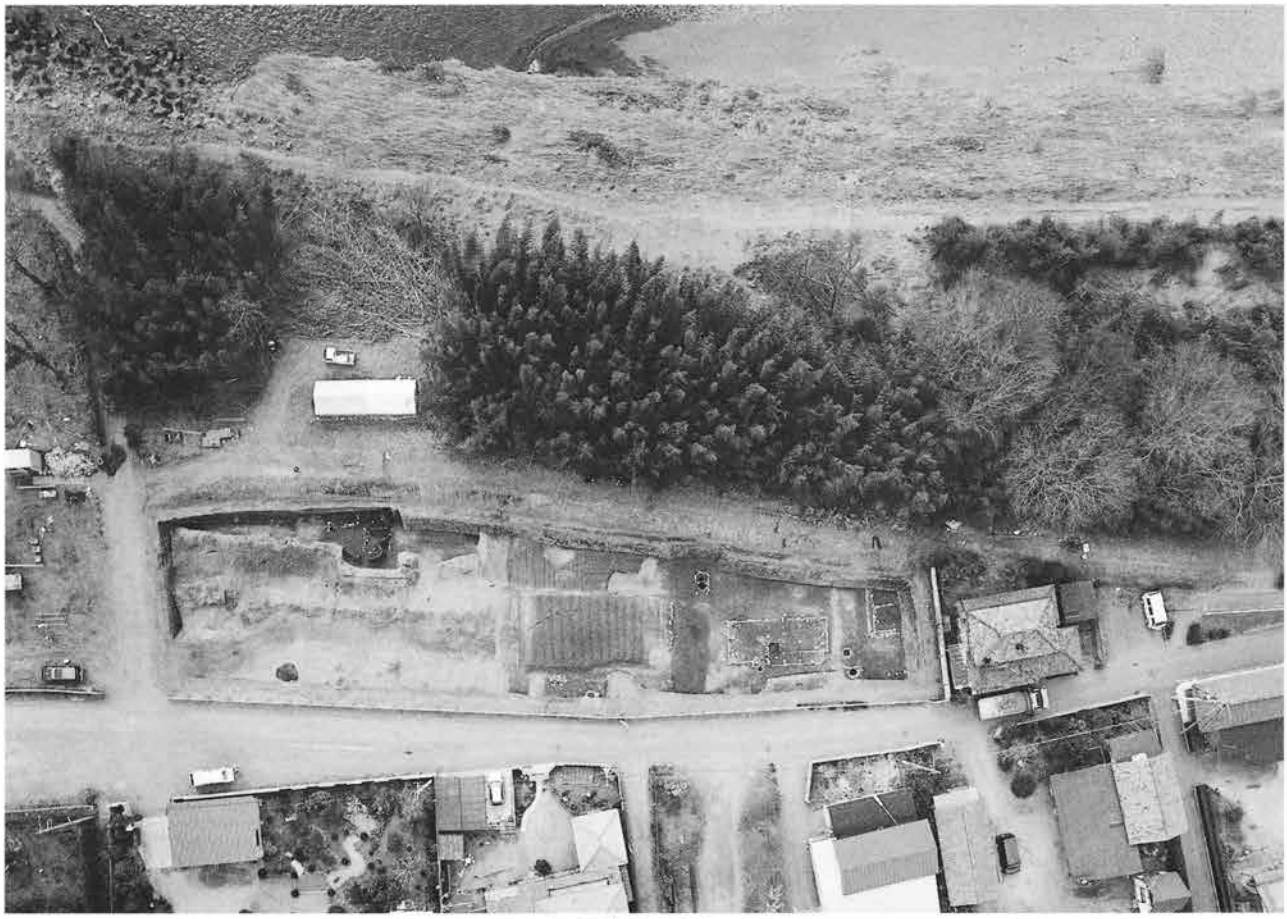
II区1面3号建物跡全景　東より

II区1面3号建物跡全景　上空より

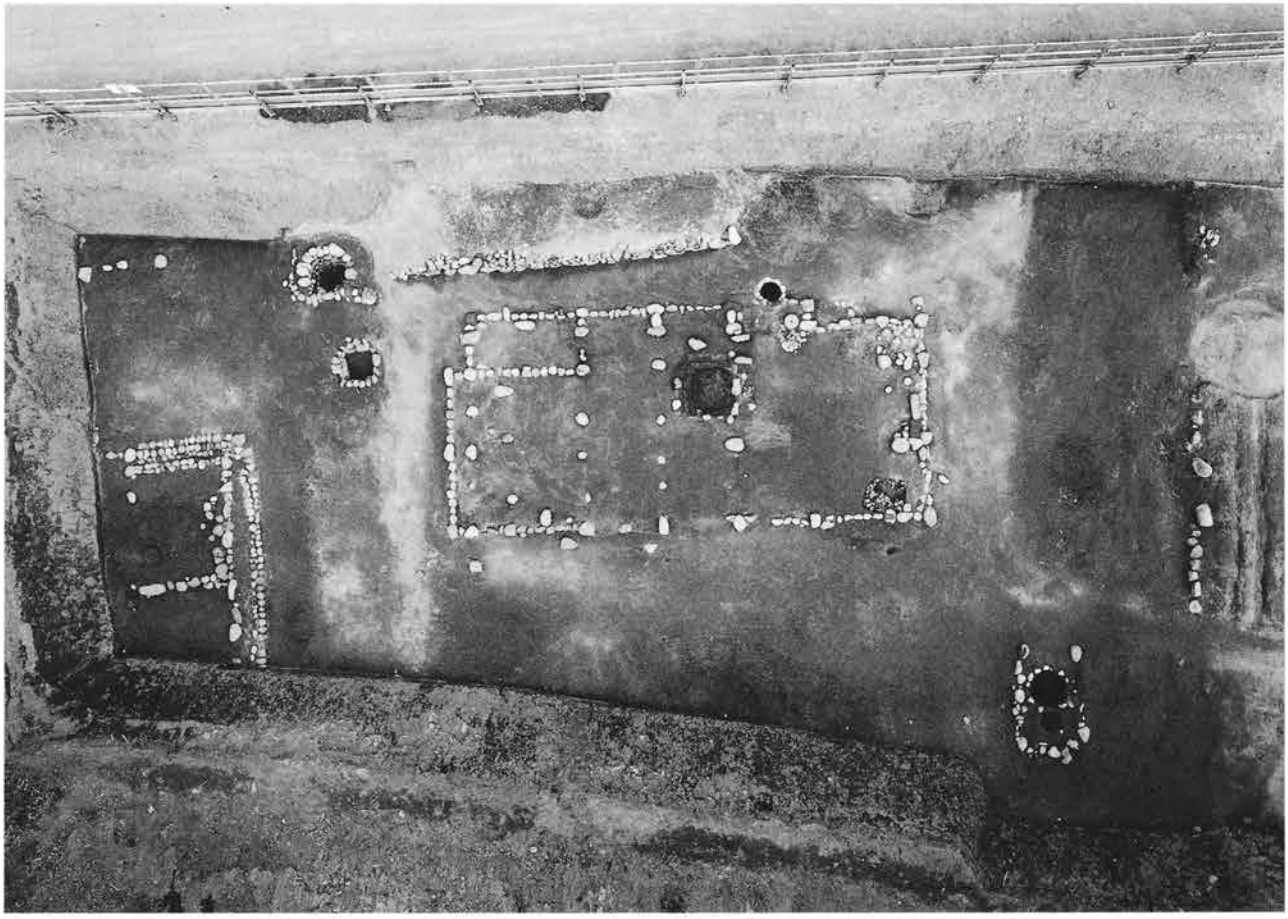


II区4号建物跡全景　上空より

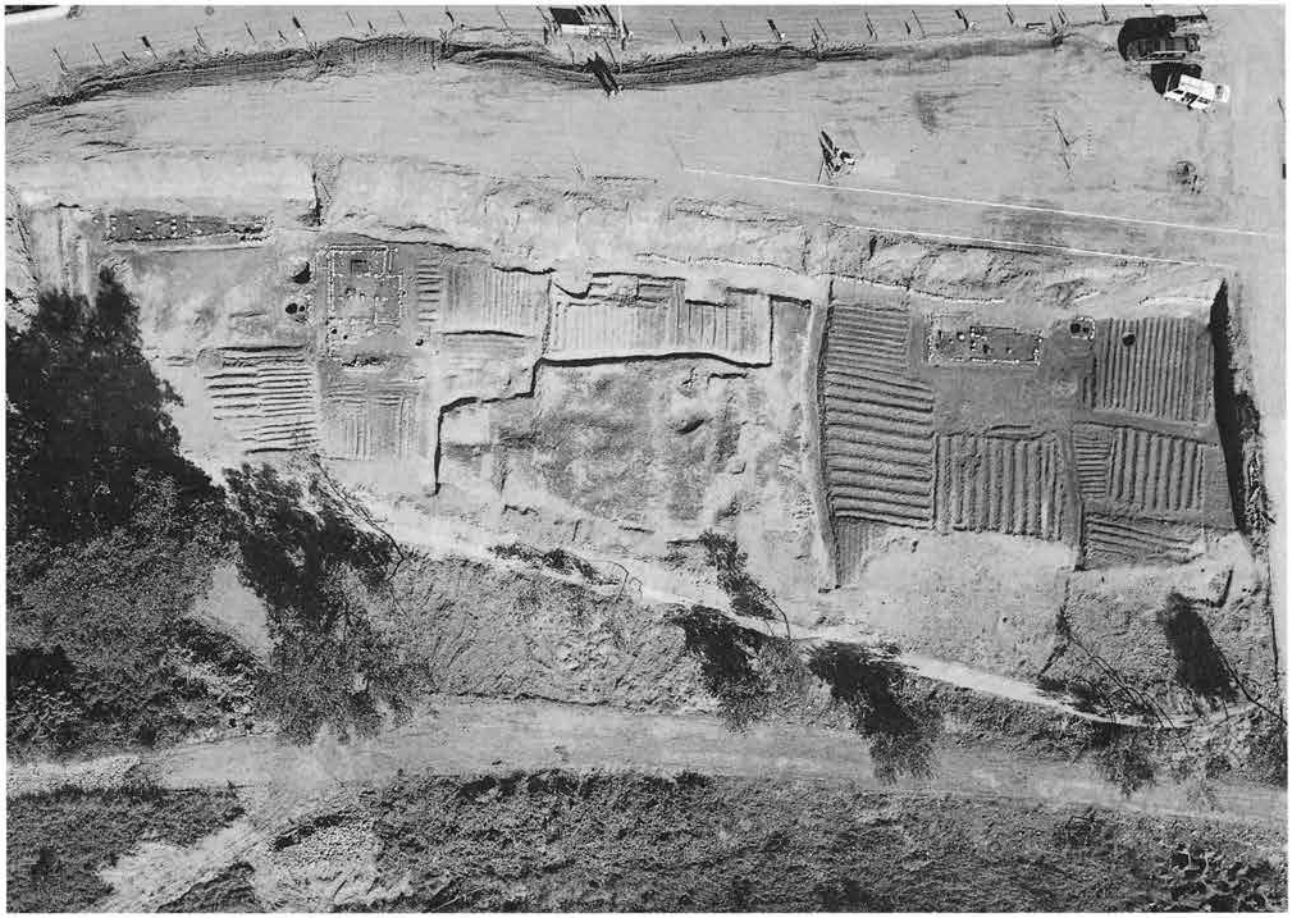
II区6号建物跡全景　上空より



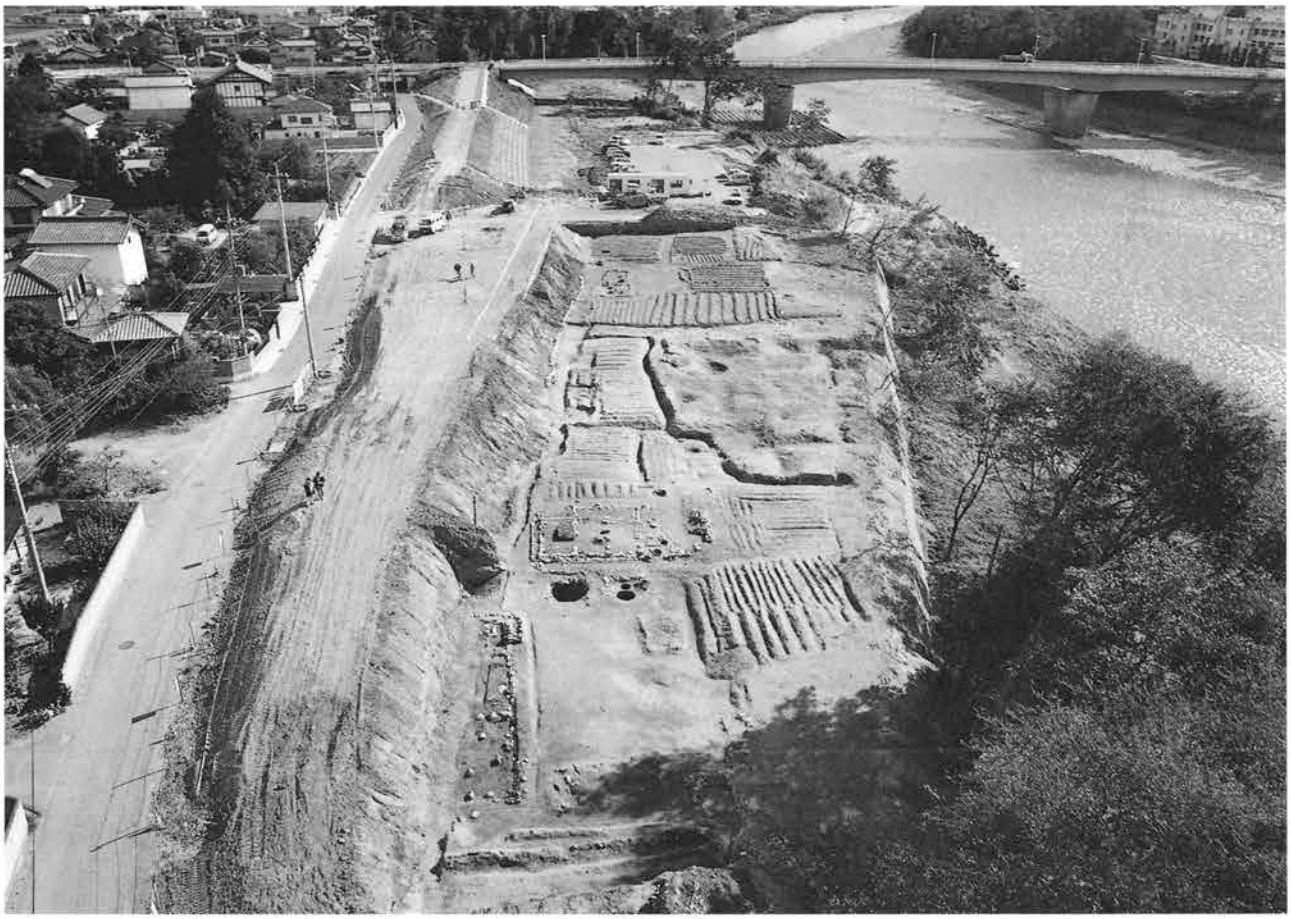
Ⅵ区1面全景　上空より



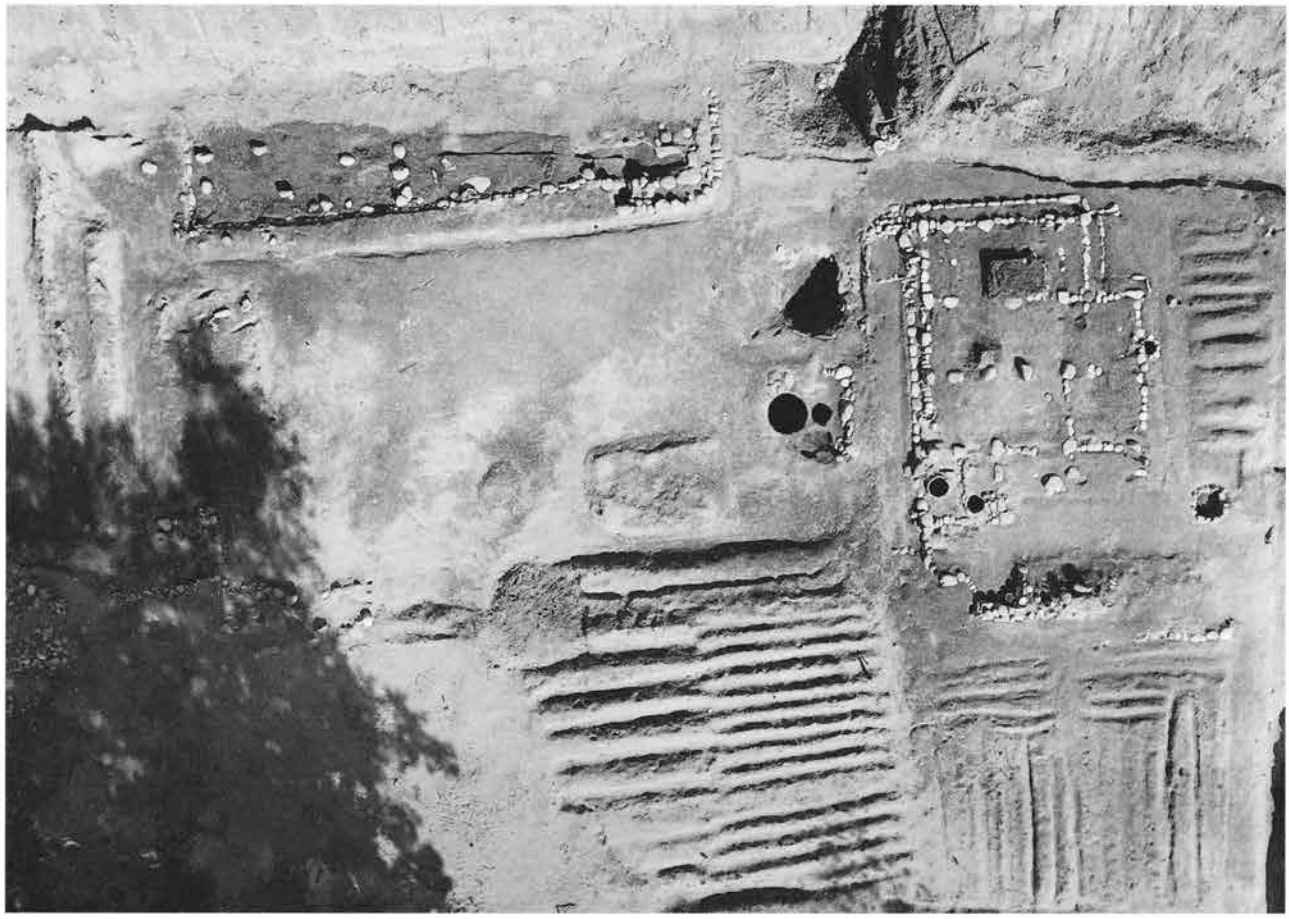
Ⅵ区1面全景(2･3号建物跡)　上空より



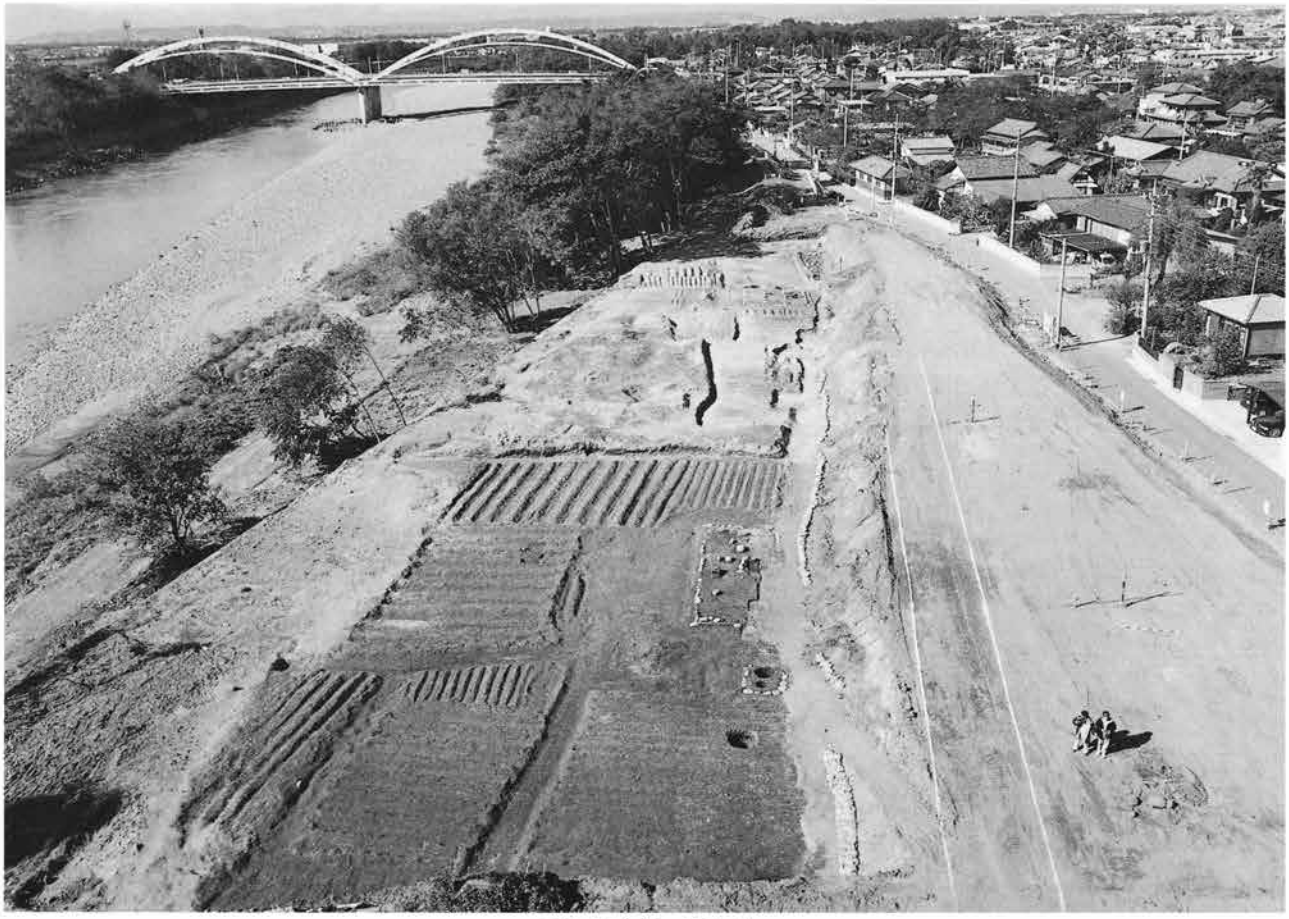
Ⅵ区1面全景　上空より



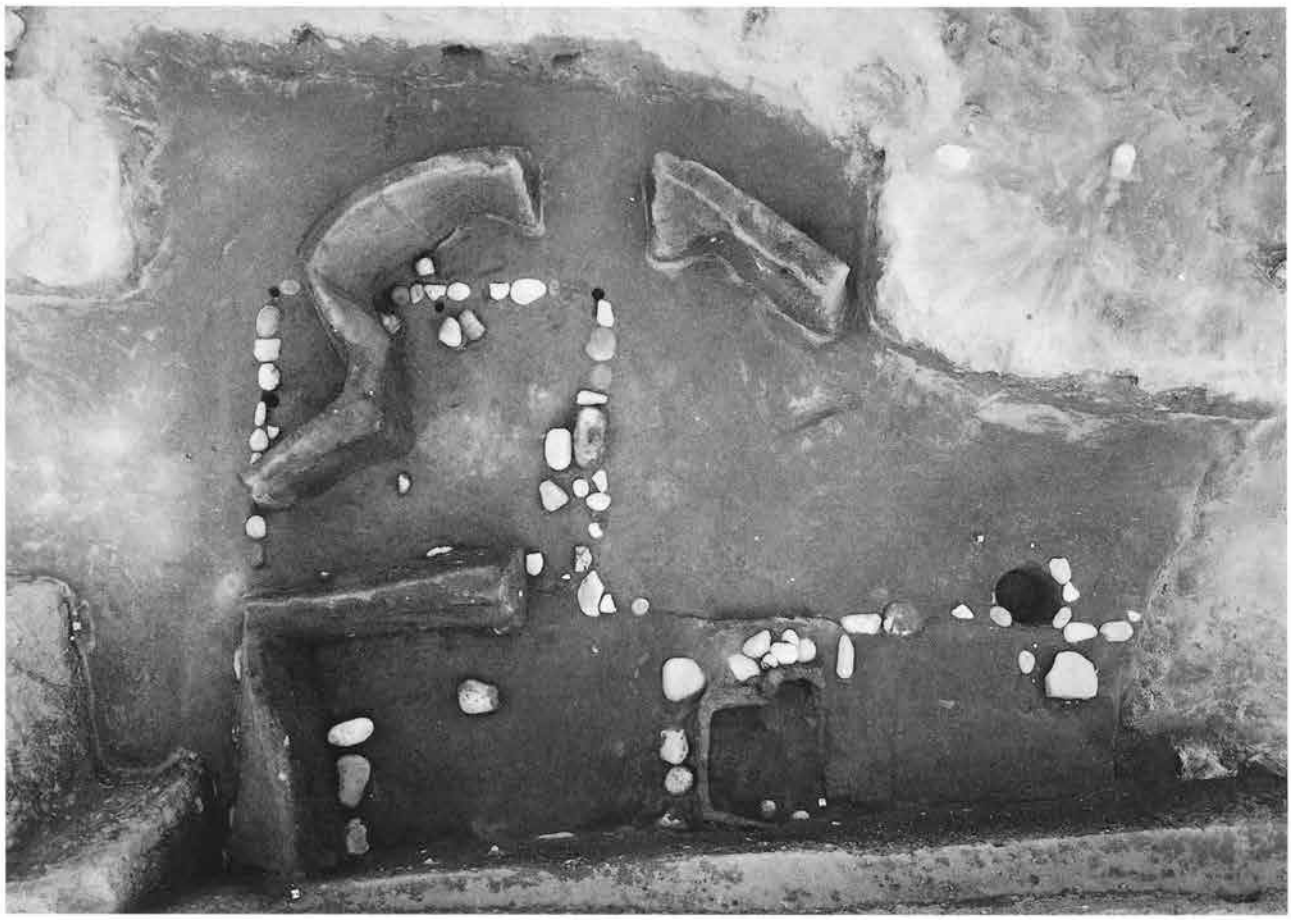
Ⅵ区1面全景　西より



Ⅵ区1面全景(2･6号建物跡)　上空より

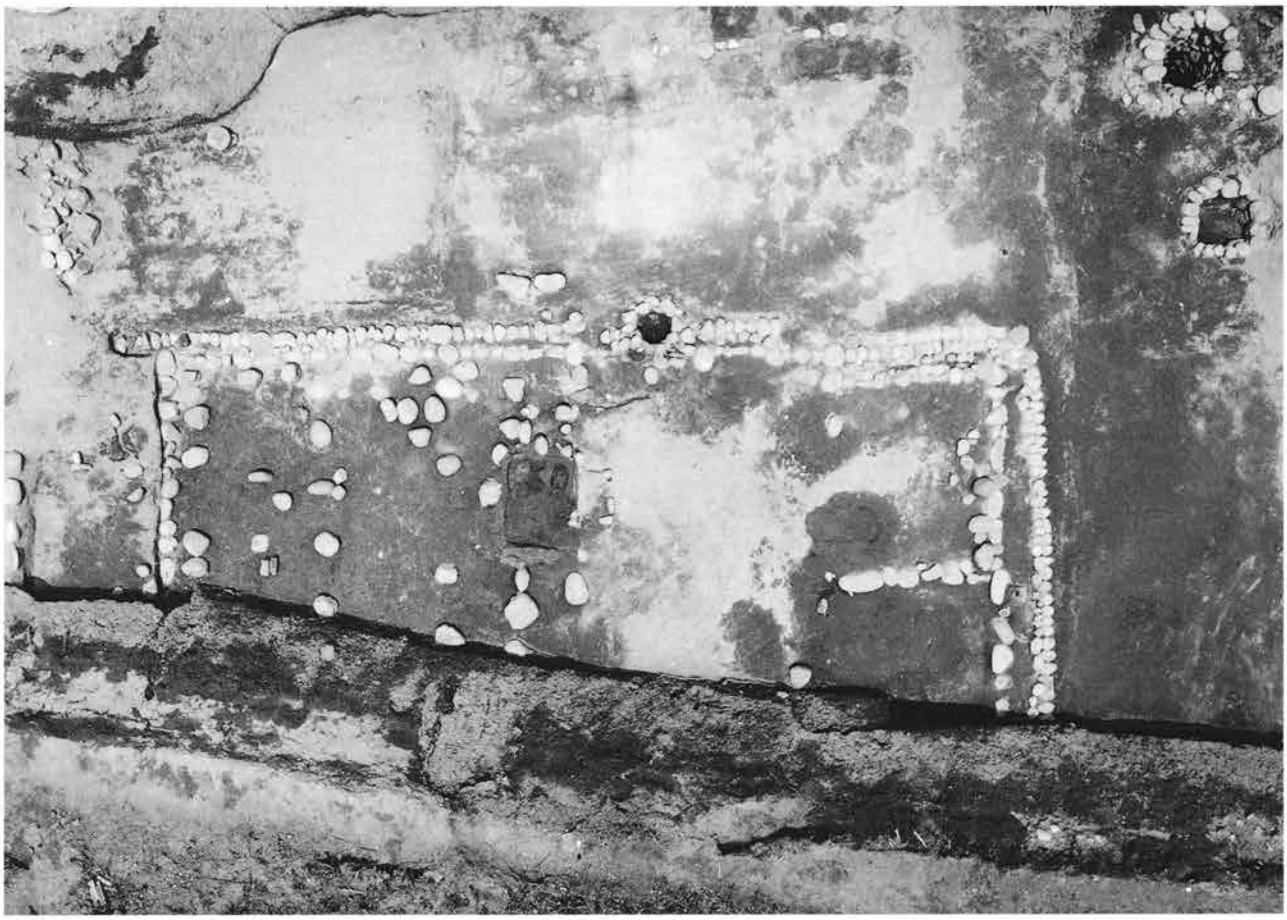


Ⅵ区1面全景　東より



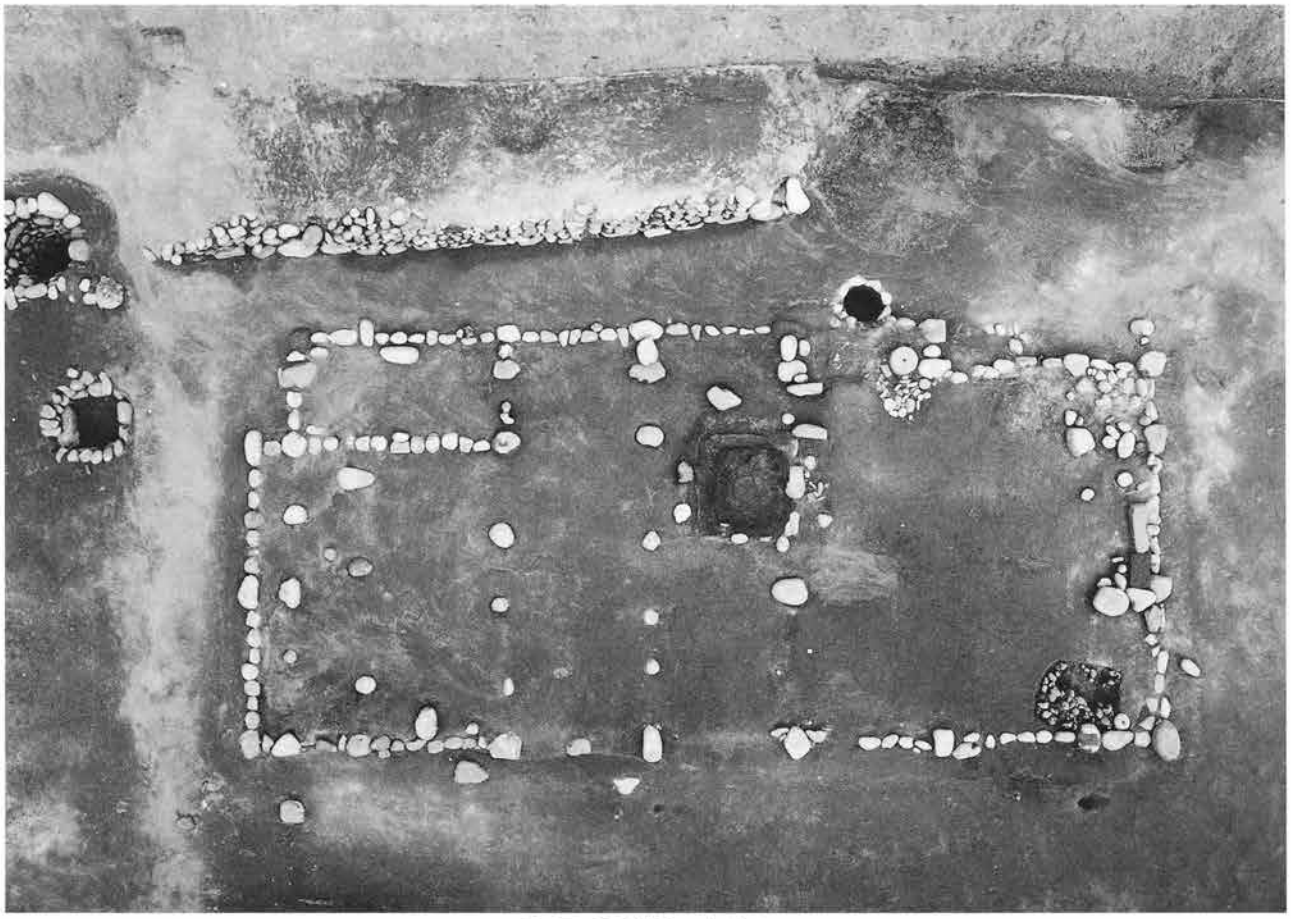
Ⅵ区1面1号建物跡(北側部分)　上空より

Ⅵ区1面1号建物跡(南側部分)　上空より

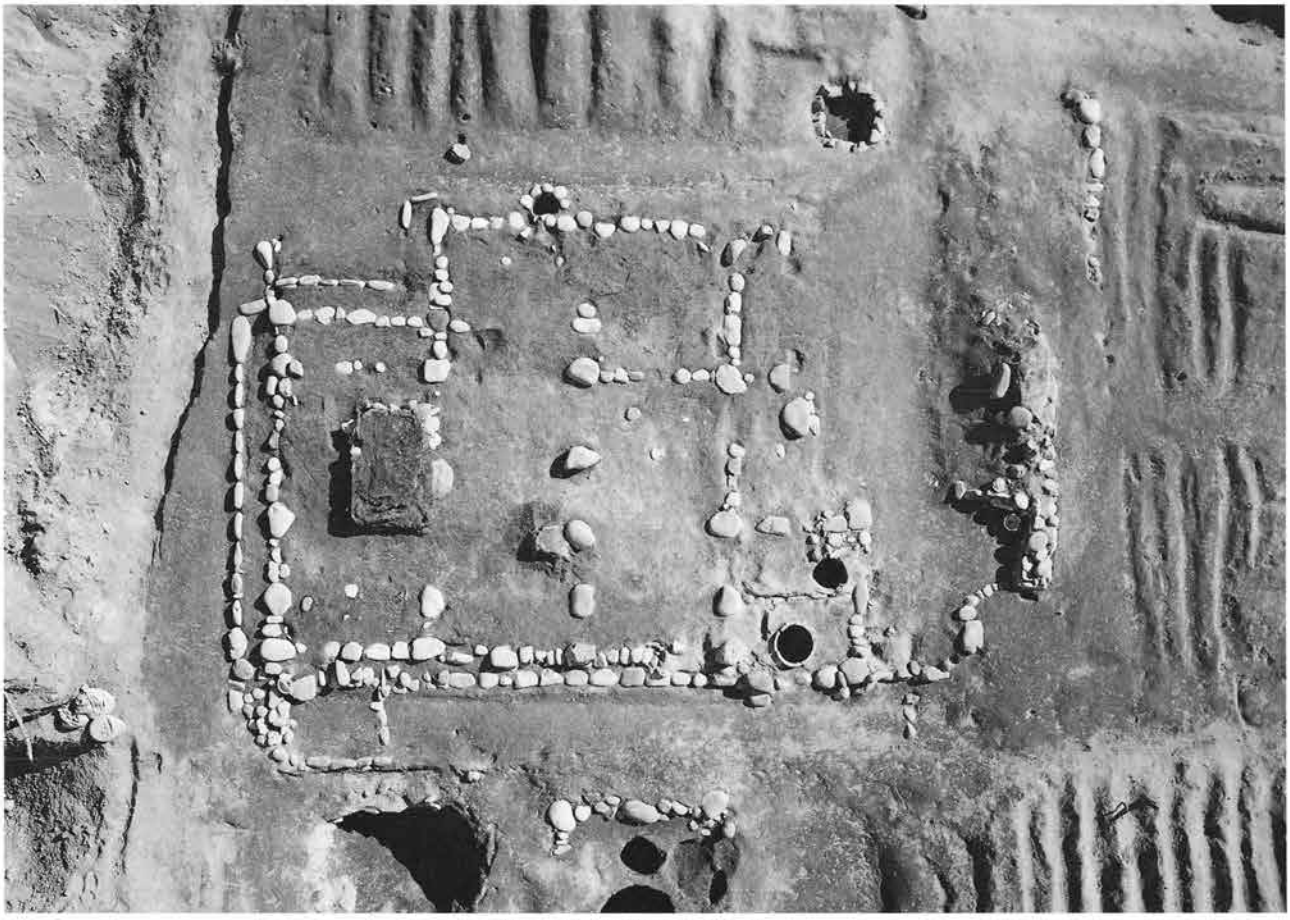


Ⅵ区1面2号建物跡(北側部分)　上空より

Ⅵ区1面2号建物跡(南側部分)　上空より



Ⅵ区1面3号建物跡　上空より



Ⅵ区1面6号建物跡　上空より

Ⅰ区1面畑検出状況　東より

Ⅱ区1面畑検出状況　南より

II区1面5号溝　東より

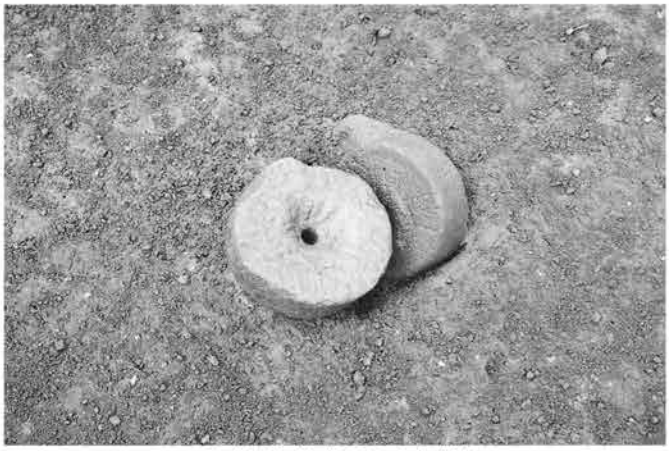
VI区1面畑検出状況　東より

Ⅵ区1面畑検出状況　北より

Ⅵ区1面畑検出状況　北より

Ⅵ区1面全景　北より

Ⅵ区1面全景　北より



II区1面泥流中石臼出土状況

II区0面1号建物跡全景　西より

II区0面1号建物跡全景　東より

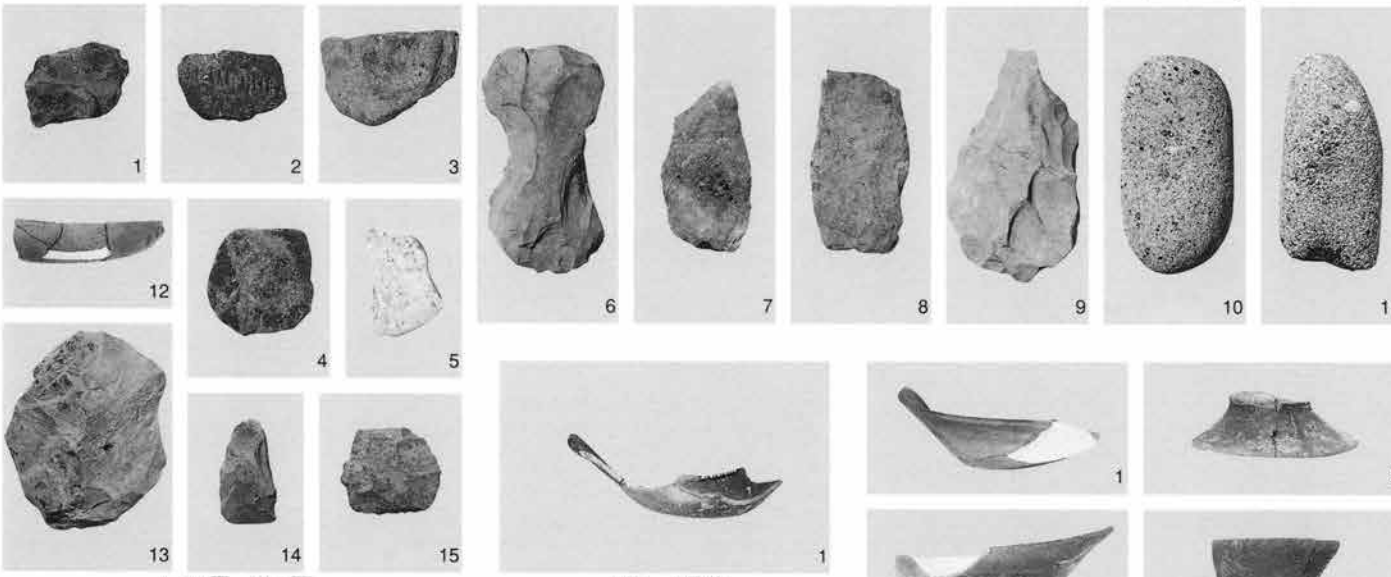
II区0面1号建物跡礎石状況

II区0面1号建物跡礎石状況

II区0面1号建物跡礎石状況

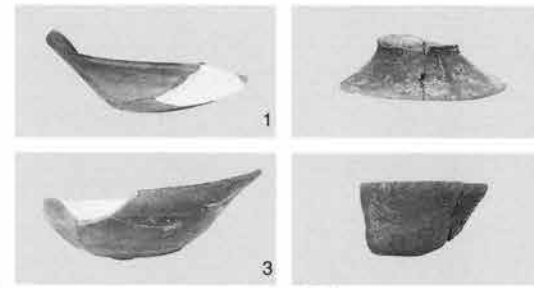
II区0面1号列石　北より

II区0面1号土坑　西より



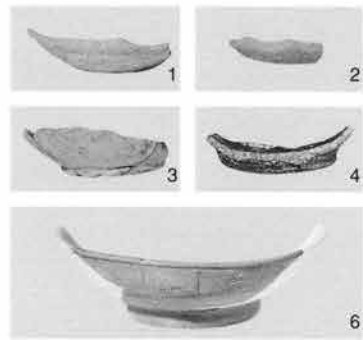
Ⅰ・Ⅱ区　6・7面

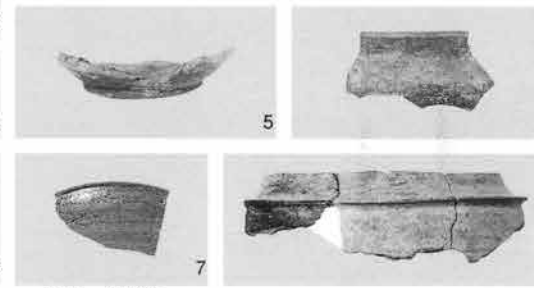
Ⅰ区　1号住



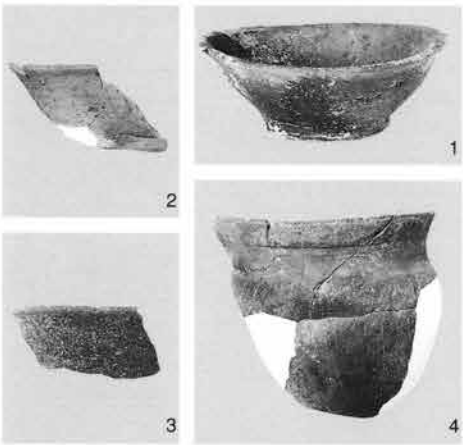
Ⅰ区　2号住

Ⅰ区　4号住



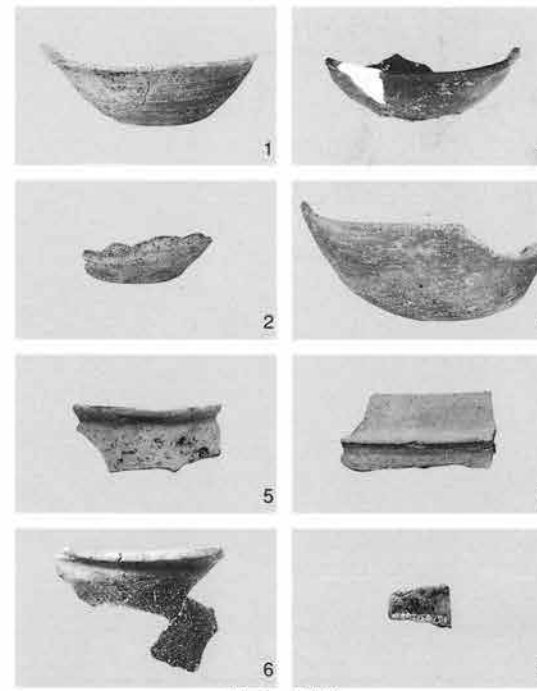


Ⅰ区　5号住

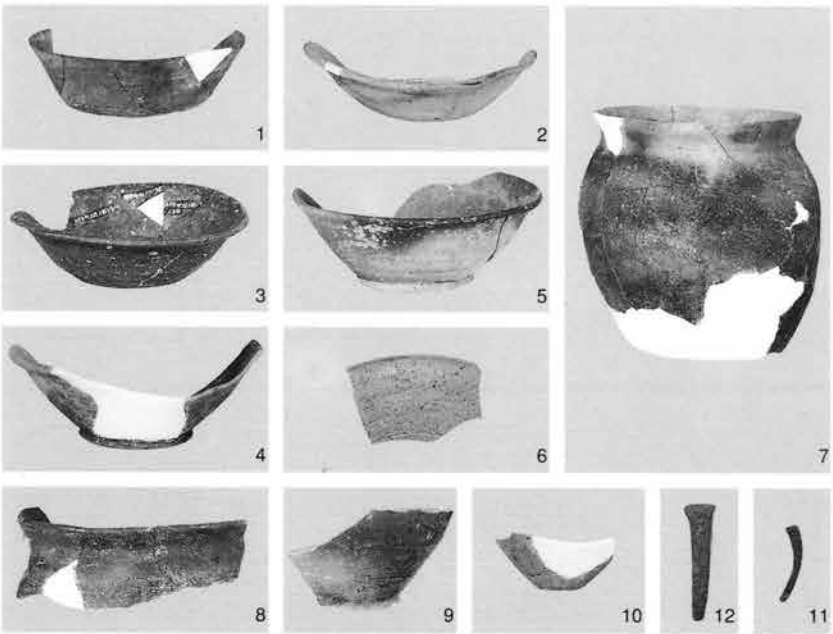


Ⅰ区　7号住

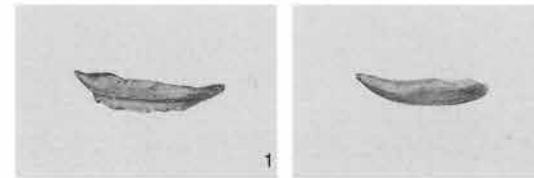
Ⅰ区　8号住



Ⅱ区　1号住



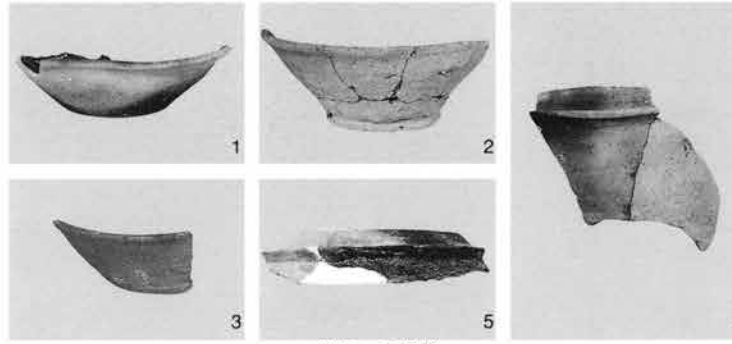
Ⅱ区　2号住



Ⅱ区　3号住

PL.52　5面出土遺物

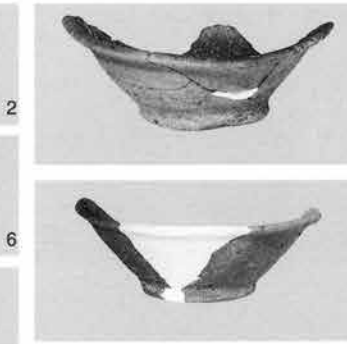
II区　4号住

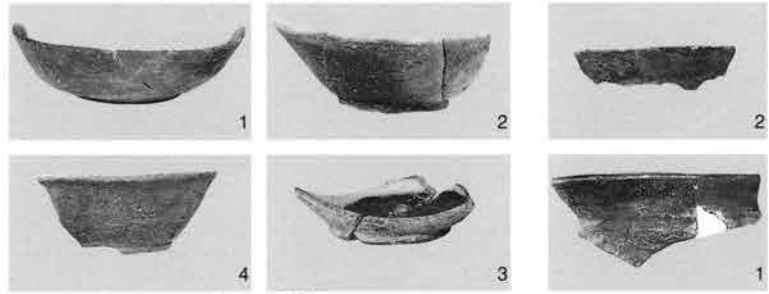


II区　6号住

II区　9号住

II区　7号住

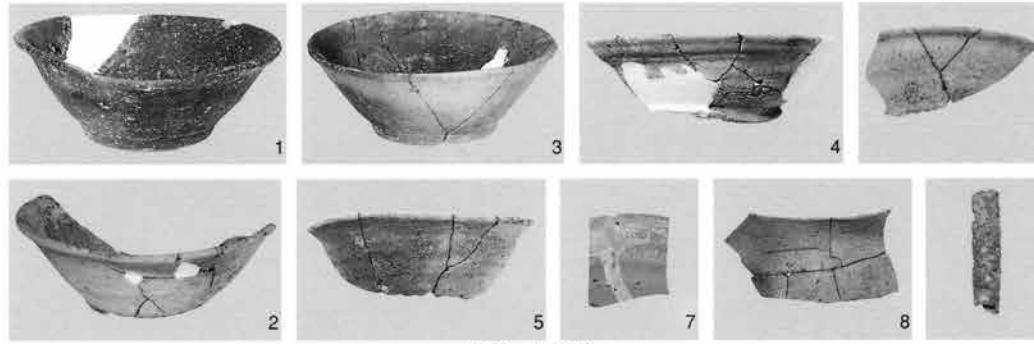




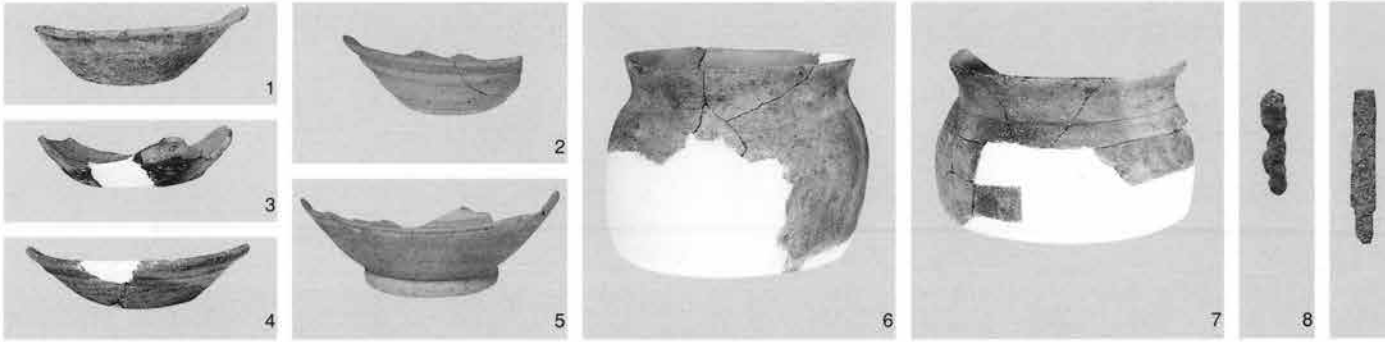
VI区　1号住

II区　8号住

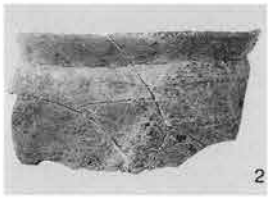
VI区　3号住

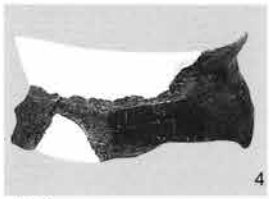


VI区　2号住

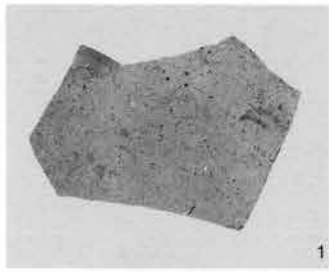


VI区　4号住



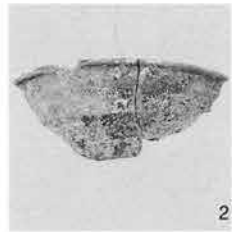


Ⅵ区　5号住



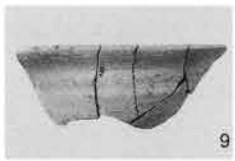
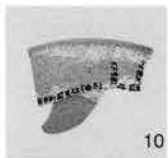
Ⅵ区　6号住

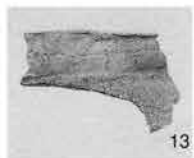
Ⅵ区　7号住



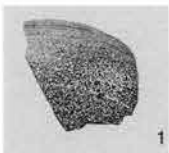
Ⅵ区　10号住

Ⅵ区　9号住

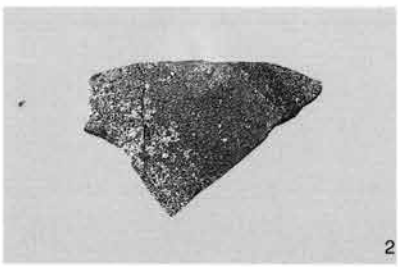





Ⅱ・Ⅵ区　土坑(1)

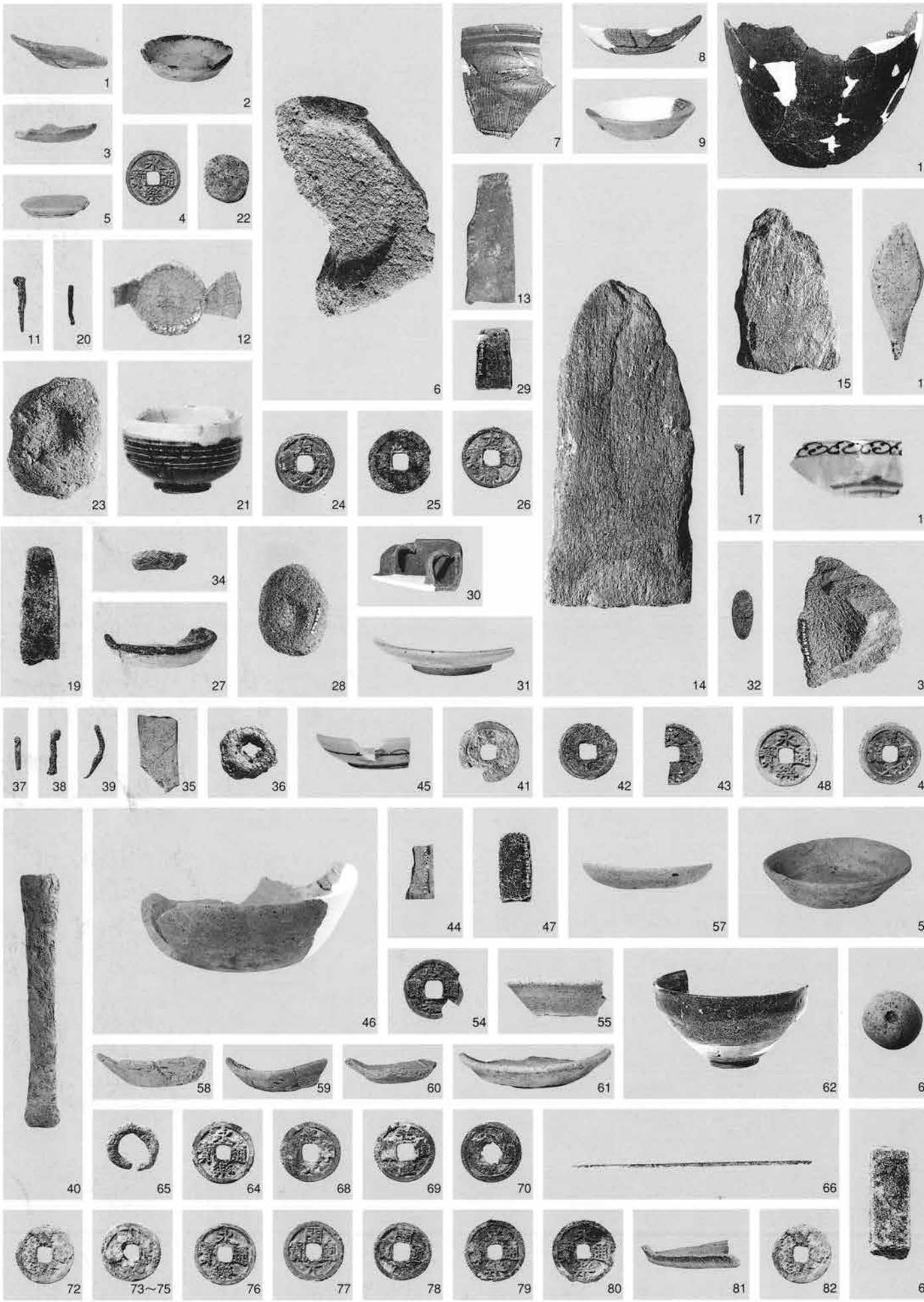


Ⅱ・Ⅵ区　土坑(2)

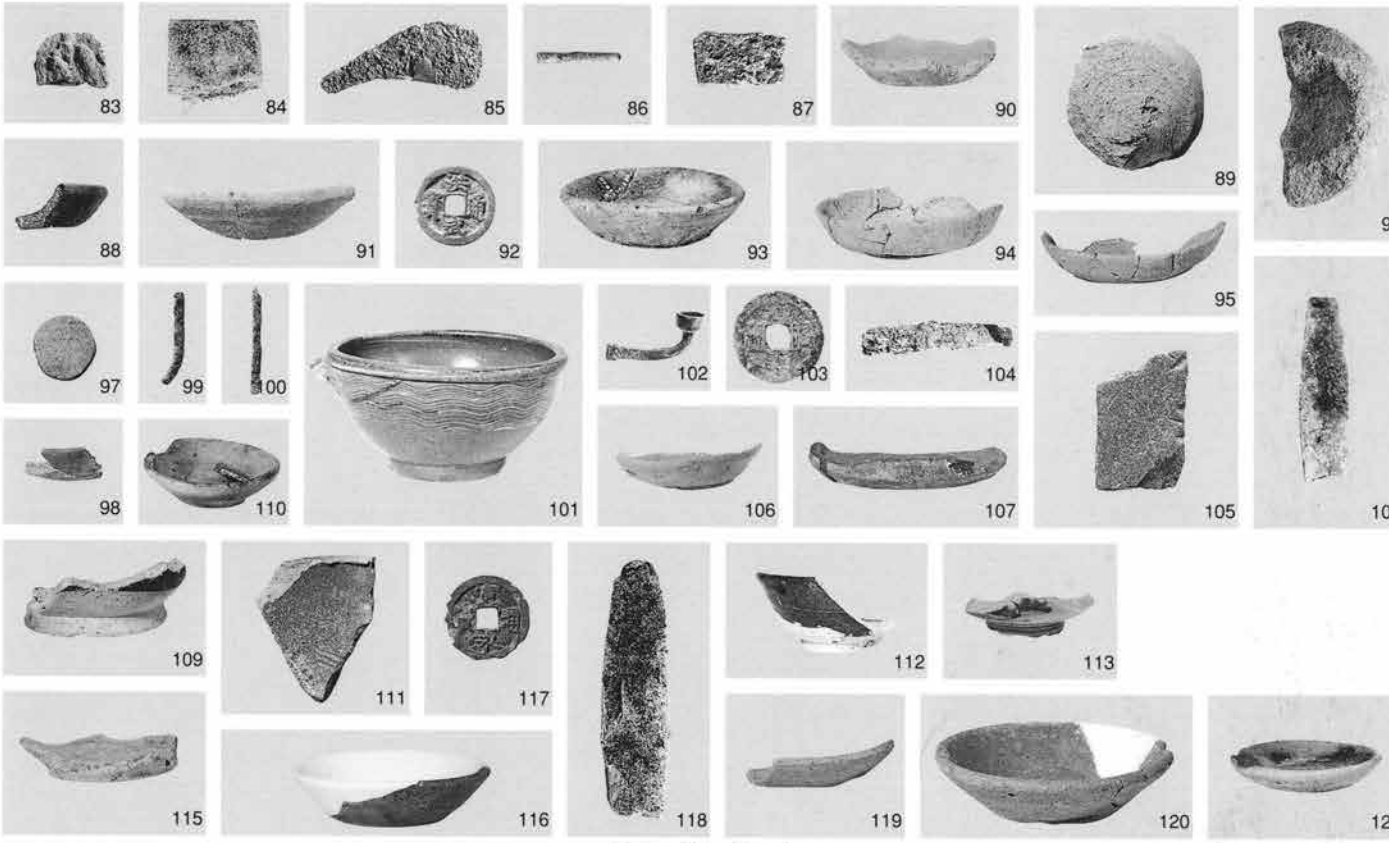


Ⅱ・Ⅵ区　4面

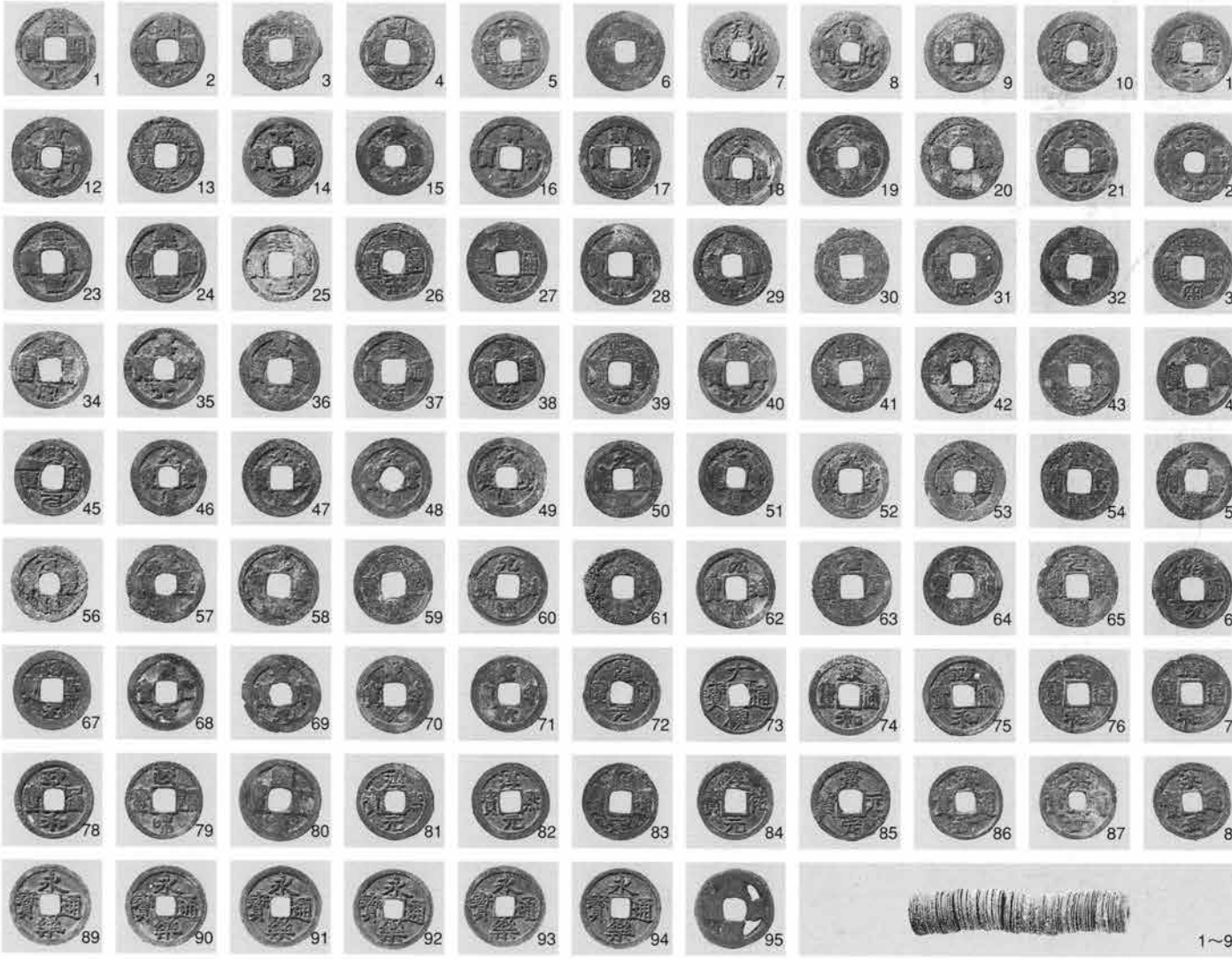
PL.54　3面出土遺物



I・II区　土坑

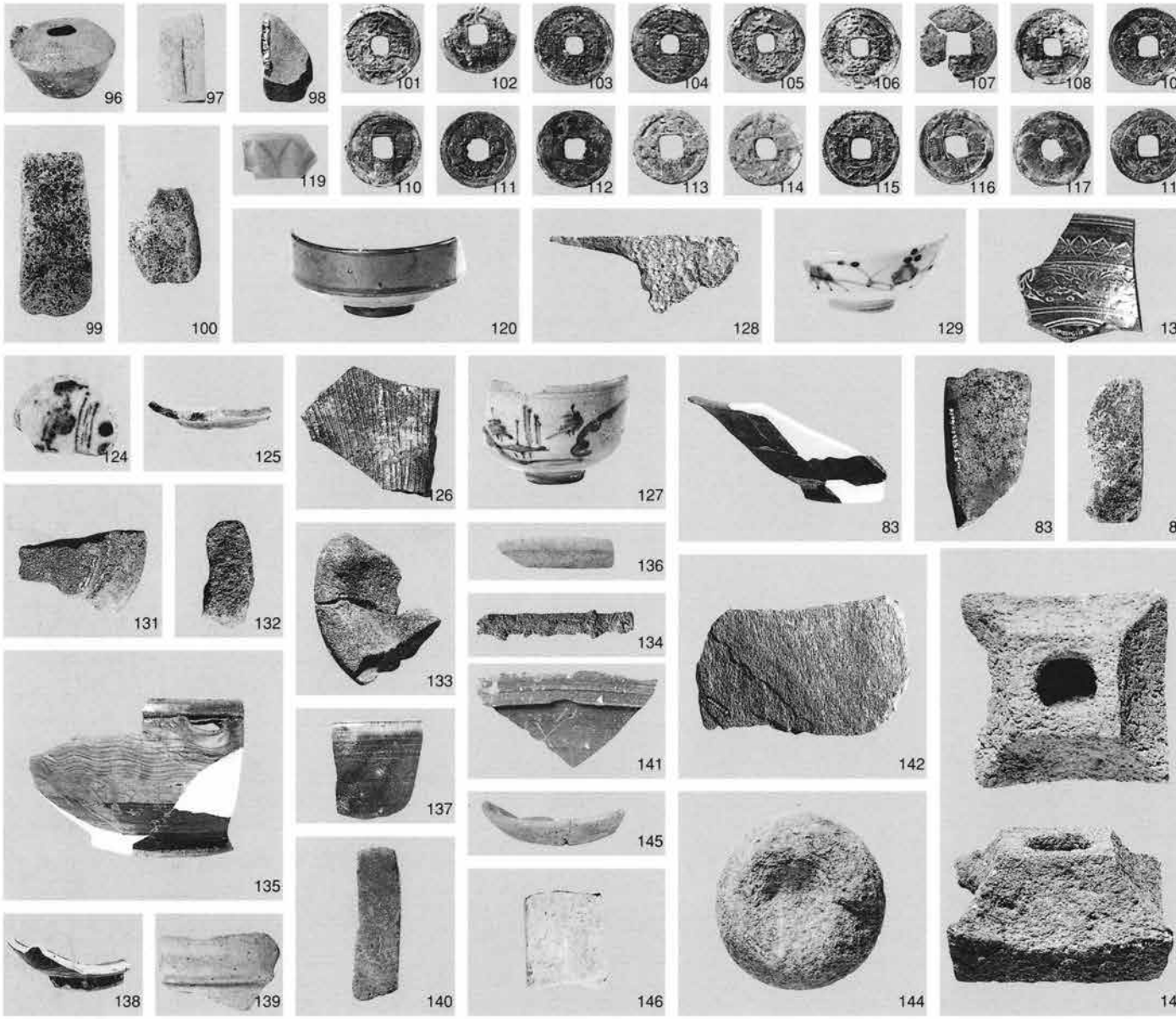


II区　土坑・ピット

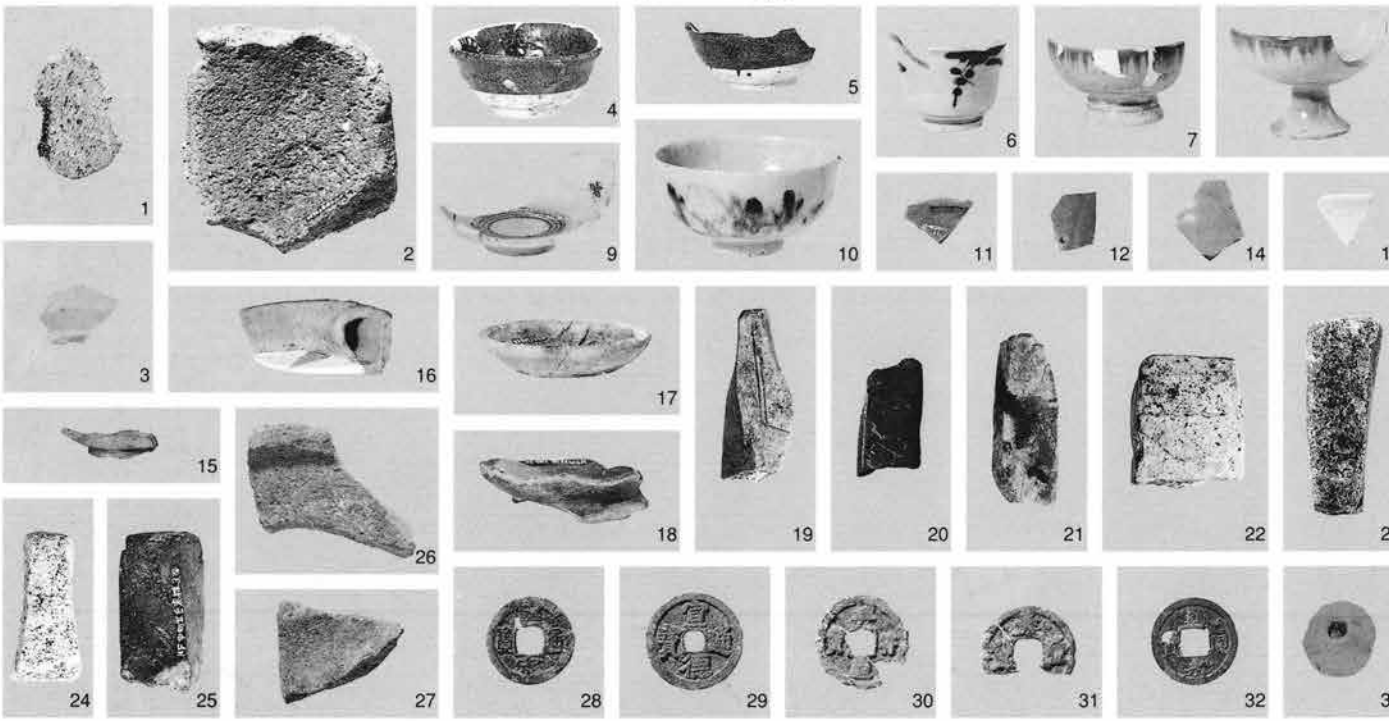


II区　1号溝

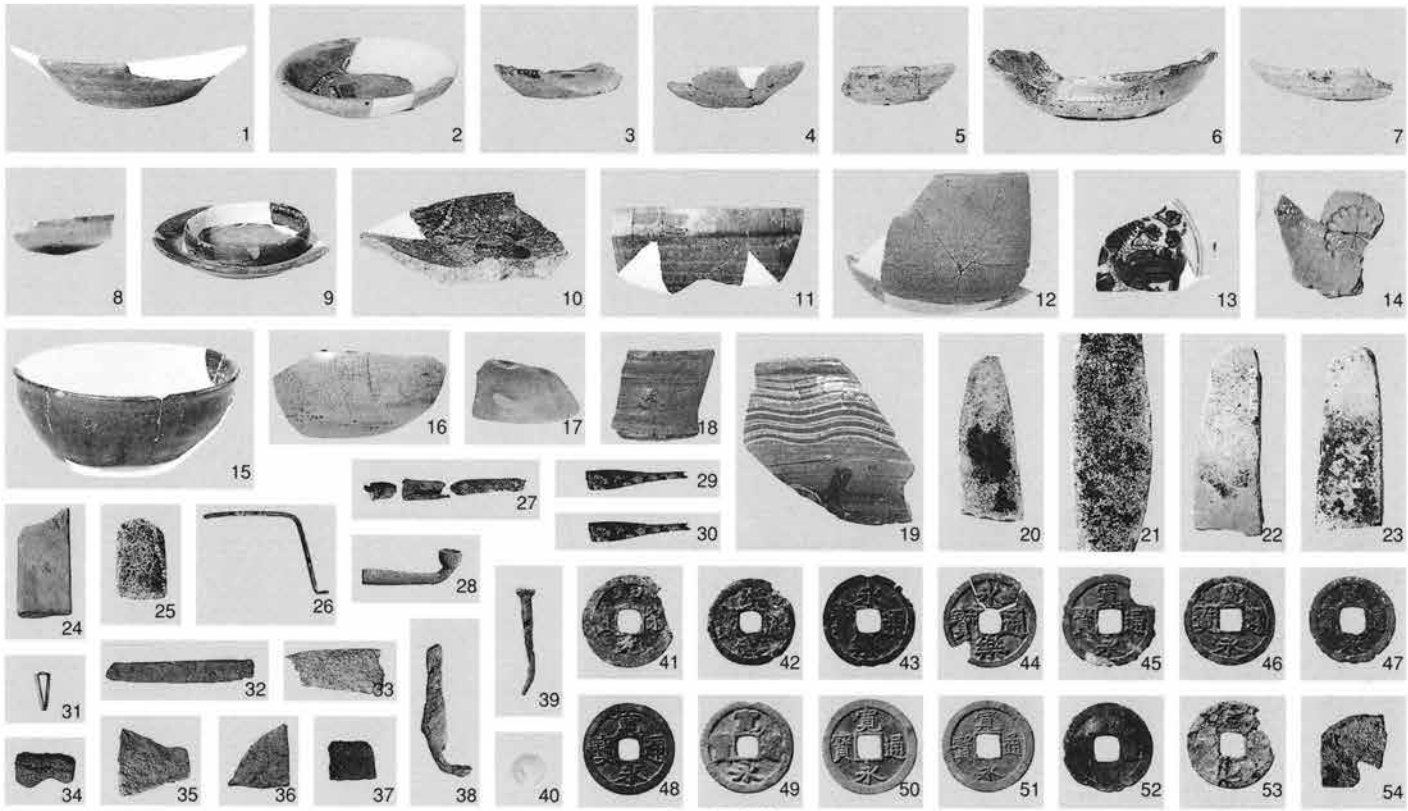
PL.56　3面出土遺物



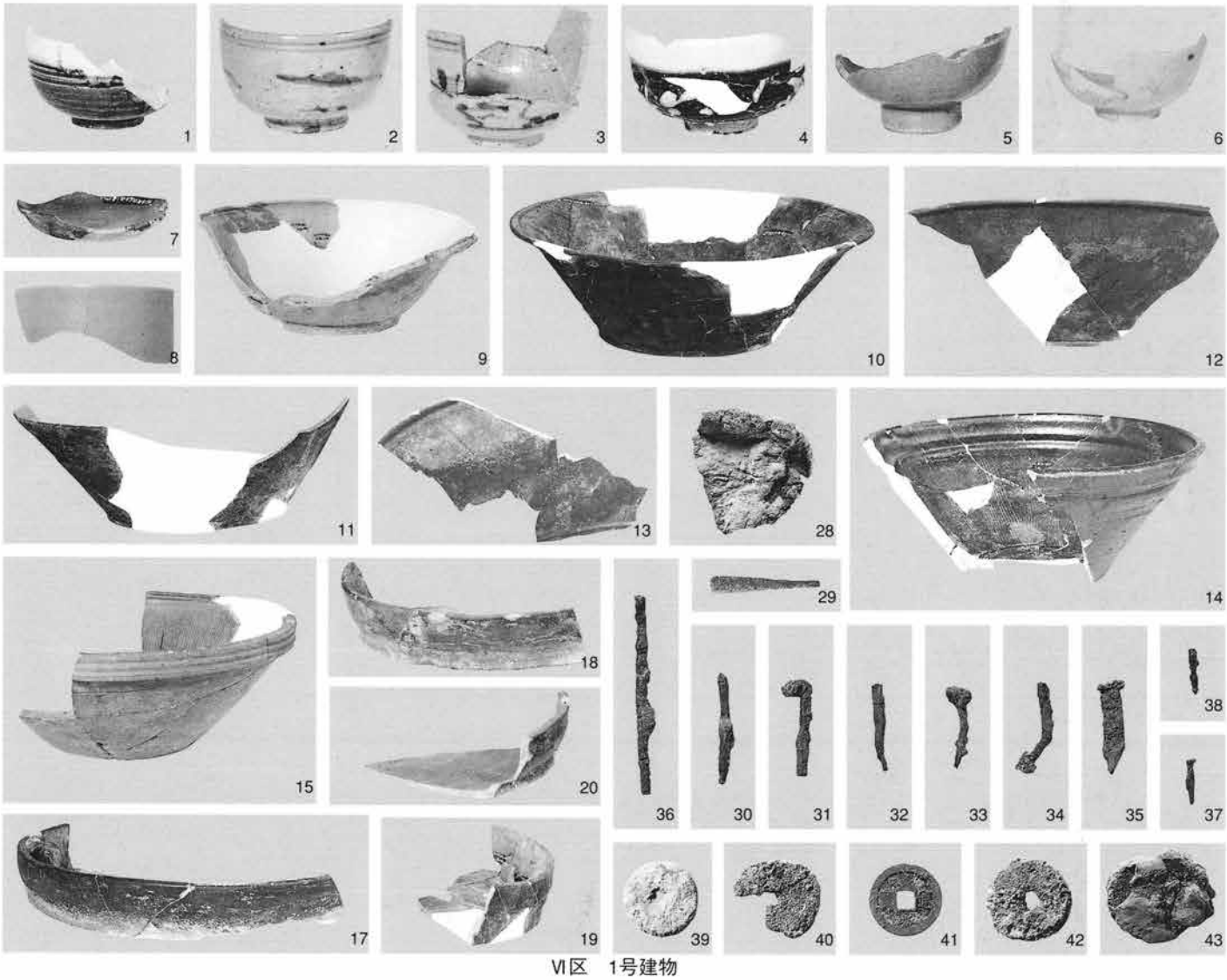
II区　2～21号溝



I・II区　遺構外

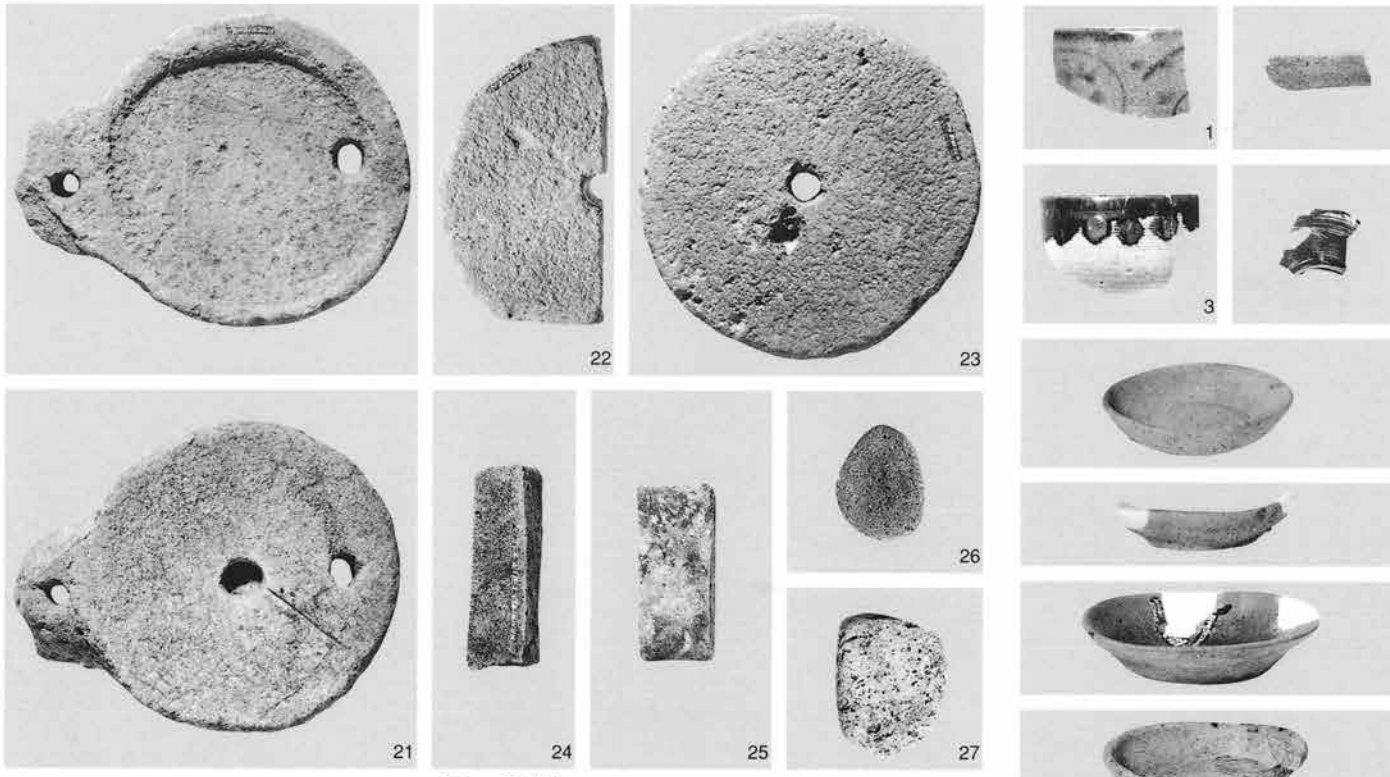


Ⅰ区　1号建物

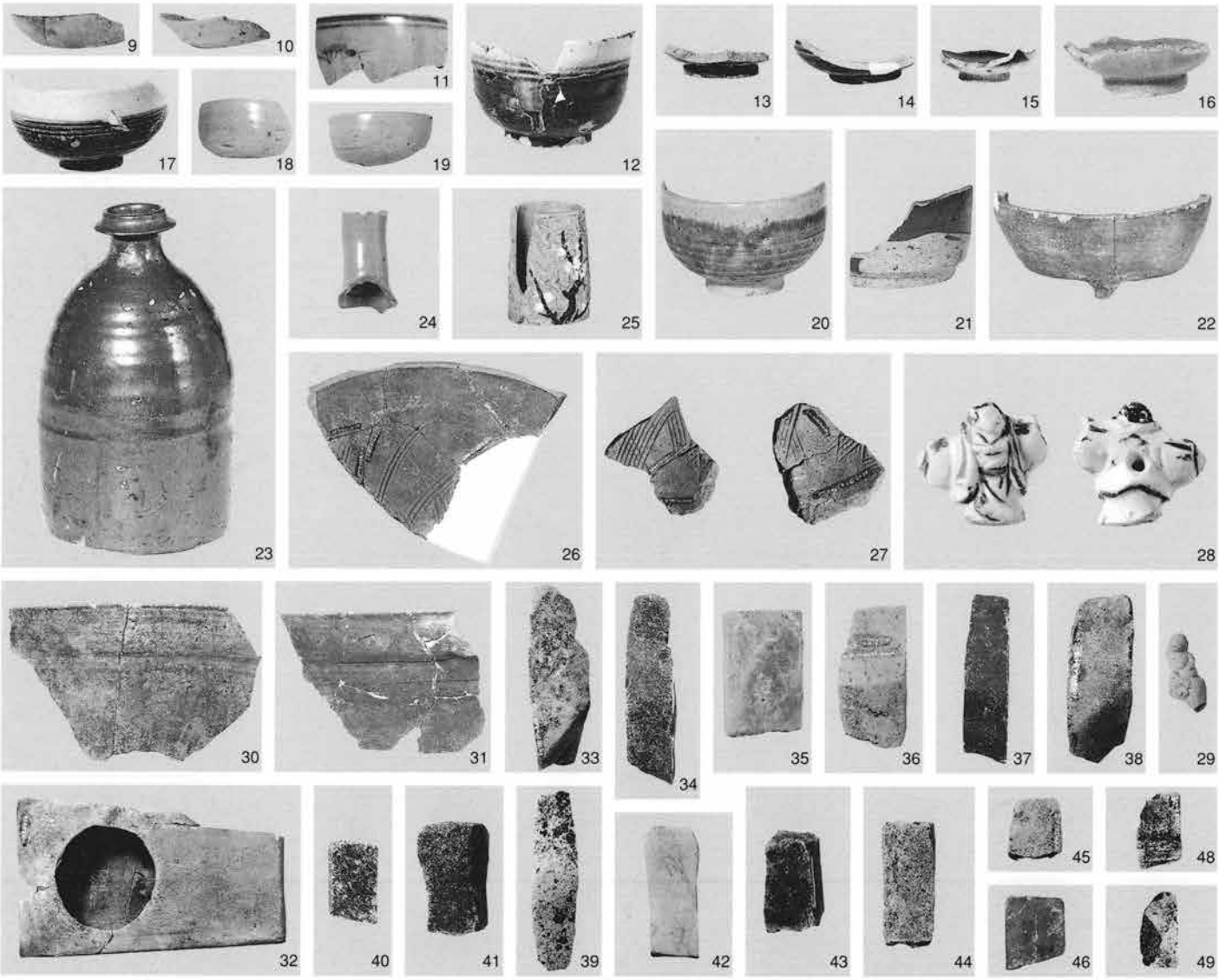


Ⅵ区　1号建物

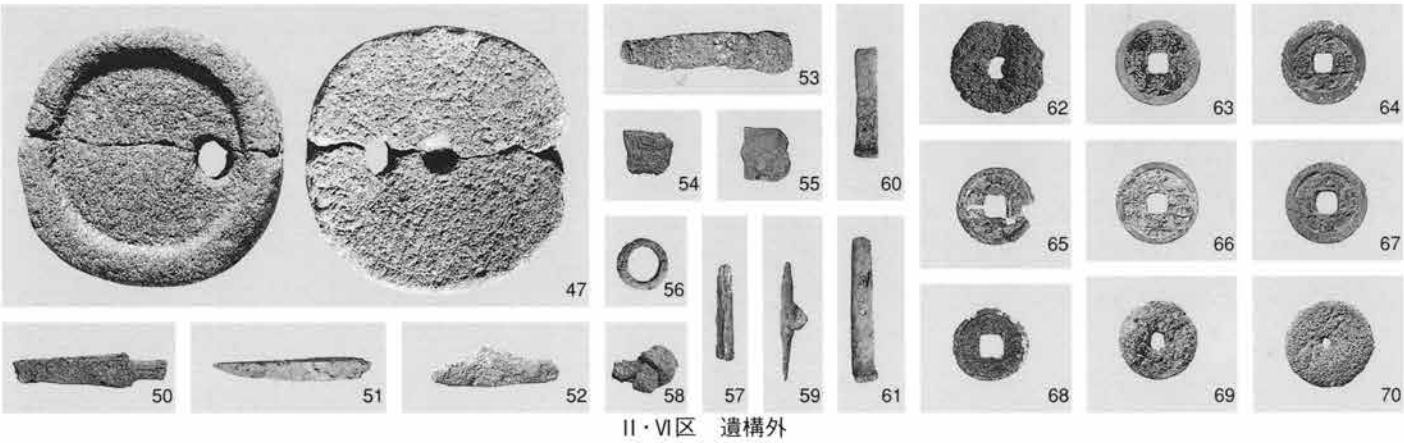
PL.58　2面出土遺物



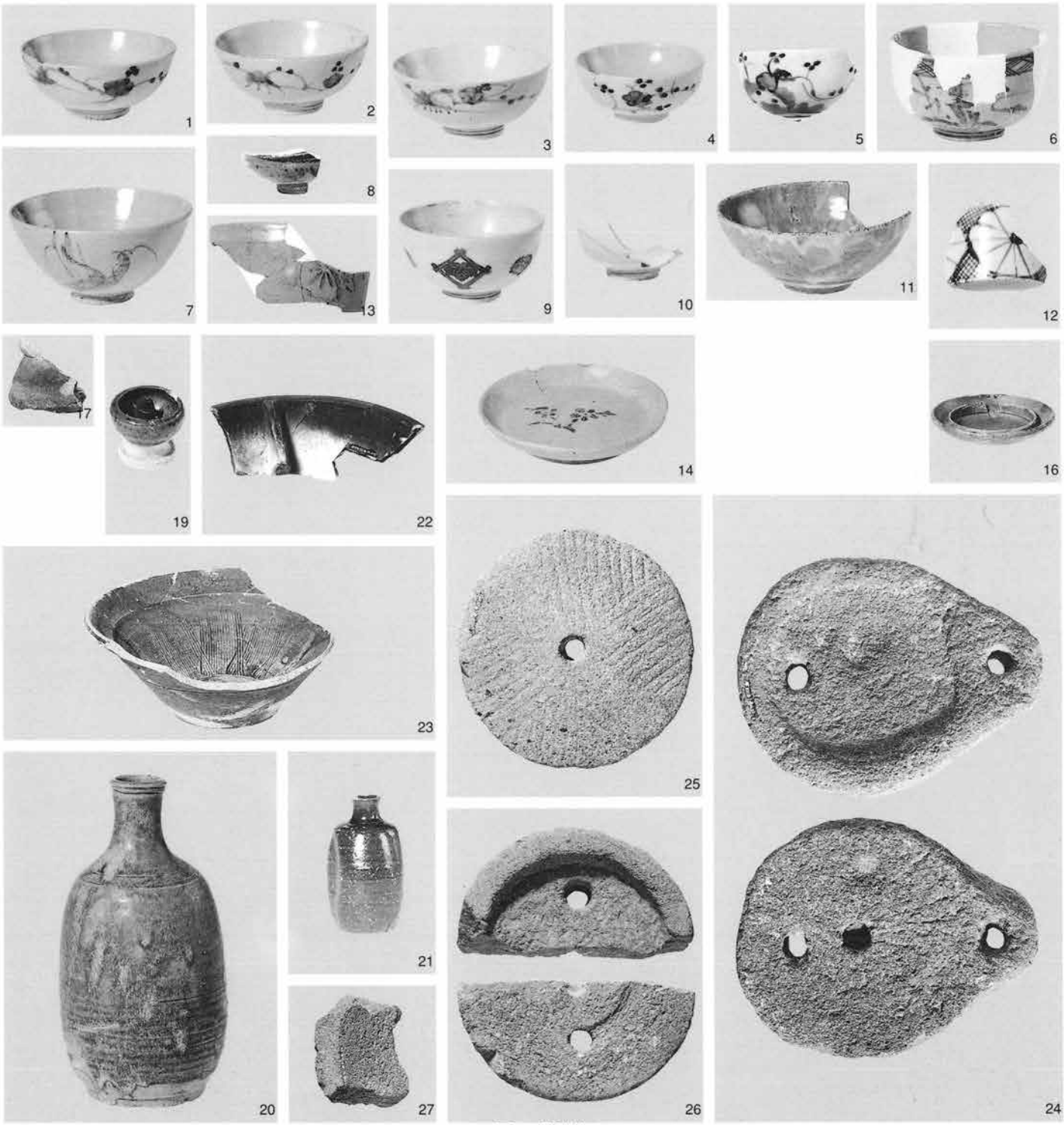
Ⅵ区　1号建物



Ⅰ・Ⅱ・Ⅵ区　土坑・畑・遺構外

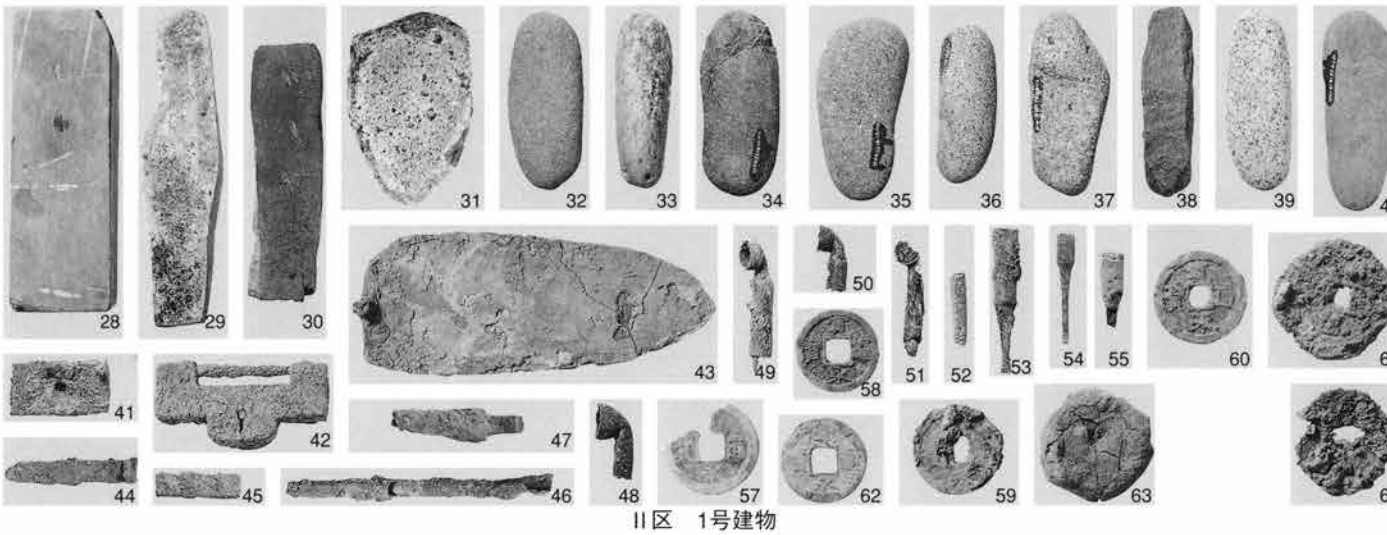


II・VI区　遺構外

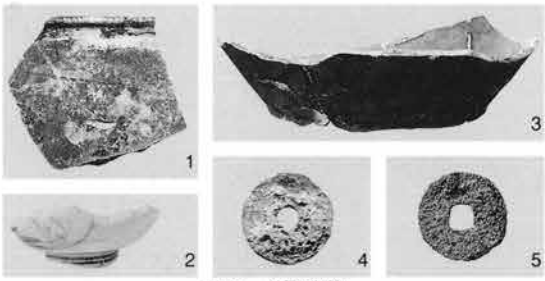


II区　1号建物

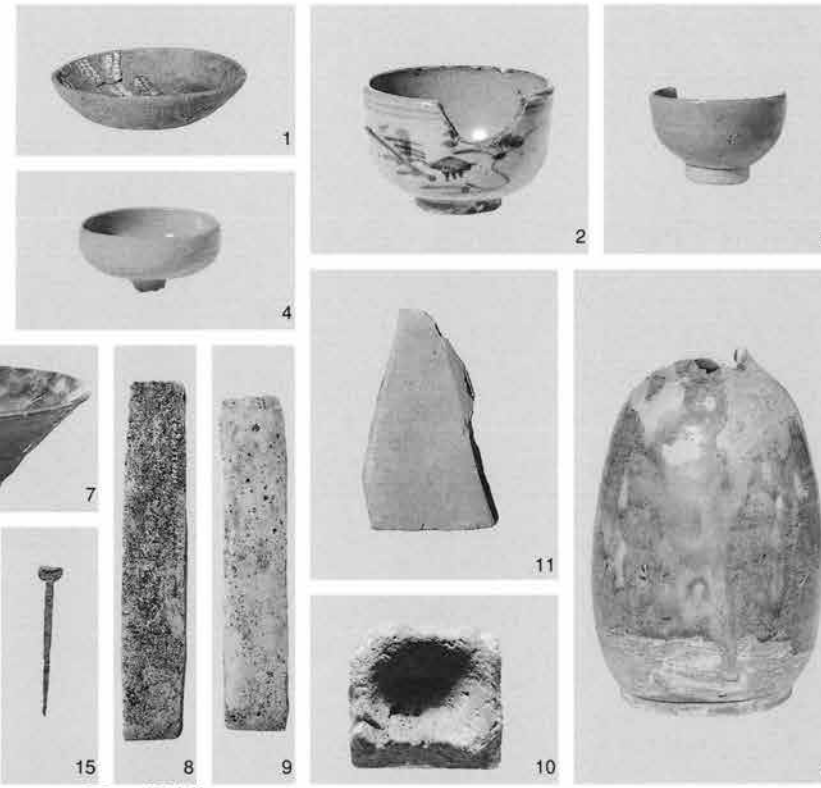
PL.60　1面出土遺物



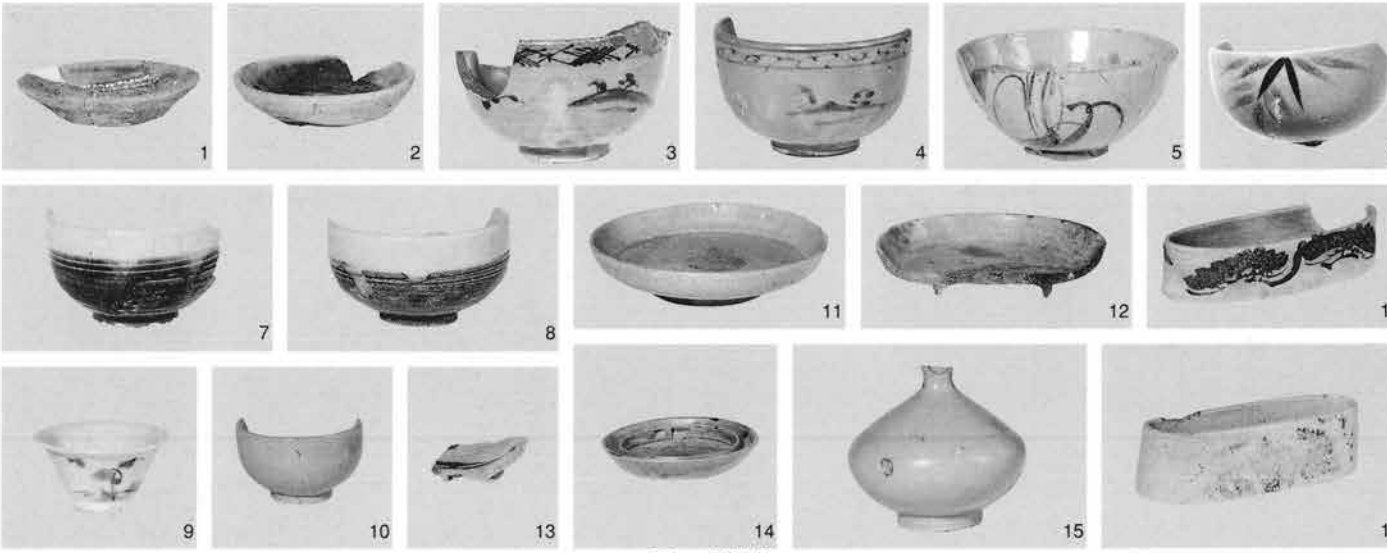
II区　1号建物



II区　2号建物

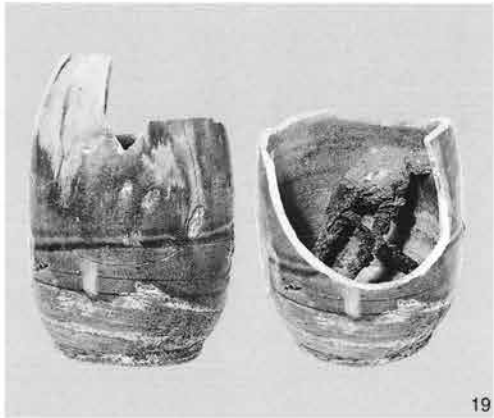


II区　3号建物



II区　4号建物

18


19

20

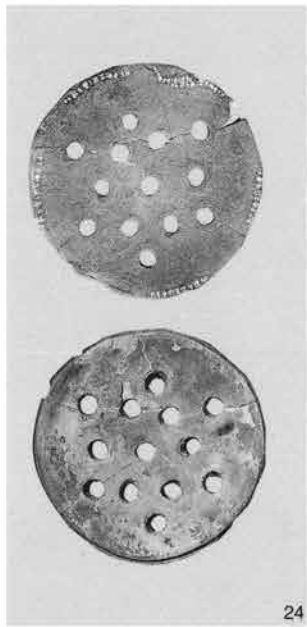
21

26

32

22

23


24

25

27

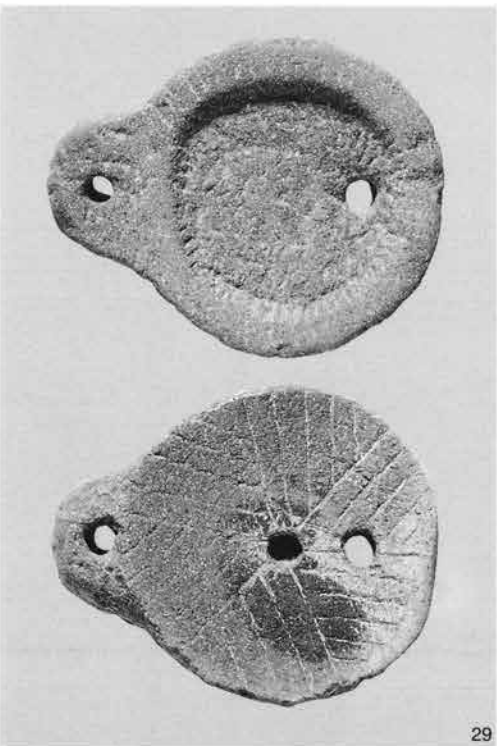
33

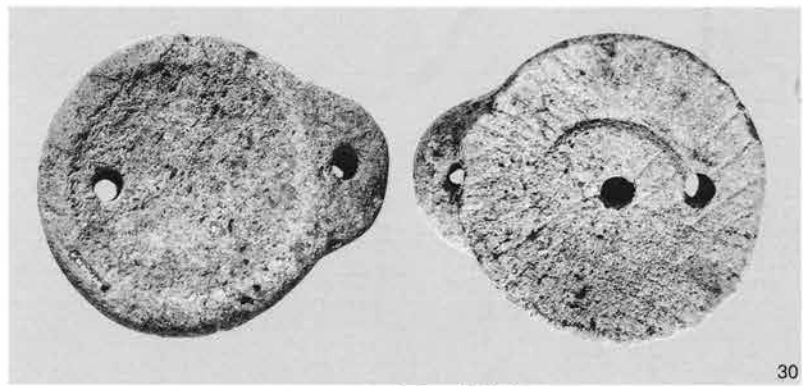
31

28

36

35


29


30

34

II区　4号建物

37

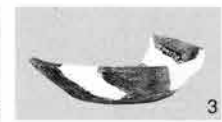
38

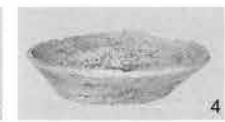
39

40

1

2


3


4

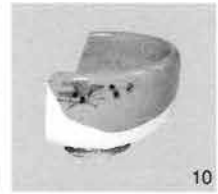
5

6

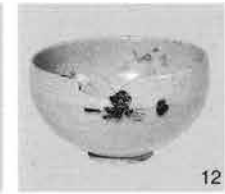
7

8

9


10

11


12

II区　6号建物

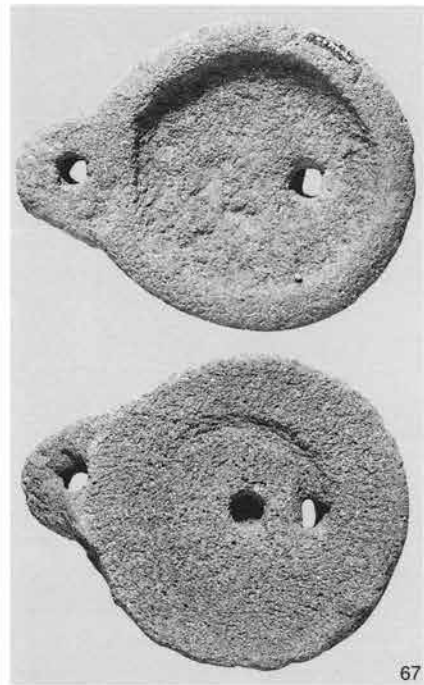
PL.62　1面出土遺物

II区　6号建物

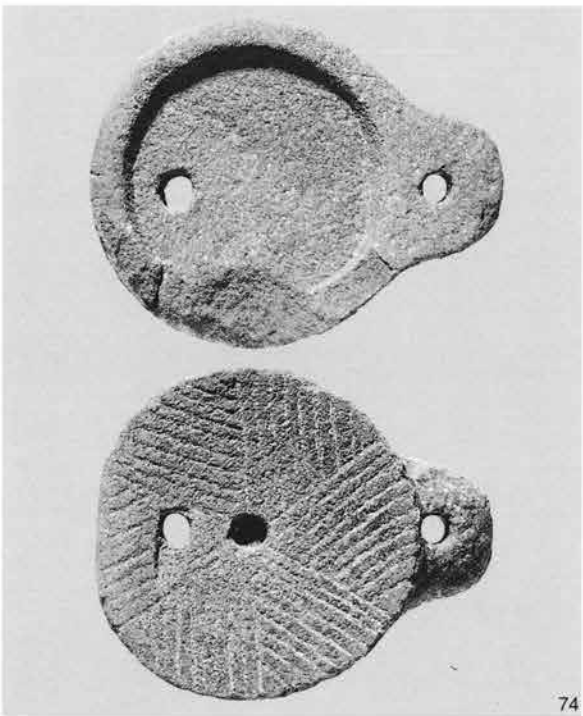
64

65

66


67

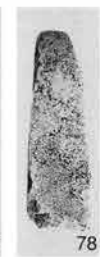
68


74

69

75

76


78

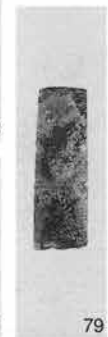
70

71

72

73

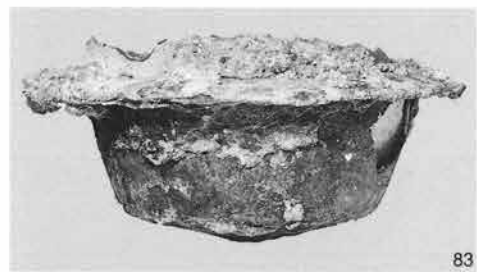
77


79

80

81

82


83

84

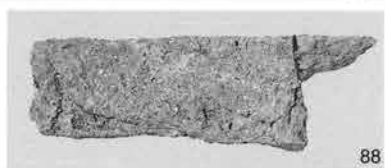
85

86

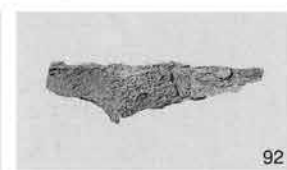
89

90

87

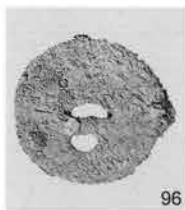

88

91


92

93

94


96

97

99

101

102

108

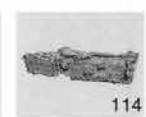
115

95

98

100

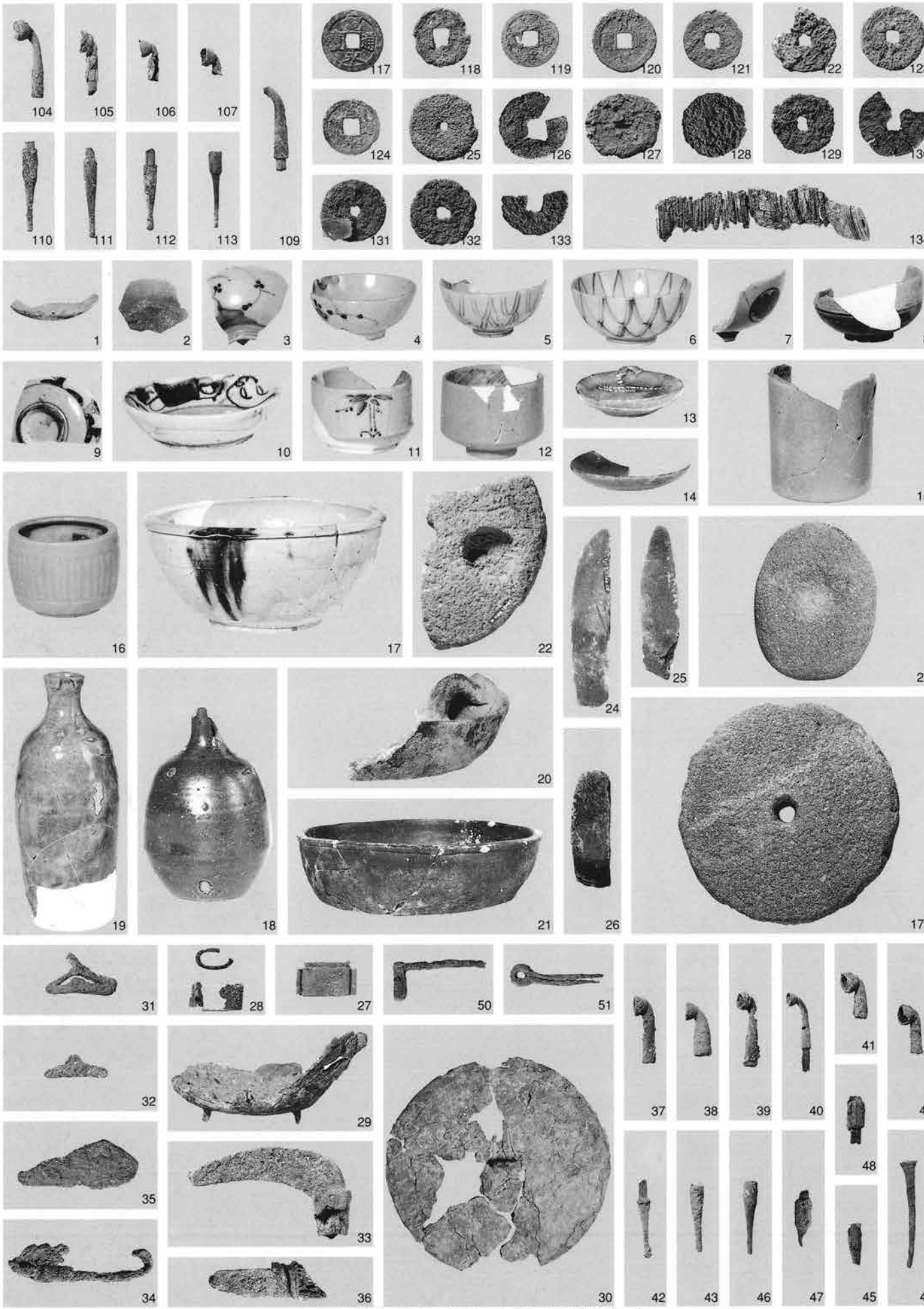
103


114

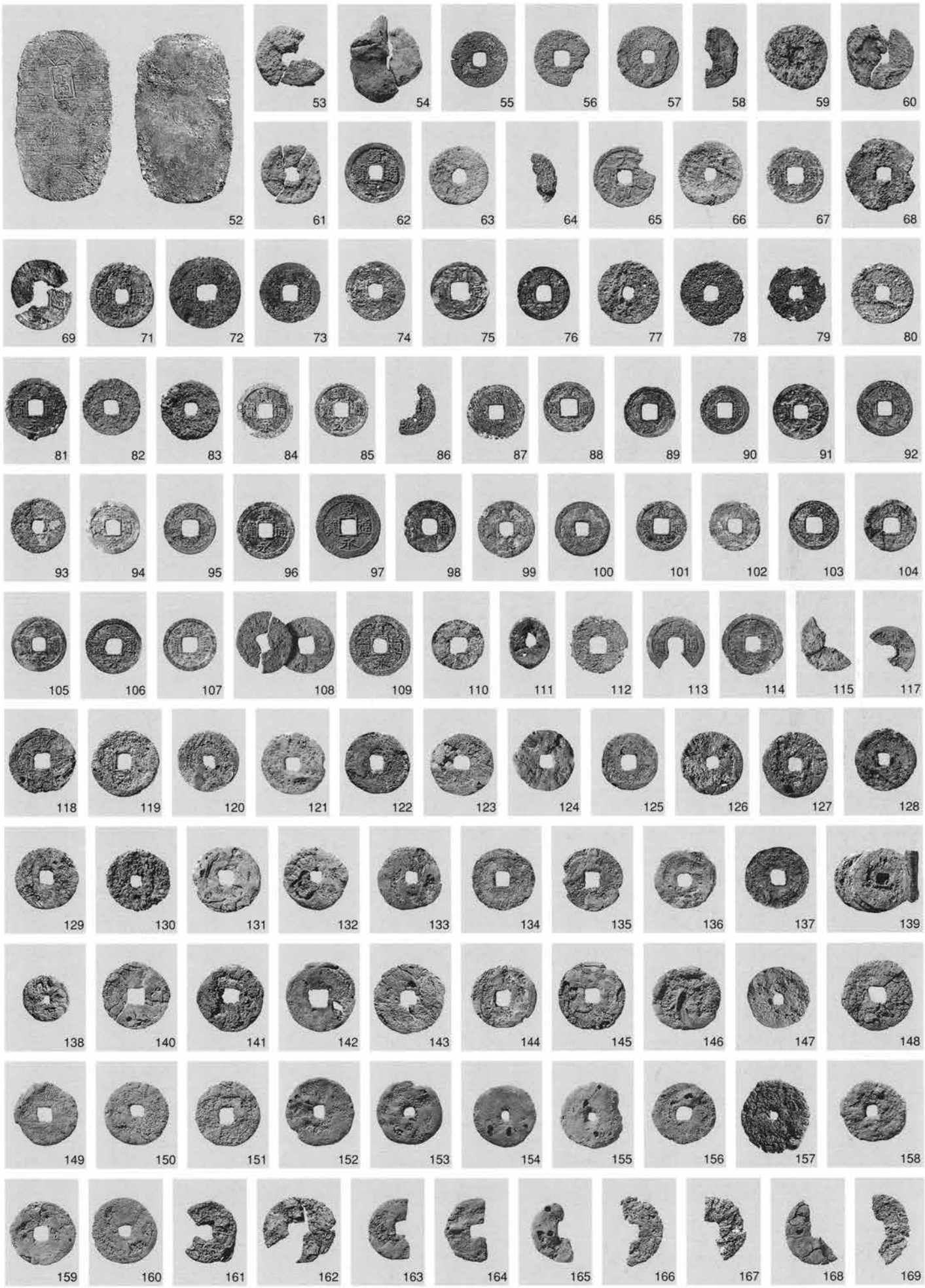
116

II区　6号建物

PL.64　1面出土遺物



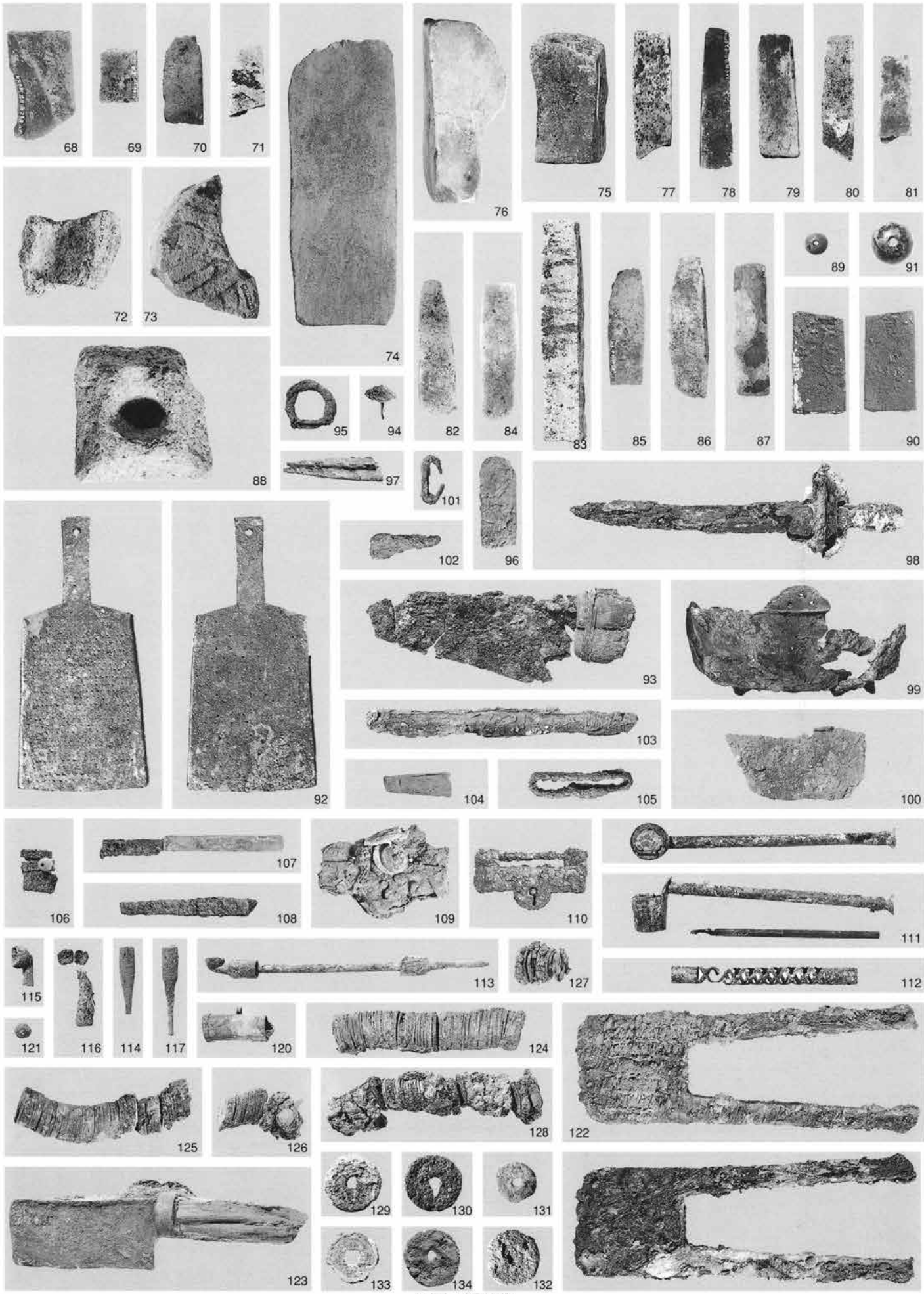
II区　6号建物（104～134）・VI区　1号建物（1～）


52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
139
138
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169

Ⅵ区　1号建物

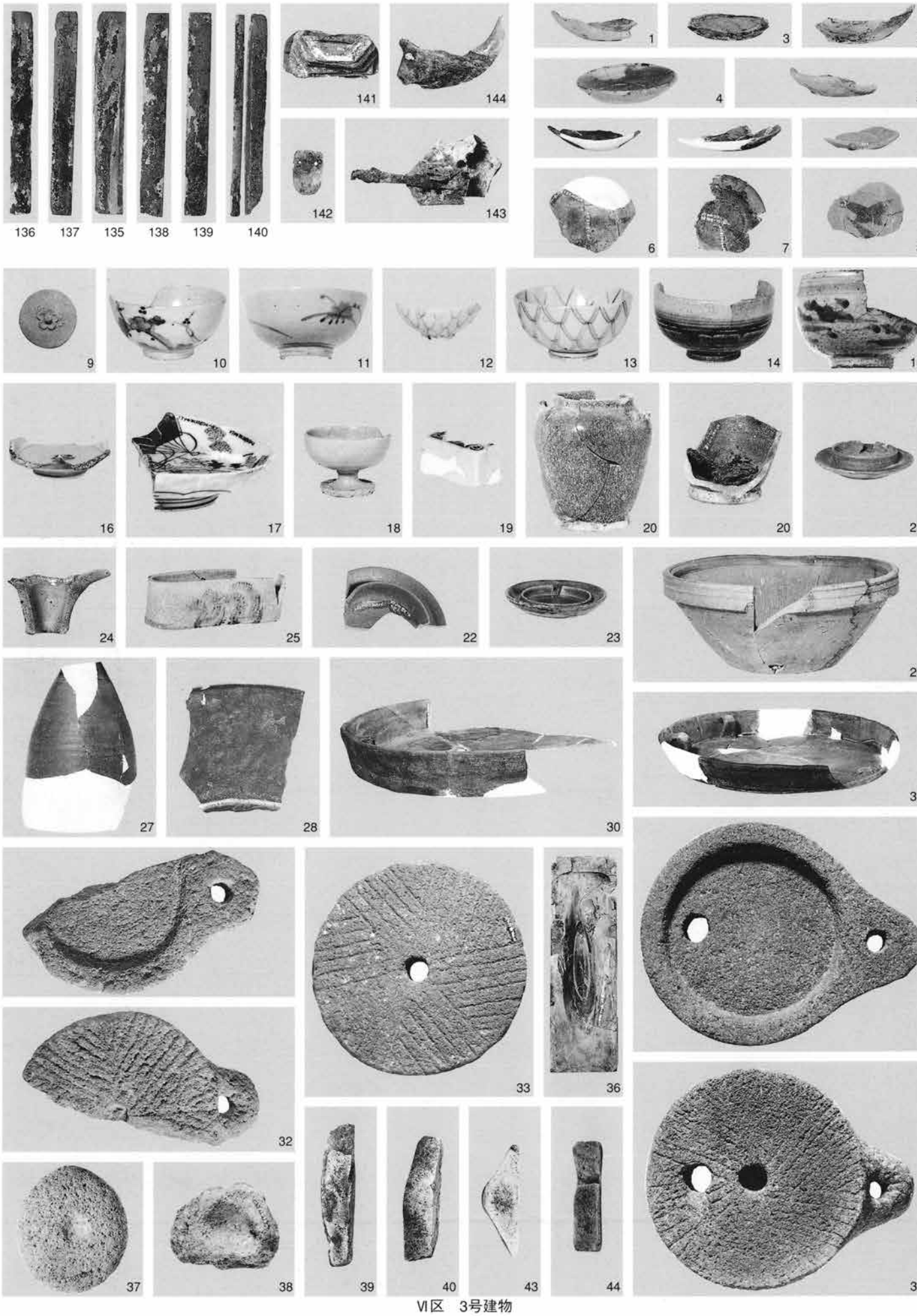
PL.66　1面出土遺物

Ⅵ区　2号建物

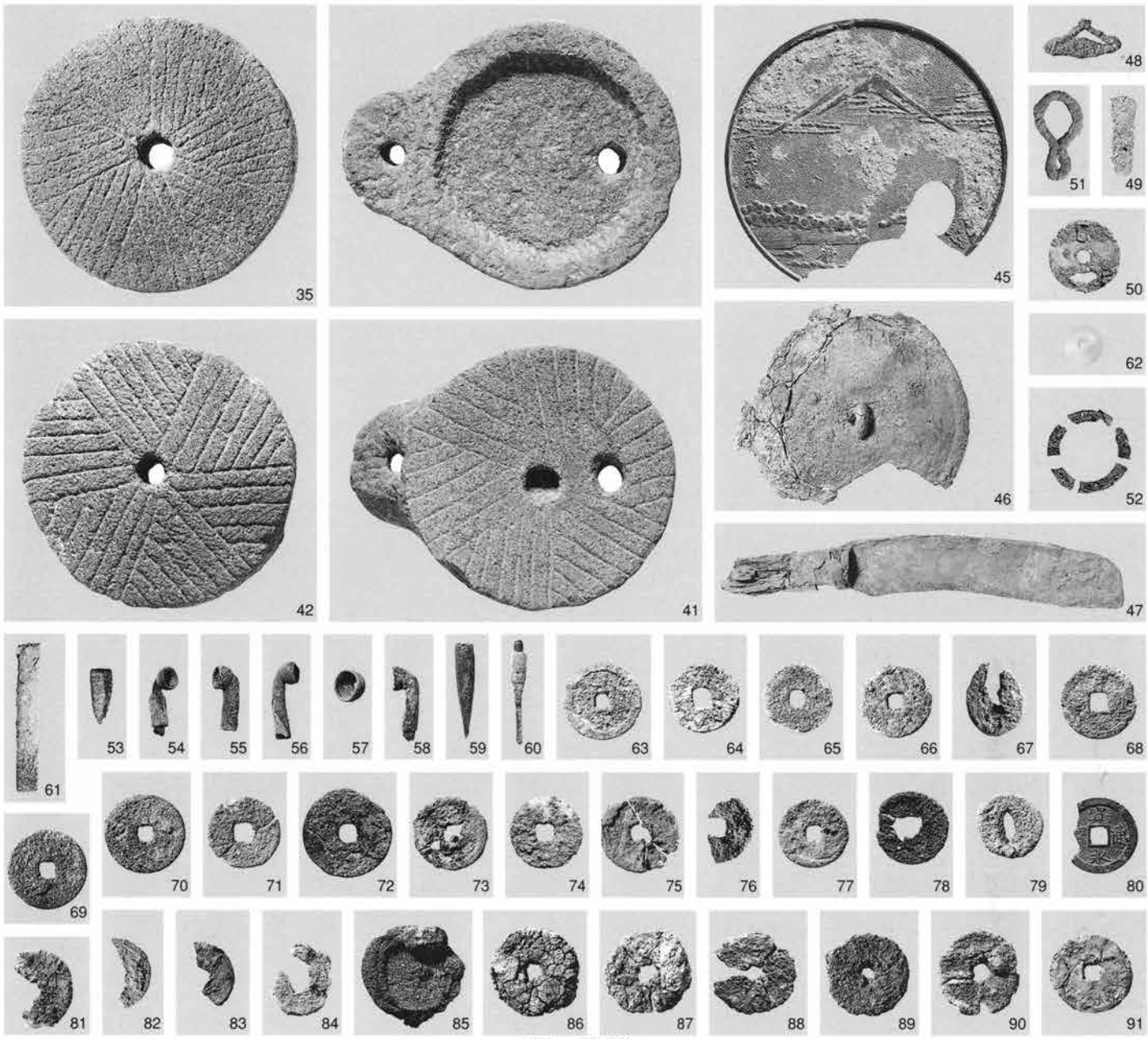

68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134

VI区　2号建物

PL.68　1面出土遺物

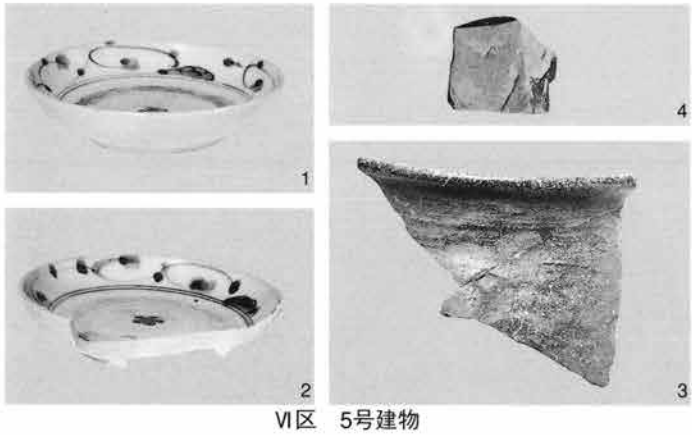


Ⅵ区　3号建物

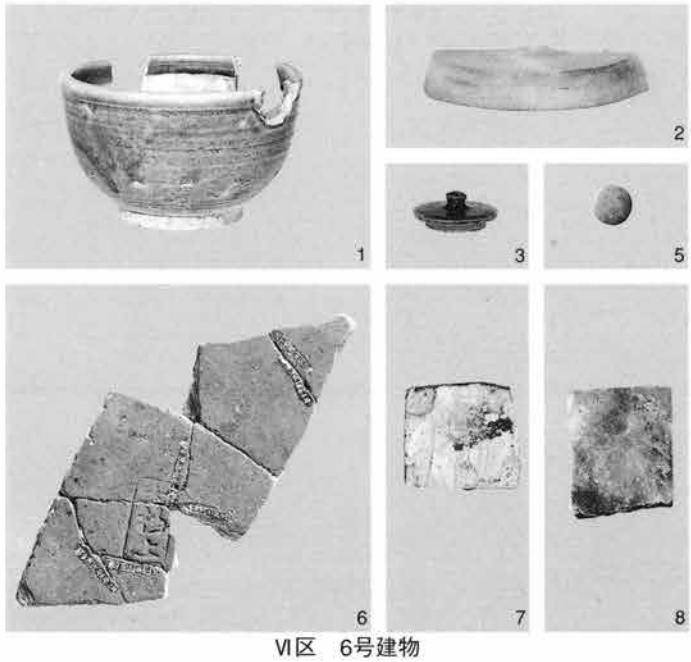


Ⅵ区　3号建物

Ⅵ区　4号建物

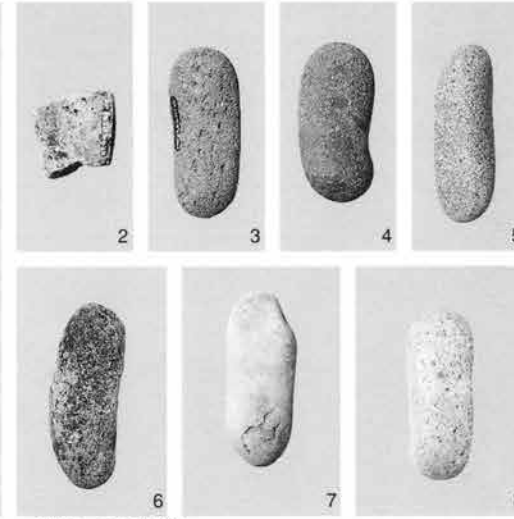


Ⅵ区　5号建物

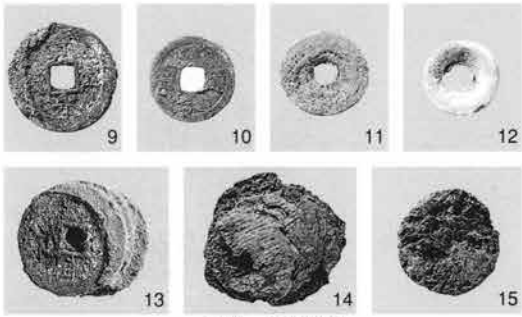


Ⅵ区　6号建物

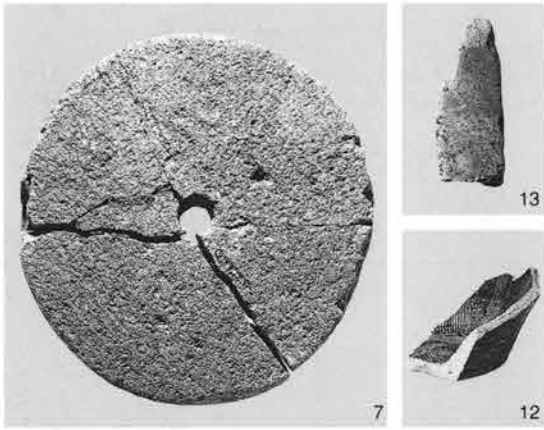
PL.70　1面出土遺物

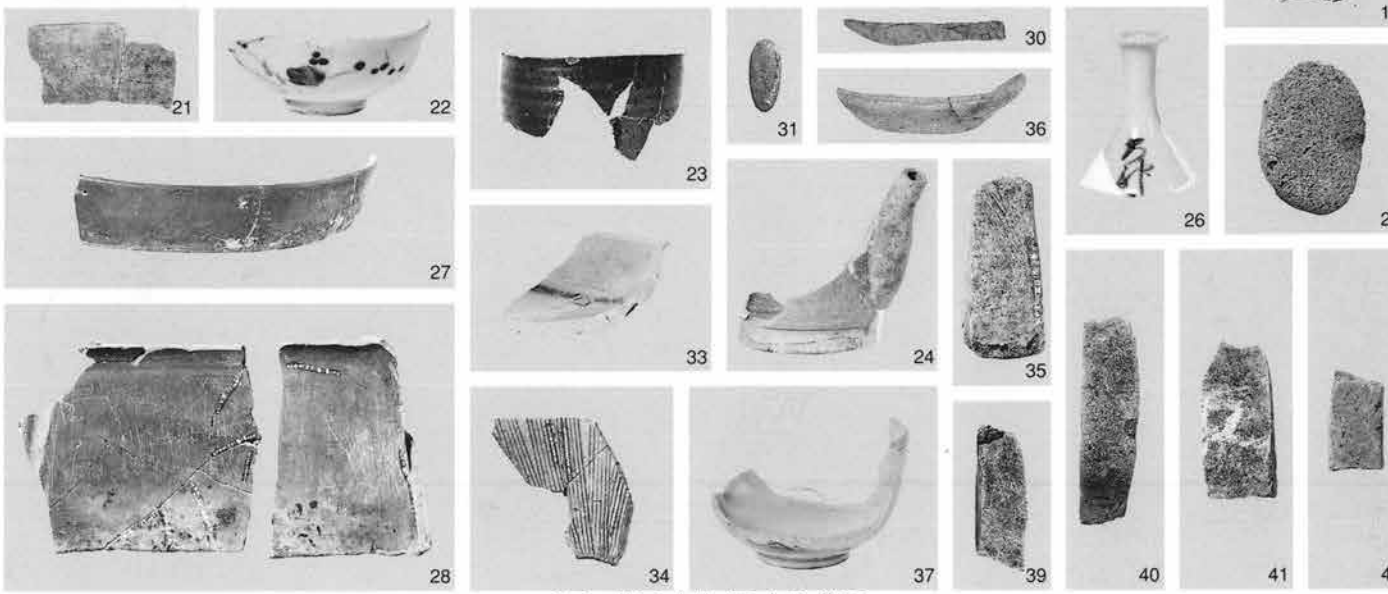


Ⅵ区　7号建物

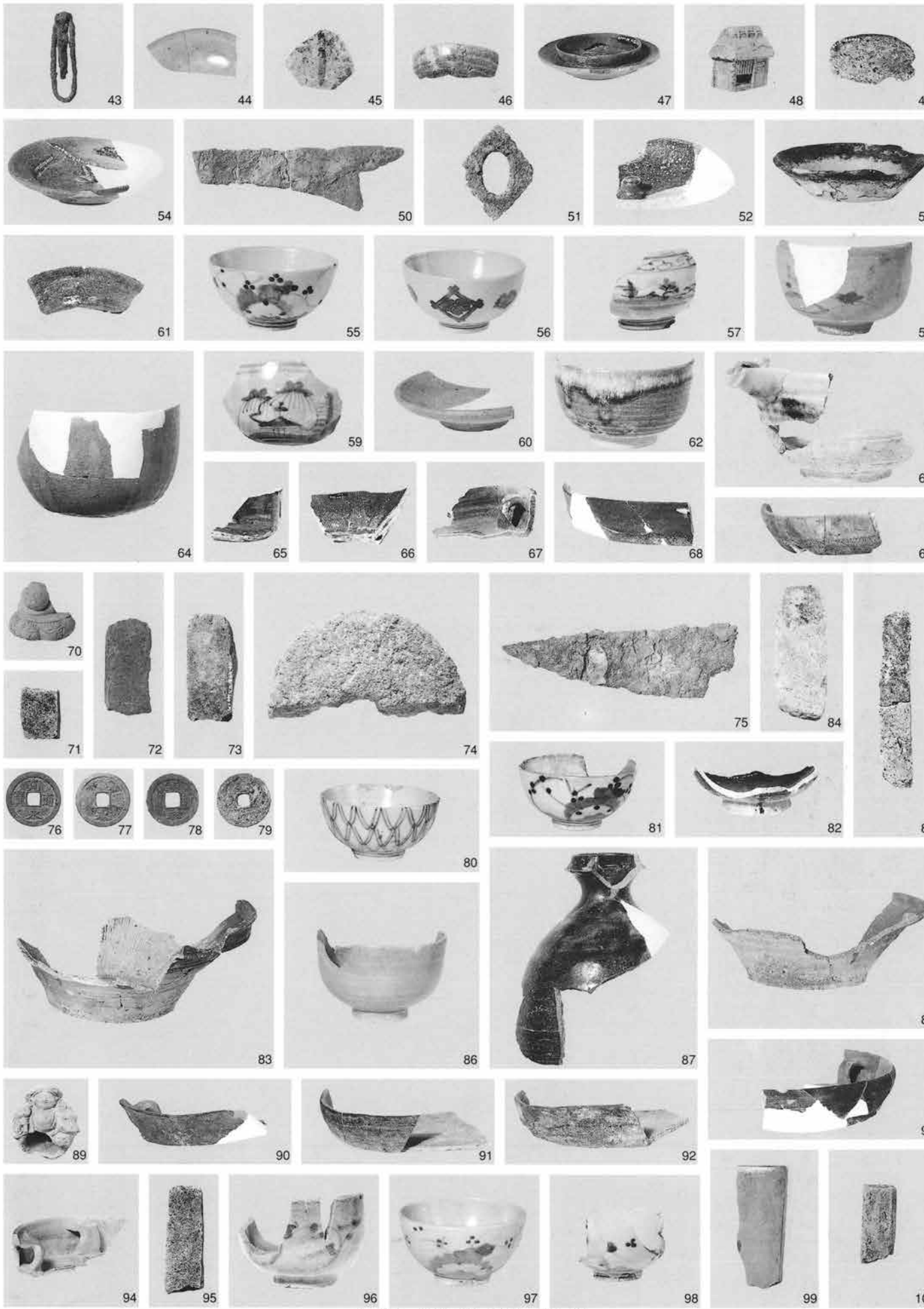


Ⅵ区　6号建物



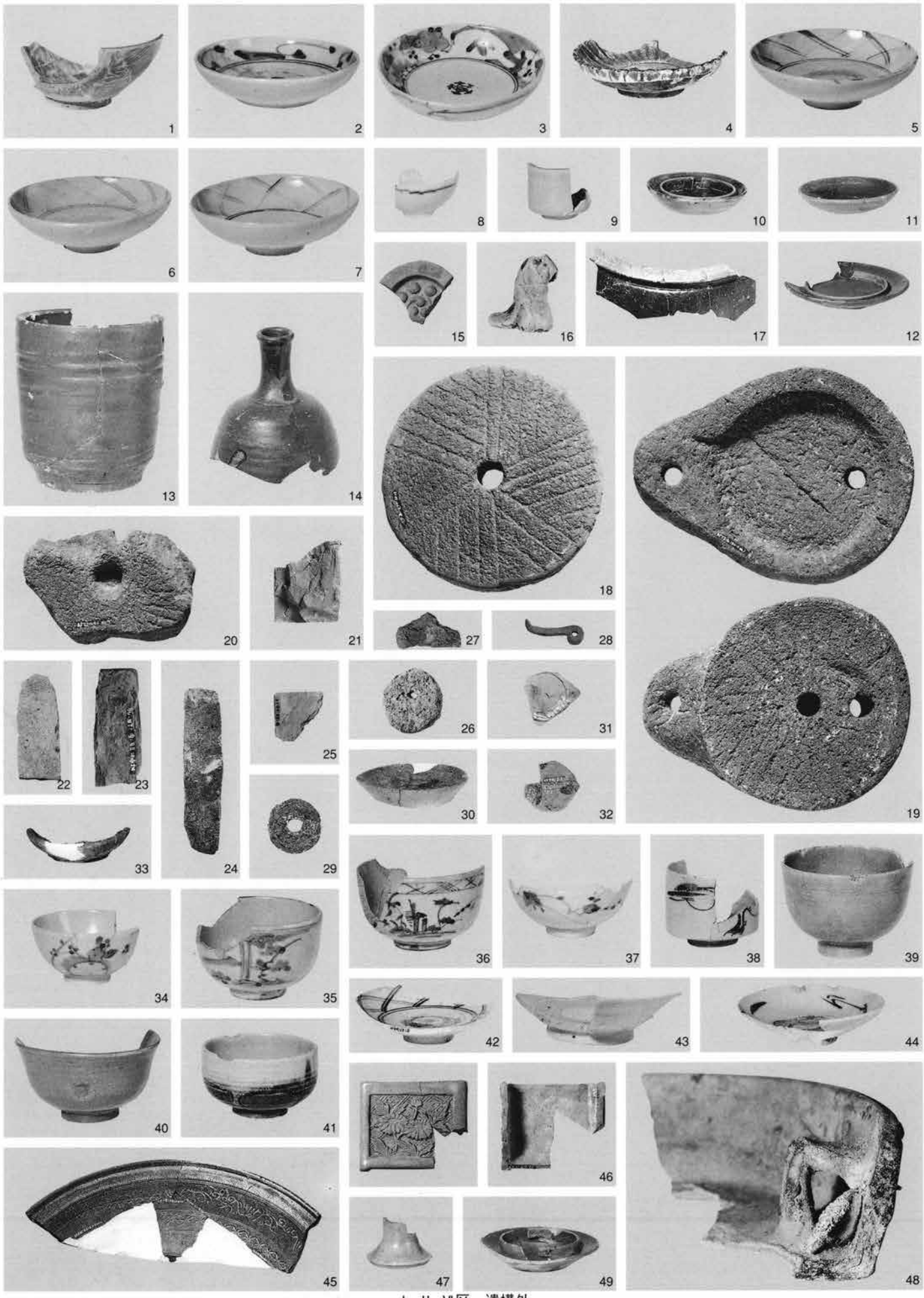


Ⅱ区　井戸・土坑・溝・土手・集石

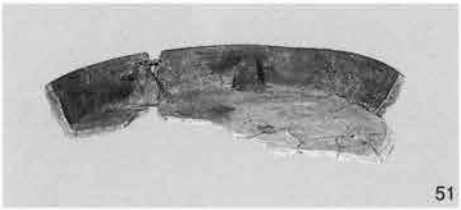


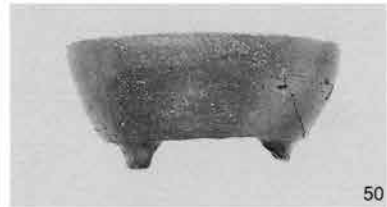
II・VI区　集石・列石・盛土・土手・畑

PL.72　1面出土遺物



I・II・VI区　遺構外


51


50

53

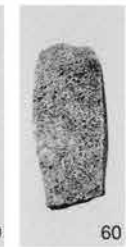
51

52

62

54

59


60

61

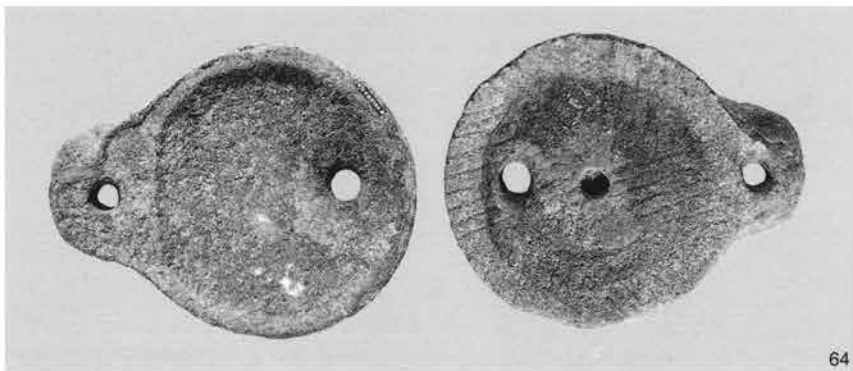
55

56

57

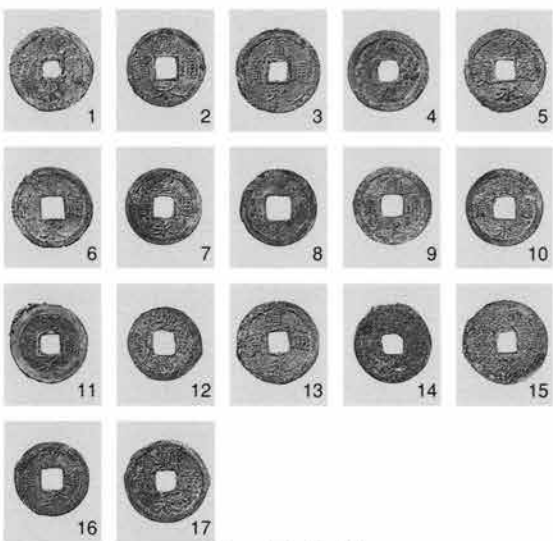
58

63


64

65

II・VI区　遺構外



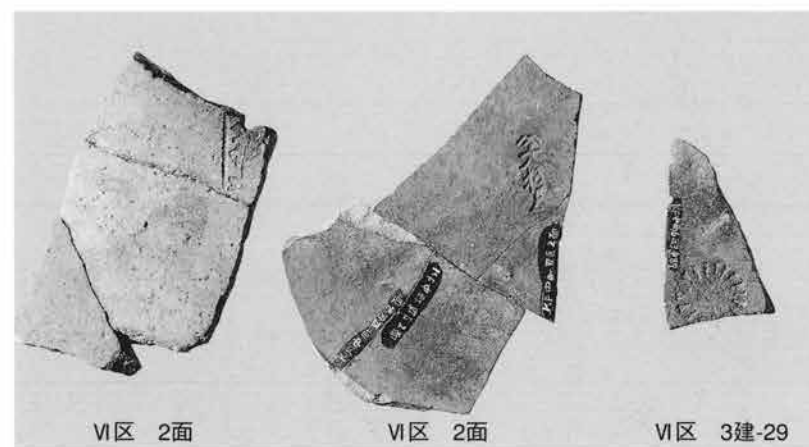
II区　0面1号土坑

II区　3面24号土坑

II区　3面37号土坑

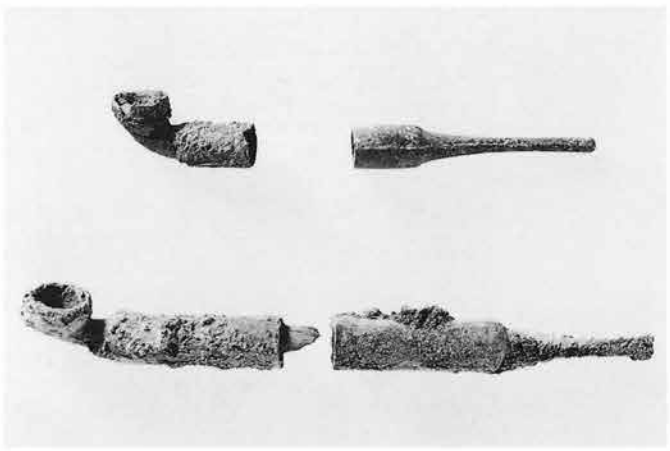
VI区　1面2号建物

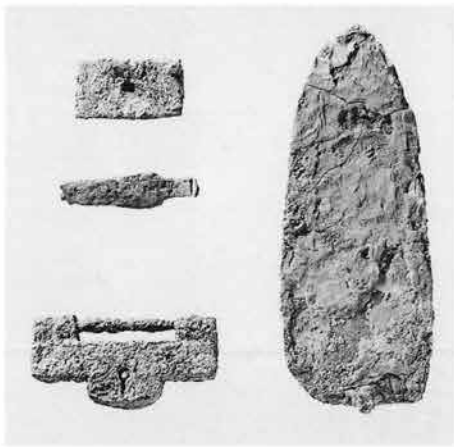
VI区　1面2号建物

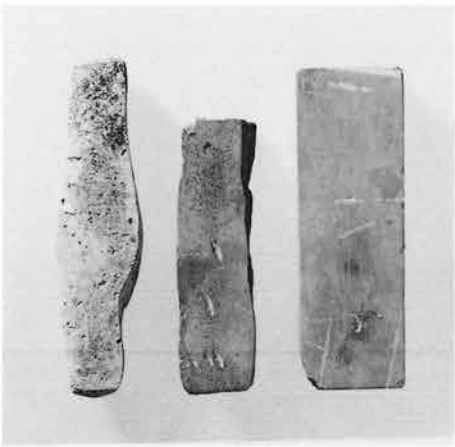

VI区　2面　　VI区　2面　　VI区　3建-29

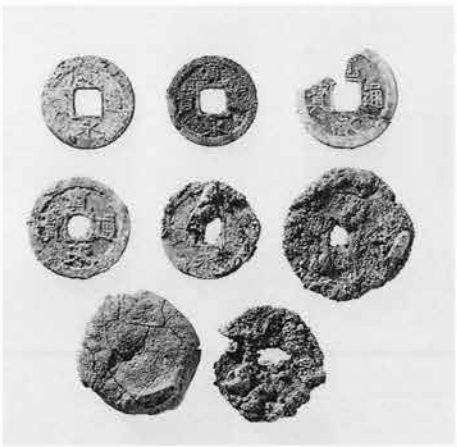
鍋底面の文字・菊花文印

PL.74　II区1面1号建物









II区　1号建物

II区　4号建物出土陶磁器

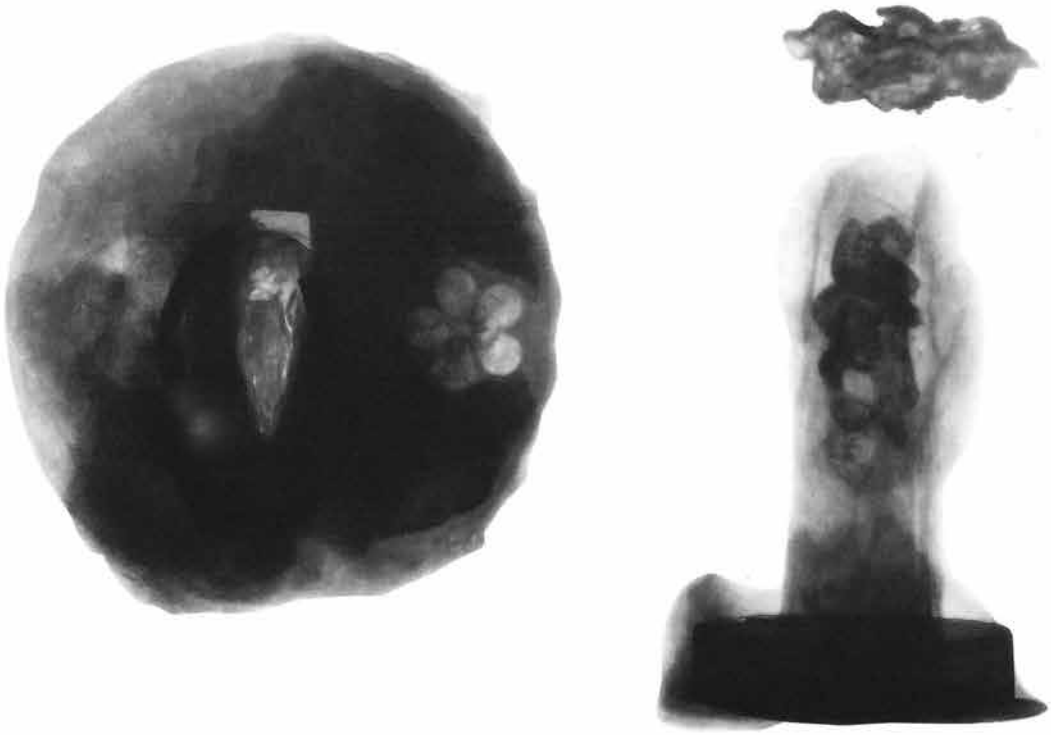
II区　6号建物出土陶磁器

PL.76　Ⅵ区1面1・2号建物跡出土陶磁器

Ⅵ区　1号建物出土陶磁器

Ⅵ区　2号建物出土陶磁器

Ⅵ区　3号建物出土陶磁器



Ⅵ区　2号建物-98　X線写真

報 告 書 抄 録

ふりがな	かみふくしまなかまちいせき
書名	上福島中町遺跡
副書名	一級河川利根川広域一般河川改修（局改）事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第318集
シリーズ名	
シリーズ番号	
編集者	小野和之・須田正久
編集機関	財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団
所在地	〒377-8555　群馬県勢多郡北橘村大字下箱田784－2　ＴＥＬ 0279－52－2511
発行年月日	2003年3月

所収遺跡名	所在地	コード		北緯 東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	事業コード				
かみふくしまなかまちいせき 上福島中町遺跡	群馬県佐波郡 玉村町上福島	10464	00803	36°18′40″ 139°7′46″	20010701～ 20021130	14,000m²	河川改修

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上福島中町遺跡	集落 生産	古墳時代 平安時代 中世 江戸時代	溝・土坑・竪穴住居畠・建物跡井戸・道・その他	土師器 陶恵器・土師器 陶磁器・鉄製品・石器 陶磁器・石器・鉄、銅製品 その他	天明3年(1783)、浅間山噴火に伴う泥流によって埋没した江戸時代後期の建物跡や井戸・便所・道・畑等および多量の生活具が出土している。

財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第318集

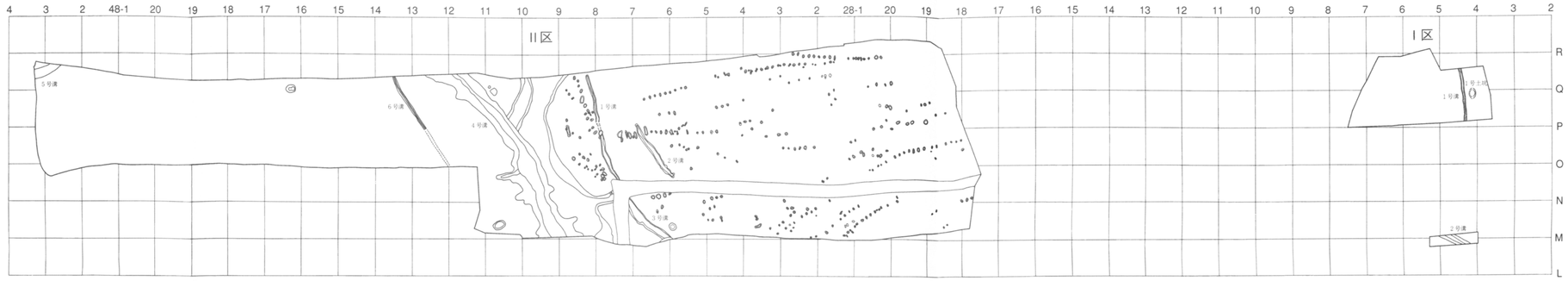
上福島中町遺跡

一級河川利根川広域一般河川改修(局改)事業
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

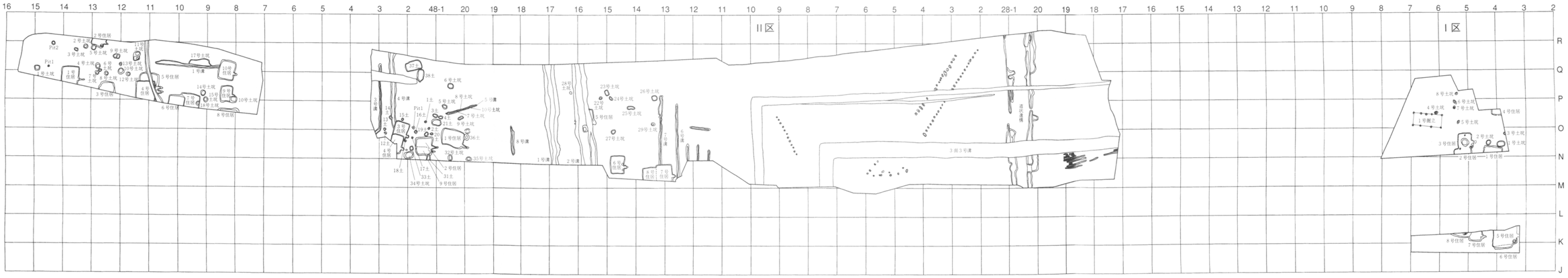
平成15年3月20日　印刷
平成15年3月25日　発行

編集／発行　財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団
〒377-8555　勢多郡北橘村大字下箱田784番地の2
電話　0279（52）2512（代表）
ホームページアドレス　http://www.gunmaibun.org
印刷／株式会社　開文社印刷所

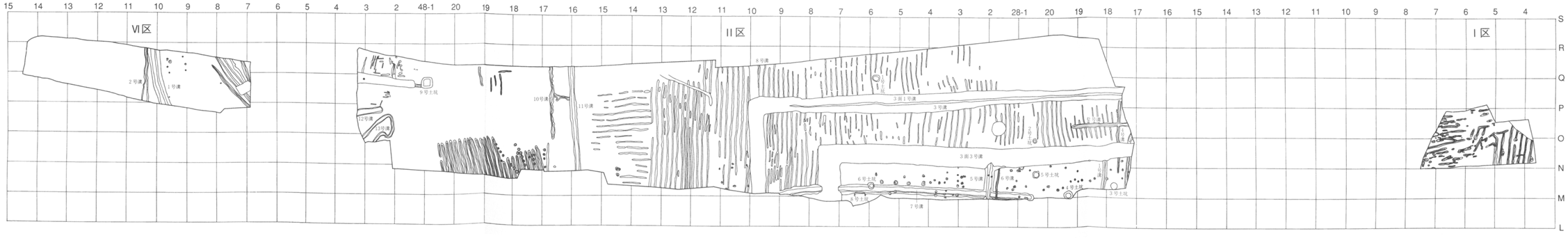
付図１　　上福島中町遺跡　全体図　1：400



6　面

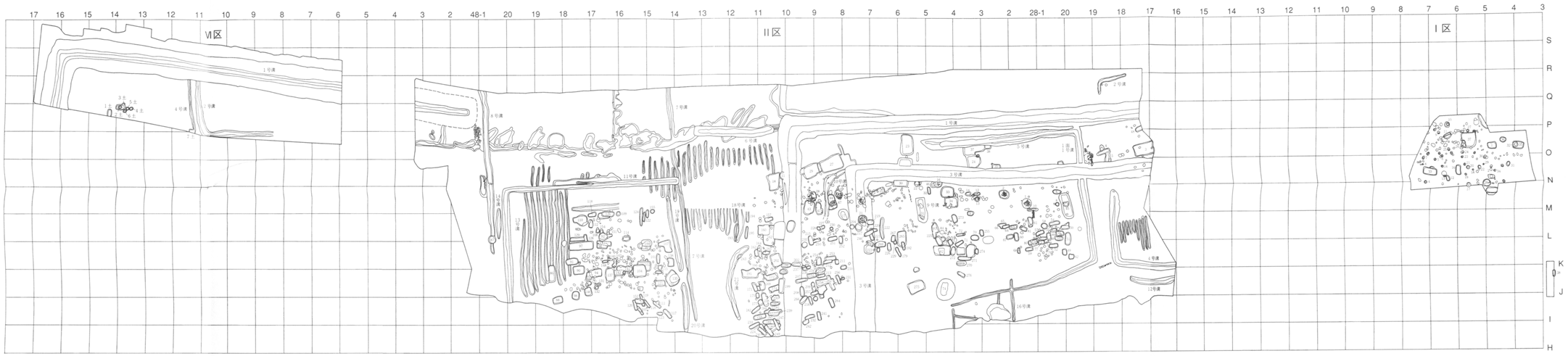


5　面

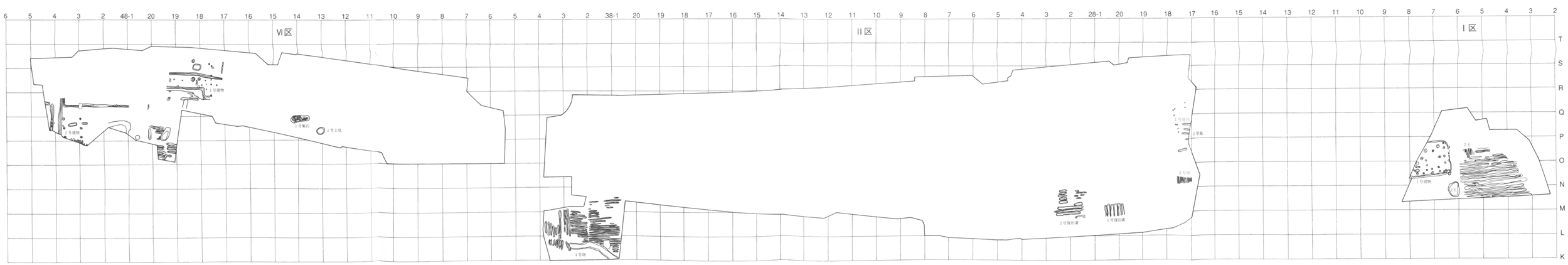


4　面

付図２　　上福島中町遺跡　全体図　1：400



3　面



2　面

付　図　3　　上福島中町遺跡　1面全体図　1：300